

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EB203
講義コード	1EC000900
講義名	経済成長論
担当者名	申 寅容
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	

科目的趣旨	経済成長は豊かさをもたらす重要な要素である。世界各国の所得水準を比較してみると、日本、アメリカのように豊かな国がある一方、貧しい国もある。豊かな国と貧しい国の1人当たりの所得や生活水準の格差は非常に大きい。この格差は経済学者の関心を引き起こし、近年広い範囲で研究が行われてきた。経済成長論では、豊かな国はどうして豊かで貧しい国はどうして貧しいのか、貧しい国は永遠に貧しいまま残されてしまうのか、どうすれば貧しい国は豊かになれるのか、などについて探求する。
授業の内容	経済成長と経済発展の基礎データを利用して国家間の成長の差異について学ぶ。また、経済成長の主要な決定要因や経済成長のためのさまざまな経済政策などについて理論的かつ実証的に学ぶ。理論モデルとして、ソローモデル、内生的成長モデルなどを取り扱う。かつ、実証分析のため、1人当たりGDP、資本ストック、投資、人口、人的資本、所得不平等度などのデータを用いる。また、経済成長に関する最新の論文や書籍などを紹介する予定である。Kumar and Russel (2002), Kruger (2003), Shin (2012), クルーグマン (1997)などを予定している。参考文献の詳細については、教科書・指定図書欄を参照のこと。
科目的到達目標 (理解のレベル)	経済成長と経済発展に関する様々な問題を発見し、解決するために必要な経済学の基本的な知識と分析ツールを身につける。所得と成長の国・別格差について理解し、その格差をもたらす生産要素の蓄積や生産性の格差などについて理解する。さらに、その生産要素の蓄積と生産性の格差の底にある、より深い決定要因について理解する。国家間の違いを理解し、国際社会の一員として、直面する課題に積極的に取り組み、解決する能力を身につける。
授業形態	講義
授業方法	通常は講師による講義形式での授業を行う。授業中に講師から受講者へ質問することが多い。対面授業(学生と教員が教室で向き合う授業)を原則とするが、新型コロナウィルスの感染状況、教育効果、ティーチングスキルの向上などを考慮した上で、zoomなどを利用したオンライン授業やハイブリッド授業を複数回取り入れることを予定している。オンライン授業やハイブリッド授業のスケジュールについてはmanabaに1週間前までに通知する。
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション 内容:ガイダンス、経済成長論のオバービュー</p> <p>【第2回】経済成長に関する諸事実 内容:所得水準の諸国間格差、各国間の所得成長率の相違、成長率、年平均成長率</p> <p>【第3回】購買力平価 内容:一物一価、為替レートと購買力平価、貿易財と非貿易財、バラッサ・サミュエルソン効果</p> <p>【第4回】分析のためのフレームワーク 内容:散布図と相関、因果関係</p> <p>【第5回】ソロー・モデル 内容:資本の性質、生産関数、規模に関して収穫一定、限界生産物、資本の限界生産物遞減、資本分配率</p> <p>【第6回】移行経路と定常状態 内容:資本蓄積方程式、減価償却、成長率</p> <p>【第7回】ソロー・モデルの応用 内容:投資率の変化、投資と貯蓄の関係</p> <p>【第8回】黄金律 内容:消費の最大化</p> <p>【第9回】マルサス・モデル 内容:マルサス罠、マルサス的均衡から脱出、マルサス・モデルの崩壊</p> <p>【第10回】人口と経済成長 内容:ソロー・モデルによる人口成長、人口成長の変化と成長</p> <p>【第11回】人口転換 内容:死亡率、死亡転換、死亡率の減少、出生率、出生転換、出生率の減少、後発性の利益、コンプレス転換、早期転換、多産多死、多産少死、少産少死、人口転換の内生化</p> <p>【第12回】将来の人口トレンド 内容:人口の予測、死亡率の予測、出生率の予測、人口モメンタム</p> <p>【第13回】高齢化と経済成長 内容:人口変化の経済的帰結、人口の高齢化、構成効果</p> <p>【第14回】人的資本(1) 基本モデル 内容:健康という形態の人的資本、教育という形態の人的資本、教育の収益</p> <p>【第15回】人的資本(2) 応用 内容:人的資本の配分比率、教育の質、外部効果</p>

	<p>【第16回】収束理論: 絶対収束と条件収束 内容: 定常状態、移行経路、収束、収束論争、絶対収束、条件収束</p> <p>【第17回】発展会計 内容: 生産性水準の格差、生産性格差の測定</p> <p>【第18回】成長会計 内容: 生産性の伸び率の格差、ソロー残差、全要素生産性</p> <p>【第19回】経済成長における技術の役割(1) 1国モデルのオーバービュー 内容: 技術進歩の性質、技術移転、技術の創出と成長の関係をモデル化、モデルの枠組みと諸前提</p> <p>【第20回】絏済成長における技術の役割(2) 1国モデルの応用 内容: 労働のR&Dへの移動効果、短期と長期</p> <p>【第21回】絏済成長における技術の役割(3) 2国モデルのオーバービュー 内容: 技術リーダーと技術フォロワー、モデルの枠組みと諸前提、技術開発費用</p> <p>【第22回】絏済成長における技術の役割(4) 2国モデルの応用 内容: 技術リーダー国とR&Dの増加、技術フォロワー国とR&Dの増加</p> <p>【第23回】内生的成長モデル 内容: モデルの枠組みと諸前提、一般的なケース</p> <p>【第24回】最先端技術 内容: 技術変化の速度、技術の生産関数、差異のある技術進歩</p> <p>【第25回】効率性 内容: 生産性分解、効率性の差、非効率性の形態</p> <p>【第26回】包絡線分析 内容: 包絡線分析、要因分解</p>
事前・事後学修	<ol style="list-style-type: none"> 授業の前に前回の授業内容やmanabaにあるマテリアル等を確認し、授業に臨むこと。 課題がある場合は、事前にmanabaに掲載するので、各自で取り組むこと。 課題は成績評価方法・基準の欄に示す通り、評価の10%を占める。 課題について、分からぬことがある場合は、授業中に質問、またはメールで問い合わせること。問い合わせの解説は課題提出の締め切り後に実施する。 余裕のある学生は教科書・指定図書の欄にある参考文献を読んでみること。
成績評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 経済成長論の基礎的な内容を理解しているかどうかを評価する。 総合試験(80%)、課題(10%)、平常点(10%)で評価する。 総合試験は1回のみ実施する。やむを得ず試験に欠席する場合は必要な手続きをとってください。 総合試験はオンラインで実施する予定である。 試験問題は選択式と記述式を併用する予定である。 試験問題や課題については、受講生の理解度や授業の進捗状況などを考慮し、出題する予定である。
教科書・指定図書	<p>教科書: 指定なし</p> <p>参考文献</p> <p>[1] Weil, D., 2012, Economic Growth, Prentice Hall, 第3版</p> <p>[2] Kumar, S. and Russel, R., 2002, Technological Change, Technological Catch-up, and Capital Deepening: Relative Contributions to Growth and Convergence, American Economic Review, Vol. 92, No. 3, pp.527–548.</p> <p>[3] Shin, I., 2012, Income inequality and economic growth, Economic Modelling, Vol. 29, Issue 5, pp. 2049–2057</p> <p>[4] クルーグマン, P., 1997, クルーグマンの 良い経済学 悪い経済学, 日本経済新聞出版</p>
履修上の留意点	ミクロ経済学、マクロ経済学、経済学基礎数学の知識が必要である。 グラフによる説明が多い。グラフを見て理解できること。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC208
講義コード	1ED000200
講義名	日本経済論
担当者名	茨木 秀行
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	日本経済全般の主要な部分について、検討を加える。近代の日本経済の発展の歴史を踏まえ、主として第二次大戦後の復興から高度成長を経て安定成長、低成長、継続的なデフレ傾向へと変化する過程を理解する。個別の分野にとらわれることなく、こうした中長期的な日本経済の推移、特徴及び課題を検討し、理解することによって、当面する問題とその解決策、今後の方針性を把握することも可能となる。
授業の内容	この授業では、日本経済の様々な分野における基本的な仕組みや事実関係を把握し、現実の経済社会や経済政策が直面している課題について理解を深めることに重点を置いて学習を行う。具体的な内容としては、まず、短期的な景気変動や物価動向、長期的な経済成長などマクロ経済の動向について、基本的な考え方やこれまでの動向について学習する。その上で、日本の産業構造の変化、貿易・投資を通じた企業活動のグローバル化、地球温暖化問題への対応など各論について、主要なポイントを学習する。さらに、人口の少子高齢化や所得格差などの視点を踏まえ、年金・医療・介護などの社会保障、財政・税制の所得分配機能や労働市場のあり方について、その仕組みや課題について学習する。
科目的到達目標 (理解のレベル)	日本のマクロ経済動向や産業の動向、及び主要な経済関連分野における政策課題を理解するための基本的な知識や視点を身に付ける。あわせて、経済に関する基本的な統計データ・資料の見方に馴れるとともに、日々のニュースや新聞・雑誌等の経済関連記事の内容を適切に理解し評価できる能力を身に付ける。これらの習得により、日本経済の課題について、問題の所在や解決策の方向性について、自分の意見を構築する能力を身に付ける。
授業形態	講義
授業方法	基本的に講義形式で授業を行う。授業スライドに基づき、各回で取り上げる課題について、基礎的な知識の解説、現状・動向・制度についての説明、関連する経済統計データや資料の見方の指導を行うとともに、現在直面している課題について、その背景や考え方を説明する。毎回の講義の最後に、質疑応答時間を設けるとともに、授業の理解度を測るために簡単な課題を課す。期末には学期全体を総括した復習と、理解が不足している点についての補足を行う。
授業計画	<p>【第1回】授業の進め方や授業を受けるにあたってのガイダンス、日本経済の課題</p> <p>【第2回】GDP統計からみた日本経済: GDP統計の概要、各主体別にみた経済活動</p> <p>【第3回】景気変動について: 景気変動の要因、主な景気循環の特徴</p> <p>【第4回】景気変動の読み方: 景気判断・予測、経済指標の見方</p> <p>【第5回】経済対策について: 財政の経済安定化機能</p> <p>【第6回】金融について: 金融の仕組みと機能、各経済主体の資金過不足</p> <p>【第7回】デフレ脱却: 物価の動向、デフレ脱却に向けた取組</p> <p>【第8回】経済成長について①: 経済成長のメカニズム、戦後の経済成長の推移</p> <p>【第9回】経済成長について②: バブル崩壊後の経済低迷とその背景、今後の展望</p> <p>【第10回】日本の産業構造: 日本の産業構造の変化、産業構造転換のメカニズム</p> <p>【第11回】日本企業の特徴: 日本企業の特徴とダイナミズム</p> <p>【第12回】経済のデジタル化: 経済のデジタル化の動きと経済への影響</p> <p>【第13回】総括: 学習内容の振り返りと質疑応答</p> <p>【第14回】企業活動のグローバル化: 貿易、海外投資・生産、貿易投資の自由化</p> <p>【第15回】国際収支と為替レート: 国際収支・為替レートの動向、経済への影響</p> <p>【第16回】地球温暖化と経済①: 地球温暖化とその影響、エネルギー消費の現状</p> <p>【第17回】地球温暖化と経済②: 脱炭素化に向けた取組と経済への影響</p> <p>【第18回】少子化・高齢化の現状と課題: 人口動態の変化、少子化の背景</p> <p>【第19回】所得格差: 所得格差の推移とその背景、課題</p> <p>【第20回】財政の所得再分配機能: 社会保障給付、税制、持続可能性</p> <p>【第21回】社会保障の仕組み①: 年金</p> <p>【第22回】社会保障の仕組み②: 医療・介護</p> <p>【第23回】日本の労働市場①: 雇用動向、賃金動向、日本の雇用の特徴</p> <p>【第24回】日本の労働市場②: 女性・高齢者の労働参加、働き方改革</p>

	<p>【第25回】人的資本投資:教育・訓練等の現状と課題</p> <p>【第26回】総括:学習内容の振り返りと質疑応答</p>
事前・事後学修	<p>事前学習:事前に授業スライドおよび関連資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。また、日ごろから、ニュースや新聞・雑誌等の経済記事に接し、経済の最近の動向を把握するよう努めること。</p> <p>事後学習:毎回の講義の内容については、参考文献等も活用しながら、各自でノートを作成するなど、整理を行うこと。</p>
成績評価方法・基準	毎回の講義で出される課題への取組や中間テストなど平常点50%、前期・後期の各期末テスト50% ただし、課題等への取組がほとんどなされない場合には、期末テストの成績によらず、成績評価の対象とならない場合がある。
教科書・指定図書	<p>教科書、指定図書は特に指定しないが、参考文献として、下記の図書を適宜参照されたい。</p> <p>大守隆編「日本経済読本第22版」東洋経済新報社、2021年、ISBN978-4-492-10037-0、2400円+税 小峰隆夫、村田啓子「最新日本経済入門第6版」日本評論社、2020年、ISBN978-4-535-55902-8、2500円+税 内閣府「経済財政白書」各年版 https://www5.cao.go.jp/keizai3/whitepaper.html</p>
履修上の留意点	授業スライドの閲覧や毎回の課題への取組等のためには、パソコンやタブレット端末などを用意することが望ましい この講義は、経済学の初学者でも履修可能なように構成されているが、講義の内容には、基礎的なマクロ経済学やミクロ経済学の考え方とその応用が含まれる。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC202
講義コード	1ED000400
講義名	財政学
担当者名	臼井 邦彦
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	資本主義経済は市場経済システムと公経済(財政)システムがクルマの両輪のように互いに補完しあいながら機能する混合経済システムであるが、このうちの公経済システムについて学ぶのが財政学である。ひとくちに財政学といってもその範囲は広く、この講義は「財政学総論」にある。このほか、「租税論」、「財政政策」が用意されているので、それらも併せて受講することで公経済を深く広く理解することができる。
授業の内容	現在、先進資本主義諸国で最も大きな経済問題は、肥大化する公共部門をいかにして縮小化し、効率化するかということである。我が国は今日ほど財政に対する国民の関心が強くなっている時代はないであろう。リーマンショック後のデフレと財政状況の悪化の中で東日本大震災と原子力発電所の事故が起こり、さらなる財政悪化を招いた。この20年数年、財政収入に占める公債依存度が30~40%に達し、消費税をはじめとする諸税の増税が差し迫っている。震災の復興はまだ進んでいないし、原子力発電所の事故の処理はまだ済んでいない。そして年金の支給開始年齢の引き上げが目前に迫っている。国際的には、ギリシャやイタリアの財政悪化がユーロの下落を招こうとしており、中国のバブル崩壊も危ぶまれている。このような状況の中で、我々はどのように考え、判断するべきであろうか。本講義は常に現実経済の状況に触れることにより、財政の理論と現実を結び付けて授業を進める。内容は、財政の正体と財政の存在意義、市場の失敗と財政の機能、公共サービスの費用負担と能力説、公共サービスの最適供給と利益説、集合的意見決定と注意投票者の理論、政府経費の現状と動向、転移効果の理論、補整的財政政策、ケインズ的財政政策の有効性、公債負担論、租税の理論を範囲とする。
科目の到達目標 (理解のレベル)	大学卒業程度の国家公務員採用試験・地方公務員採用試験および経済学検定試験に出題される財政学の問題に対応できるレベルの知識の修得目標とする。
授業形態	講義
授業方法	毎回、manabaに授業内容の資料を配信するので、春学期・秋学期とも、その資料を通じて授業を行う。与えられた課題について、manabaを通じて提出すること。
授業計画	<p>春学期</p> <p>【第1回】 わが国の財政状況(1)—令和2年度予算・国民負担率・公債依存度 我々の財政を取り巻く状況について考える。manabaの資料「日本の財政を考える」(財務省ホームページ)</p> <p>【第2回】 財政の定義と民間経済との異同点 我々が1年間学ぶ財政学が対象とする財政とはどういうものなのか。財政の本質を民間経済の本質と比較して理解する。manabaレジュメ第1章。</p> <p>【第3回】 財政の存在意義 純粋市場経済体制と純粹計画経済体制の長所と短所を突き合わせると、必然的に、混合経済体制の下で「市場の失敗」の補正から必然的に財政の存在意義(財政の役割)が生じてくることを学ぶ。manabaレジュメ第2章。</p> <p>【第4回】 政府が供給すべき財サービスの概念(アランの所説) 財政の役割の中で最も固有の役割は市場ではまったく供給できない、または供給しても供給不足が生ずる特定の財サービスを供給することである。この財サービスの概念を英国の経済学者チャールズ・M・アランの説明で学ぶ。manabaレジュメ第3章。</p> <p>【第5回】 特定の財サービスの概念(サムエルソン、マスグレイヴ、ブキャナンの所説) 3人の著名な経済学者によるいわゆる公共財の概念を見ていく。異同点をしっかりと理解すること。manabaレジュメ第4章。</p> <p>【第6回】 特定の財サービスの費用調達方法 ブキャナンの所説に基づいて進める。集合財、準集合財、公的に供給される可分財の費用調達の一般原則を学んだ後、可分財を政府が供給する理由と具体例について学ぶ。manabaレジュメ第5章。</p> <p>【第7回】 集合財の費用調達方法 集合財の性質を整理すると租税による公費負担方式でコストを調達せざるを得ない。そこで、公平な租税負担配分原理の選択が問題になる。そのアウトラインを見ていいく。manabaレジュメ第6章。</p> <p>【第8回】 懇意説の概念と限界 新しい能力説としての懇意説は累進課税を定式化するために考案されたものである。代表的な3つの学説を学ぶ。manabaレジュメ第7章。</p> <p>【第9回】 利益説の概念と限界 リンドールメカニズムには、リンドールモデル、ボウエンモデル、サムエルソンモデルとあり、政府支出と公平な租税負担を同時決定し得るという長所正直な選好表明に依存するという致命的な欠陥があるため、現実には採用されなかった。manabaレジュメ第8章。</p> <p>【第10回】 懇意説と利益説の比較検討 新しい能力説としての懇意説と新しい利益説としての比較をすると、懇意説は基数的効用関数を前提としており、現代経済学では受け入れがたいが、新しい利益説としてのリンドールメカニズムは理論的はずぐれているも、個々人の正直な選好表明を前提としているという致命的な欠陥がある。manabaレジュメ第9章。</p> <p>【第11回】 中位投票者の理論 民主主義社会の政治的意見決定である多數決投票において、個々人は正直な選好表明をする。矛盾のない選好である単峰型選好のもとでは中間案が支配的になる。中間案を前提としていろいろな政策を決定することができる。manabaレジュメ第10章。</p> <p>【第12回】 政府の貸借対照表(B/S) 複式簿記の資産、負債、資本の原理と貸借対照表のメカニズムを説明し、我が国政府の貸借対照表の作成を試みて、政府会計の事実の究明を試みる。</p> <p>【第13回】 日本銀行の貸借対照表との統合(連結貸借対照表) 日本銀行は日本政府が100%出資の子会社であり、日銀の利潤は政府会計に日銀納付金として繰り入れられるので、日銀保有の国債の利払いは相殺される。このようなメカニズムを理解してから、我が国政府の財政赤字問題の検討を試みる。</p> <p>秋学期</p> <p>【第14回】政府経費の現状 前回の我が国政府の財政赤字問題の切り口を復習し、特殊法人会計の実態の解明を試みる。いわゆる埋蔵金問題である。また、独立行政法人</p>

	<p>がいかに非効率的な組織体であるかについても光を照らしたい。</p> <p>【第15回】経費膨張の法則とそれを証明する理論 アドルフ・ワグナーが19世紀後半に問題提起した経費膨張の法則は、20世紀前半に多くの経済学者によってその存在の証明が試みられた。それらのアプローチを紹介していく。</p> <p>【第16回】転位効果の理論 英国における経費膨張の法則の存在の証明の過程でピーコックとワイズマンにより見出された転移効果の理論は財政学の分野では有名な理論なので、理解するだけの価値が大きい。</p> <p>【第17回】民主主義的政治制度とケインズ的財政政策 合衆国において経費膨張の法則の存在を証明しようとしていたブキヤナンは、民主主義的政治制度の下でケインズ的な財政政策を取り入れると経費膨張が生ずるという仮説を唱えた。ブキヤナンは非効率的な民主主義的政治過程に経済学的手法を取り入れ、公共選択学派というスクールを形成し、ノーベル賞を受賞した。ブキヤナンの主張を紹介する。</p> <p>【第18回】政府の肥大化と財政赤字のバイアス 経済の状況が不況のときの処方箋がケインズの政府支出>税収という赤字予算で、その財源は公債であったが、これは人々の公共サービスに対する値下りの意識をもたらし、経済の状況が好況のときにも人々が赤字予算を要求する原因ともなり、それにより、赤字予算を人々が絶えず要求する結果として、政府の肥大化傾向が続き、経費膨張を招くというブキヤナンの主張である。</p> <p>【第19回】経費膨張の制度的原因と歴史 ブキヤナンは経費膨張をもたす制度的原因があり、それらに対する財政的歴史についても言及している。たとえば、直接税制度中心の税制、増分方式による予算編成、なかでもとくにケインズ的財政政策や公債発行制度など。これらに対する歴史としては、間接税中心の税制への転換、減分方式による予算編成、均衡財政への転換、憲法に公債発行禁止の条項を規定することなどがある。</p> <p>【第20回】公債負担論 公債負担論にはモジリアーニの将来世代への負担の転嫁、リカードの等価定理など、いろいろあるが、主なものを紹介する。とくに、公債発行が良いとされる条件が経済成長率が利子率よりも高いことということに注意が必要である。</p> <p>【第21回】租税の定義 租税の定義は租税論の授業でなされるので、必要最小限の定義を行う。</p> <p>【第22回】租税の分類 租税の分類についても、租税論の授業でなされるので、必要最小限の分類を行う。</p> <p>【第23回】租税の効果分析 間接税を用いた余剰分析を用いて、租税の転嫁と関連付けて、おもに、余剰の損失の観点から分析を行う。</p> <p>【第24回】租税原則 租税原則は既存の租税に変更を加えるか新しく租税を課すに際して依拠しなければならない原理原則であるが、現代の租税原則として、ステイグリツとマスグレイヴによる望ましい税の条件からいくつかの租税原則を紹介する。</p> <p>【第25回】国際的租税原則 国際的経済活動が活発になっている現在、国境をまたがる経済活動に対する租税原則が必要になっている。古典的な公平性の原則と中立性の原則を紹介してから、最近のBEPsに触れていくつもりである。</p> <p>【第26回】OECDのBEPs 多国籍企業の経済活動に対して、近年、OECDが作成し公表したBEPsを紹介する。税源流出を防ぐためのルールである。</p>
事前・事後学修	事前には、授業で予告したテーマについて、参考書や新聞やインターネットなどでイメージを抱いているとよい。事後には、配布プリントに基づいて、良く復習すること。
成績評価方法・基準	① 春学期 提出された課題50% ② 秋学期 平常点(授業で数回課すレポート)15%、学期末の課題レポート35%
教科書・指定図書	教科書:なし 参考文献 『図説 日本の財政(各年度版)』東洋経済新報社。 J.E.ステイグリツ著/葛下訳『公共経済学[第2版](上・下)』東洋経済新報社
履修上の留意点	毎回遅れずに必ず出席し、きちんとノートをとるとともに、授業内容に集中し、必ずその日のうちに復習に努めること。
更新日	

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC203
講義コード	1ED000500
講義名	社会保障論
担当者名	権丈 英子
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目的趣旨	公的年金・医療保険・介護保険等の社会保険制度、および生活保護・児童福祉などの福祉政策について、その概要を講義する。人口の高齢化にともない、社会保険制度は多くの注目を集めようになつた。公的年金は確実に支給されるのか？上昇していく高齢者の医療費をどのようにまかなくていいらしいのか？医療費の自己負担を上げることで、われわれの暮らしにはどのような影響があるのか？この授業では、経済学の考え方を使うとこのような問題についてどのように考えるのか、について学習する。
授業の内容	社会保険の機能および日本の制度に関する概略を学んだのち、社会保険にとって重要な高齢化・少子化等の人口構造の変化やその要因について学ぶ。その後、社会保険を構成する様々な制度（すなわち、子育て支援（家族政策）、公的年金（制度や経済や雇用との関わり）、医療保障（医療保険や医療提供体制）、介護保障（介護保険等）、公的扶助（生活保護）、雇用対策（雇用保険や非正規雇用の問題への対応）、障害者福祉など）について、それぞれの制度の意義、現状、そして改革の論点を考察する。 主に、日本の制度について講義していくが、折に触れて、類似の問題を抱える他の先進国の例を紹介して国際比較を行うことで、理解が深まるようとする。
科目的到達目標 (理解のレベル)	①社会保険に関して経済学的視点でとらえることができる。 ②日本の人口構造の変化やその要因について説明することができる。 ③日本の社会保険の各制度（公的年金、医療保障、介護保障、公的扶助、雇用保険、社会福祉等）の意義と仕組みを説明することができる。 ④日本の社会保険に関する歴史的な経緯や国際比較から見た特徴を説明することができる。 ⑤日本の社会保険に関する課題を理解し、現在行われている議論について自分の考えを持つことができる。
授業形態	講義
授業方法	講義形式で行う。responを活用するなどして、できるだけ受講生に意見を出してもらい、双方向型の要素を取り入れる。また、授業の最後にmanabaを通じて授業内容に関する小テスト（確認問題）を行う。
授業計画	<p>【第1回】社会保険とは？ この講義の進め方、社会保険とは？ 日本の社会保険の大きさ</p> <p>【第2回】人口構造の変化 人口の将来予測、人口高齢化の要因、戦後日本の出生率の動向</p> <p>【第3回】出生率と出産タイミング 出生率指標、結婚の変化、出生率と出産タイミング</p> <p>【第4回】少子化の経済分析 子供を持つことの費用と便益、少子化はなぜ起こるのか？</p> <p>【第5回】少子化への政策対応 日本の少子化対策の歴史、働く女性が増えると出生率は下がるのか？</p> <p>【第6回】日本と欧米の子育て支援策 福祉国家の3類型と子育て支援策（家族政策）</p> <p>【第7回】高齢者の生活保障 高齢者世帯の所得、公的年金の役割</p> <p>【第8回】公的年金制度の概要 保険の仕組みと社会保険、公的年金制度の概要</p> <p>【第9回】公的年金の歴史 公的年金制度の歴史、2004年年金改革</p> <p>【第10回】公的年金制度の改革 2019年財政検証、被用者保険の適用拡大</p> <p>【第11回】高齢期雇用と年金 女性と年金、Work Longerへの施策</p> <p>【第12回】日本の医療の特徴は？ 日本の医療を評価する、公的医療保険制度の仕組みと歴史</p> <p>【第13回】医療サービスの特性 医療サービスの特徴と医療需要、社会サービスにおける公私の役割を考える</p> <p>【第14回】医療サービスの価格 医療サービス費用の支払い方式、診療報酬の仕組み</p> <p>【第15回】医療提供体制 日本の医療提供体制の特徴、現在行われている改革</p> <p>【第16回】医療制度の課題と医師の働き方改革 コロナ下の医療制度の課題と議論、医師の働き方改革</p> <p>【第17回】介護保険制度の成立 高齢者保健医療政策の流れと介護保険の成立</p> <p>【第18回】介護保険制度の現状と課題 介護保険制度の概要、介護保険の利用状況</p> <p>【第19回】日本の介護保障の課題 介護人材、認知症ケア</p> <p>【第20回】生活保護制度の概要 生活保護制度の概要、生活保護の利用状況</p> <p>【第21回】公的扶助のあり方と自立支援 公的扶助の給付のあり方とは？ 生活困窮者自立支援制度</p> <p>【第22回】雇用対策とフレキシビリティ リーマンショックとコロナ下の非正規雇用、フレキシビリティ（柔軟性と保障）</p> <p>【第23回】雇用保険制度の概要 雇用調整助成金、失業給付、求職者支援制度</p>

	<p>【第24回】障害者福祉の概要 日本の障害者数、障害者福祉に関する思想と歴史</p> <p>【第25回】障害者福祉改革と障害者雇用 最近の障害者福祉改革、障害者雇用</p> <p>【第26回】社会保障財政とまとめ 社会保障を財政面から考える、これまでのまとめ</p>
事前・事後学修	事前にmanabaを通じて資料を配布するので、授業前にある程度目を通しておくこと。授業終了後は、授業ノート(資料)をふり返り、参考資料もよく読んでおくこと。確認問題は事後学修にも活用してほしい。 社会保障は、新聞・雑誌等でも毎日のように取り上げられるテーマとなっている。そうした関連記事に 관심を持って目を通すようにしてほしい。
成績評価方法・基準	定期試験50%、平常点50%とする。 定期試験50%は、春学期25%、秋学期25%。 平常点50%は、小テスト40%、responの質問への回答10%。
教科書・指定図書	(指定図書) ・権丈善一・権丈英子『もっと気になる社会保障』勁草書房 ・権丈善一『ちょっと気になる社会保障v3』勁草書房 ・権丈善一『ちょっと気になる医療と介護(増補版)』勁草書房 ・権丈英子『ちょっと気になる「働き方」の話』勁草書房 (参考文献) ・厚生労働省『厚生労働白書』ぎょうせい ・Nicholas Barr, <i>Economics of the Welfare State</i> , Oxford UP.
履修上の留意点	1. manabaを通じて資料配付や課題提出を行う。 2. 1回目の授業前にmanabaを確認のこと。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC217
講義コード	1ED000700
講義名	環境経済学
担当者名	信澤 由之
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目的趣旨	環境問題を考察するアプローチにはいくつか種類はあるが、この科目では経済学の視点から環境問題について考察する。主に①地球環境問題がどうして発生したのか、②この問題を解決するためにはどのような考え方や方法があるのか、③環境負荷の少ない経済システムにするにはどのような方法があるのか、④私たちの生活はどうあるべきなのかなどについて焦点を当てる。この科目では、環境問題の現状の紹介、環境問題と密接に関係のある公共財や外部性の復習、様々な環境評価法についての紹介、環境政策における経済的手段と非経済的手段との比較、欧米の環境政策の制度と経験、資源問題、ゼロ・エミッションと企業の取り組み、持続可能な発展への課題、等が含まれる。
授業の内容	春学期は、環境破壊の現状と、環境破壊のメカニズムを把握した上で、地球環境問題と経済学の関係について、市場の失敗を中心に生活環境問題と、エネルギー問題、地球環境問題について取り上げ、環境問題をベースに外部不経済だけでなく、独占の問題や、外部経済、公共財、情報の非対称性に関する事例を用いて考える。また、環境政策として外部不経済の内部化、すなわち環境負荷軽減を目的とした政策手法の規制的手法と経済的手法を理論的に把握する。 秋学期には、廃棄物問題と資源問題、環境技術を普及策を把握した上で、経済学の視点から分析する。SDGsの観点から環境問題と貧困や福祉、教育、つくる責任とつかう責任についても取り上げる。授業を通じて、世代間の問題と南北問題の視点から地球環境問題や公害問題、身近な環境問題を取り上げ、持続可能な開発実現に向けた取り組みについても考える。
科目的到達目標 (理解のレベル)	春学期の到達目標は、履修生が、環境破壊のメカニズムを経済学的に理解し、市場の失敗と環境問題の関係について説明できるようにすることを目標とする。秋学期の到達目標は、SDGs及び環境問題に用いる政策手法を経済学的に理解し、廃棄物問題と資源問題、環境技術を普及策を把握した上で、持続可能な開発実現に向けた取り組みを考えられるようにしていく。環境経済学では、「環境意識」を持ち、地球環境問題や公害問題、身近な環境問題を通じて問題提起し、考える力を養うことを目指していく。
授業形態	講義
授業方法	毎回、パワーポイントの配布資料を用いて講義する。資料は、箇条書きのため講義の内容をメモし、文章にするようにしてください。また、環境問題に関する最新の情報を提供するため追加資料や、環境問題の理解度を高めるため映像資料を用いることもあります。 配布資料は、1週間前にmanabaを用いて毎回公開する。講義には、必ず、配布資料を持参してください。 質問は、メールで受け付けます。同一内容の質問が複数ある場合や、重要な内容は、次回講義で補足します。
授業計画	(春学期) 第1回 ガイダンス／環境破壊の現状—9つの地球環境問題とは何か、その問題がもたらす影響は何かを考える 第2回 環境破壊のメカニズム—環境はどうにして破壊されるのか、公害や地球環境問題、生活環境問題について事例を用いて考える 第3回 環境に関する費用—環境問題を被害及び抑制と防止する費用についてミクロ経済学の理論を用いて考える 第4回 市場メカニズムと市場の失敗—市場は万能なのか、市場が失敗する場合、どのようなケースがあるのか、事例を用いて考える 第5回 市場の失敗と環境問題1—外部不経済と情報の非対称性から環境問題を考える 第6回 地球温暖化とエネルギー資源—エネルギーと温暖化の関係と、自然エネルギーによる温暖化政策について考える 第7回 市場の失敗と環境問題2—再生可能エネルギー固定価格買取制度について独占の視点から制度上の問題を考える 第8回 日本の原子力政策—日本の原子力政策の経緯と、福島第一原発事故後、叫ばれるようになった「原発ゼロ」は実現可能か？それを可能にするための方法を考える 第9回 市場の失敗と環境問題3—地球公共財とグローバルコモンズについて、コモンズの悲劇から考える 第10回 放射性廃棄物の処分について—10万年後の安全な処分方法とは何か、使用済み核燃料の処分について世代間の問題から考える 第11回 外部不経済の理論的考察—環境問題をミクロ経済学の理論を用いて考える 第12回 環境汚染の責任と費用負担—環境汚染の費用は誰が負担するのか？汚染者負担原則を中心と考える 第13回 外部不経済の内部化のための方法—外部不経済を発生させないための規制的手法と経済的手法の理論的に考察する (秋学期) 第14回 SDGsについて—持続可能な開発と17の目標とは何か？環境問題と関連する内容を取り上げ、実現可能性を考える 第15回 公害問題による健康被害—世界の水俣病問題と水俣条約で何が変わったのか、日本における水銀リサイクルの問題と水銀の処分について考える 第16回 コモンズの悲劇と資源問題—資源は、誰のものか？水及び生物を例に考える 第17回 廃棄物問題とその責任—ごみと環境問題、その責任は誰にあるのか、廃棄物政策の原則からかんがえる 第18回 家庭ごみ削減施策—家庭ごみ有料化と併用施策について、その効果を理論的に考える 第19回 先進国における食品ロス問題—食品ロスは何が問題か？先進国と途上国の問題とは？食品系廃棄物と貧困問題の関係やフードバン

	<p>クから環境と福祉の関係について考える</p> <p>第20回 廉プラスチックとマイクロプラスチック汚染問題—マイクロプラスチックによる汚染とは何か、プラスチック削減策としての容器包装リサイクル法とレジ袋有料化の効果について考える</p> <p>第21回 産業廃棄物削減策—先進的な企業のゼロエミッション対策と税を用いた産業廃棄物の流入を防ぐための自治体の取り組みとその効果について考える</p> <p>第22回 循環型社会とSDGs—ごみ減量、リサイクル活動における環境教育と障がい者福祉の観点から考える</p> <p>第23回 ヒートアイランド現象とその政策—都市の温暖化と都市の街づくり政策について経済的手法と自主的取り組みの事例から考える</p> <p>第24回 森林保全と森林環境税—日本の林業はなぜ衰退したのか、森林を守る方法として森林環境税など事例を用いて考える</p> <p>第25回 野生生物の減少と生物多様性保全—生物を守ることと、生物多様性保全の意義について考える</p> <p>第26回 途上国における環境問題—貧困が、途上国の環境破壊をどのようにしてたらしているのか？先進国との関係は何か？先進国ができるることを考える</p> <p>※環境問題を扱うため授業計画は予定であり、変更することがあります。また、積極的に最新の情報や事例を取り入れていきます。</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ① 配布資料の中で、理解できなかった用語等は調べて整理しておくこと ② シラバスで取り上げている個々の環境問題について、どのような政策あるいは、対策を実施することが望ましいか、自分自身の考えをまとめておくこと ③ 普段から新聞や雑誌などを読み、各自で最新の環境問題について調べること ④ 配布資料・映像資料などの内容をベースに整理し、文章化し、その内容を理解し、説明できるようにしておくこと ⑤ 配布資料の内容を、文章に整理すること ⑥ 小テストの問題を配布資料から復習しておくこと <p>大学設置基準では、1単位修得に必要な時間数は45時間と定められています。事前・事後学習は、「科目の到達目標(理解のレベル)」を達成するために、しっかりと取り組んでください。分からないことがある場合は、メールで問い合わせてください。</p>
成績評価方法・基準	<p>成績の評価方法は、春学期と秋学期に実施する期末試験(論述式)と小テストなど(論述式等)で、評価します。期末試験では、講義内容の理解度と、環境意識や問題提起とその解決のための考える力を評価します。小テストなどについては、事前・事後学習で配布資料や映像資料を文章にしているかを把握し、その内容を理解しているかを評価していきます。</p> <p>成績の評価基準は、 春学期・秋学期の各期末試験=70% 春学期・秋学期の各小テストなど=30% とします。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書: 使用しない。</p> <p>参考書: 質問があれば、その都度助言する。</p>
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ① 関連する科目として、ミクロ経済学・公共経済学がある ② 配布資料や映像資料の内容を整理し、文章にまとめる ③ ②でまとめた文章を理解する ④ 補足として、ミクロ経済学、公共経済学、環境経済学、環境問題、エネルギー問題、資源問題、廃棄物問題など授業に関連する本を読み、理解を深める
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC212
講義コード	1ED000800
講義名	金融政策
担当者名	加藤 涼
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	近年、わが国においては金融の自由化、国際化、機械化の進展による金融環境の変化が著しい。本講義では、金融環境の変化が金融政策に及ぼす影響および新しい金融環境の下での政策課題について分析する。金融のグローバリゼーションの時代を迎えて、国内事情に注目しつつも世界的視野に立った金融政策の発動が求められている。また、金融の不安定性の増加とともに、決済システムを中心とした金融システムの再構築が重要な政策課題となりつつある。このような現代の金融政策をめぐる諸問題を包括的に検討していく予定である。
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、第一に「マクロ経済学II(必修)」で学習した金融政策の役割、マクロ経済との関係を復習つつ、伝統的な金融政策の理論的フレームワークを理解することから始める。 ・第二に、日本銀行の近年の実際の金融政策の運営を学び、上述の教科書的な理解に照らして、政策の意図や評価を行う。 ・第三に、日本銀行による金融政策の実務的な側面を学び、日本経済における金融政策の位置づけとその効果を概観する。 ・第四に、1990年代以降の日本の金融政策の歴史を学び、非伝統的政策の機能や導入経緯について学ぶ。 ・第五に、為替レートや国際資本フローとの関係を中心に金融政策のグローバルな側面について学ぶ。 ・第六に、金融政策のもう一つの目標である「金融システムの安定」について概観し、この副次的な目標を達成するための金融政策の取り組みについて学ぶ。
科目的到達目標 (理解のレベル)	第一段階として、金融市場やマクロ経済の様々な動きを理解するうえで、金融政策の効果や役割が起点となっている経済事象が多いため、金融政策に関する知識が重要であることを認識すること。 第二段階として、「マクロ経済学で学習した「伝統的金融政策」を理解したうえで、世界的に導入されている「非伝統的政策」の特徴点・相違点、および伝統的政策との共通点を指摘できるようになること。また、非伝統的金融政策が導入されてきた歴史的経緯を知ること。 第三段階として、「金融システムの安定」とはなにか、金融システムが不安定化することの経済的な悪影響、およびその対策について、概論できるようになること。
授業形態	講義
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・通常は、講義形式の授業(対面)を行う。 ・ただし、大学の決定や諸状況の変化に応じて、Zoom等を用いたオンライン講義に変更することがある。 ・各講義の節目において、講義内容の理解を確かなものにするために現実の経済問題への応用を含めた演習問題に取り組み、質疑に応じて解答プロセスについて解説を行う。 ・授業後の課題の提示・提出にはmanabaを用いる。その他、告知や質疑応答にも適宜、manabaを用いる。詳細は初回授業で説明する。
授業計画	<p>(春学期)</p> <p>【第1回】 オリエンテーション： 金融政策をなぜ学ぶか</p> <p>【第2回】 マクロ経済と金融政策1：貨幣、物価(名目と実質値)、国民経済計算の復習</p> <p>【第3回】 マクロ経済と金融政策2：貨幣数量説</p> <p>【第4回】 マクロ経済と金融政策3：ADASモデル</p> <p>【第5回】 マクロ経済と金融政策4：ADAS&ISLMモデル</p> <p>【第6回】 金利とマネー：LM曲線再考</p> <p>【第7回】 フィリップス曲線</p> <p>【第8回】 課題解説、Q&A</p> <p>【第9回】 日本銀行の最近の金融政策1：「展望レポート」と決定会合リリース</p> <p>【第10回】 日本銀行の最近の金融政策2：非伝統的金融政策、マイナス金利政策</p> <p>【第11回】 貨幣と銀行システム：日本の貨幣乗数</p> <p>【第12回】 金融政策の手段：公開市場操作と貨幣市場、マネーストックの関係</p> <p>【第13回】 課題解説、Q&A</p> <p>(秋学期)</p> <p>【第14回】 伝統的金融政策と非伝統的金融政策：金利と貨幣量を巡る30年の変遷(前期のまとめ)</p> <p>【第15回】 中央銀行の組織：日本銀行の組織：連邦準備制度(Fed)との比較</p> <p>【第16回】 国際金融と金融政策0：為替レートの基本、実質為替レートと貿易収支</p> <p>【第17回】 国際金融と金融政策1：為替レートレジーム：変動相場と固定相場</p> <p>【第18回】 国際金融と金融政策2：国際収支とIS/バランス</p> <p>【第19回】 国際金融と金融政策3：マンデルフレミングモデルと金融政策</p>

	<p>【第20回】国際金融と金融政策4:国際金融のトリレンマ</p> <p>【第21回】課題解説、Q&A</p> <p>【第22回】金融危機と金融政策1:通貨危機と金融政策</p> <p>【第23回】金融危機と金融政策2:「バブルと金融政策」論争</p> <p>【第24回】金融危機と金融政策3:統・非伝統的金融政策:フォワードガイダンス、マイナス金利政策</p> <p>【第25回】金融政策の現在と将来現状のまとめと今後の課題</p> <p>【第26回】課題解説、Q&A</p>
事前・事後学修	<p>事前:指定資料(適宜、manabaに掲載)を各自で読みし、疑問点を予め把握しておくこと。</p> <p>事後:授業後に提出される課題に取り組み、期限内に提出するほか、授業内容や演習問題の解説等を各自でしっかりと復習し、疑問点があれば次の授業の際に質問すること(原則、各授業の終わりに、5分程度の質疑応答時間を確保するので、この枠を適宜利用することを推奨)。また、授業中に提出される演習問題についても、事後に復習し、学期末までに疑問点を解消しておくこと。</p>
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験(50%)+課題(50%)。さらに、クラス・パーティシペーションが一定値を上回ること。 各回の課題提出期限(manabaへのアップロード)は、原則、課題提出授業の翌々週月曜の昼12時とする(ただし、例外もあるので毎回manabaで確認すること)。期限後の提出は原則として受け付けない。 未提出の課題が一定数を超えると、期末試験の受験資格を失う可能性があるため、注意すること。 授業中に提出する小問(主に選択式練習問題)に回答し、レスポン用いて提出することもって「クラス・パーティシペーション」として評価に加味する。詳しくは初回授業で説明する。
教科書・指定図書	(教科書)なし (指定図書)金融政策【ベーシック+】/小林照義/2020/中央経済社、マクロ経済学[入門篇]/グレゴリー・マンキウ/東洋経済新報社
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 「ミクロ・マクロ経済学Ⅱ」および「金融論」を履修済みであることが望ましい。 クラスパーティシペーションが一定値に満たない場合や、未提出の課題が一定数を超える場合には、期末試験の受験資格を失うことがあるため、注意すること。
更新日	

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC210
講義コード	1ED000900
講義名	空間経済学
担当者名	猪原 龍介
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目的趣旨	すべての経済現象は地理的な空間のなかで発生しているが、空間的な要因を考慮に入れ、経済の諸問題を考察することを目的としている。都市経済学、地域経済学及び国際貿易理論を出発点としながらも、規模の経済性及び広い意味での輸送費ないし近接性等の概念を分析の中核として、従来の個別分野の分析を統一あるいは一般化した“新経済地理学”と呼ばれるものであり、90年代の初めより急速に発展した内容の基礎を講義する。
授業の内容	東京一極集中の加速や、地域経済の衰退の問題が懸念されて久しい。国際的な企業の立地動向を見ても、国内からアジア諸国への産業流出も顕在化している。本科目では、こうした地域問題について、これまでに学んだ経済学の知識を使って考察していく。 本講義の前半では、マクロ経済学的視点から地域経済の成り立ちを捉え、県民経済計算の概念や、地域成長の理論について学んだ上で、地域間交易の成り立ちや交易パターンの決定要因について学ぶ。 後半では、集積の経済に伴う企業立地や人口移動について学んでいく。空間経済学の視点から考察し、経済のグローバル化が進む中での地域間格差の拡大や産業立地の変化といった諸問題について考えたい。
科目的到達目標 (理解のレベル)	現代の地域問題について経済学の視点に基づいて考察し、以下の項目について説明ができ、自分自身の意見を持つようになることを目標とする。 【県内総生産と地域所得の決定、需要主導型の成長、供給主導型の成長、産業連関表と経済波及効果、産業間交易の理論と交易の便益、輸送費の影響、人口移動と地域間格差の関係、都市化の経済と地域特化の経済、グローバル化と都市集積の関係、東京一極集中の問題、商業施設の立地、工業施設の立地】
授業形態	講義
授業方法	授業の進め方は、現時点の予定は以下の通りとなる。 ①講義形式での解説：スライドを使った解説(前回授業の復習、小テストの解説を含む) ②manabaを使った小テスト：毎回の授業の最後に、授業内容の理解の確認をする。
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス キーワード: 空間経済学とは</p> <p>【第2回】 日本の地域構造 キーワード: ペティニクラークの法則、地域区分</p> <p>【第3回】 県民経済計算 キーワード: 県内総生産、県民所得</p> <p>【第4回】 比率モデル キーワード: 所得乗数の計算</p> <p>【第5回】 需要主導型の成長 キーワード: 基盤産業、雇用乗数、特化係数</p> <p>【第6回】 供給主導型の成長 キーワード: ソロー・モデル</p> <p>【第7回】 産業連関表 キーワード: 販路構成と費用構成</p> <p>【第8回】 産業連関分析 キーワード: 経済波及効果、レオンチエフ逆行列</p> <p>【第9回】 地域産業連関表 キーワード: 競争移入型と非競争移入型</p> <p>【第10回】 交易のかたち キーワード: 比較優位と特化</p> <p>【第11回】 交易の理論 キーワード: リカード・モデル、ヘクシャー＝オリーン・モデル</p> <p>【第12回】 交易と余剰 キーワード: 移出入と消費者余剰、生産者余剰</p> <p>【第13回】 交易と輸送費用 キーワード: 余剰分析と輸送費用</p> <p>【第14回】 日本の地域格差 キーワード: 一人あたり県民所得と格差の推移</p> <p>【第15回】 地域格差と労働移動 キーワード: 域間労働移動と労働市場</p> <p>【第16回】 地域格差の残存 キーワード: ハリス＝トドロ・モデル、実質所得と物価水準</p> <p>【第17回】 集積の要因 キーワード: 規模の経済と集積の経済</p> <p>【第18回】 マーシャル外部性 キーワード: 共有、適合、学習</p> <p>【第19回】 人口移動と集積 キーワード: 都市居住の便益と費用、都市規模</p> <p>【第20回】 空間経済学の考え方 キーワード: 地域間人口移動、ストロー効果</p> <p>【第21回】 クルーグマンの立地理論 キーワード: 輸送費の低下と集積</p> <p>【第22回】 商圏の分析 キーワード: 商圏と輸送費用</p>

	<p>【第23回】商業の立地 キーワード:ホテリング・モデル</p> <p>【第24回】工業の立地 キーワード:ウェーバー・モデル</p> <p>【第25回】立地に関する諸理論 キーワード:中位点立地、ハブ効果など</p> <p>【第26回】地域政策 キーワード:全国総合開発計画、産業クラスター政策など</p>
事前・事後学修	<p>事前学修:各回の教科書範囲に目を通しておくこと。読んでわからないところがあれば、そこに注意しながら授業を受けることで、理解が深まります。また、日頃から授業内容に関連したニュースなどに注意を払っておくことも大切です。問題意識を持つことで、勉強するモチベーションが高まります。</p> <p>事後学修:教科書や講義資料、ノートなどを復習して、自分の理解を確認しておいて下さい。わからないことがあれば、放っておかずにメール等で確認すること。</p>
成績評価方法・基準	<p>(1) 小テスト(春学期20%、秋学期20%) 毎回の授業で、manabaの小テスト形式での理解の確認を行います。自分の理解が足りていない部分については、重点的に復讐をしておくこと。</p> <p>(2) 中間・期末テスト(春学期30%、秋学期30%) 詳細は授業の中で説明します。</p>
教科書・指定図書	山田浩之・徳岡一幸『地域経済学入門[第3版]』有斐閣コンパクト ISBN: 978-4641165229
履修上の留意点	講義では、教科書に書いていないことも随時補足していきます。口頭で説明したことも含めて、可能な限り多くの情報をノートに書き留めるという姿勢が大切です。
更新日	

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	
講義コード	1ED001100
講義名	公共経済学
担当者名	小寺 剛
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目的趣旨	公共経済学では、市場メカニズムが資源配分に関して効率的に機能しない「市場の失敗」に対応して公共部門が行う外部不経済の内部化や公共財の最適供給、公共料金の決定、最適課税、公債の発行と償還などについて取り扱う。この科目では、「市場の失敗」に関わる代表的な問題を取り上げ、その発生要因と解決手段、政府の役割、政府支出の財源調達とそれに関わる政策、政府の失敗について学ぶ。
授業の内容	公共経済学は、公的部門(政府)が行う経済活動について考察する経済学の一分野である。政府の活動は多岐にわたるので、様々なトピックがその対象となる。この授業では、政府が現金や借金をすることでお金を集め、様々な経済活動を行うことの意義や各政策の役割についてミクロ経済学の分析手法に基づいて理解することを目的とする。また、経済・社会的な時事問題に関する知識の習得も重要な目標となる。
科目的到達目標 (理解のレベル)	以下の3点を到達目標とする。 ・政府が行う経済活動に関する基礎的な知識を習得する ・市場メカニズムが様々な要因(独占・寡占、外部性、公共財など)によって阻害されるときその対応策について経済学的に理解する ・民主主義的な政策決定過程とそれを通じて実現される政策について理解する
授業形態	講義
授業方法	この授業は原則、対面の講義形式(講義資料のスライドと番所を併用)で行う。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大やその他予期せぬ事態が生じた場合はオンラインでの実施もありうる。 講義資料の配布や練習問題の実施・提出はmanabaを通じて行う。
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション 講義の進め方や公共経済学の概要、分析方法について解説する</p> <p>【第2回】ミクロ経済学の基礎(1): 効用と需要 消費者の効用最大化問題とその解としての需要の導出について解説する</p> <p>【第3回】ミクロ経済学の基礎(2): 需要曲線と消費者余剰 需要関数と需要曲線の関係や消費者余剰について解説する</p> <p>【第4回】ミクロ経済学の基礎(3): 生産技術と供給 生産者の利潤最大化問題とその解としての供給について解説する</p> <p>【第5回】ミクロ経済学の基礎(4): 供給曲線と生産者余剰 供給関数と供給曲線の関係や生産者余剰について解説する</p> <p>【第6回】ミクロ経済学の基礎(5): 市場均衡と総余剰 完全競争市場の均衡や総余剰について解説する</p> <p>【第7回】競争均衡と政府の役割 これまでの議論にもとづいて政府が果たすべき役割について解説する</p> <p>【第8回】課税の理論(1): 課税の非効率性 課税が社会に与える影響について余剰分析に基づいて解説する</p> <p>【第9回】課税の理論(2): 租税回避と税の帰着 税の最終的負担者について解説する</p> <p>【第10回】課税の理論(3): 価格弾力性と最適課税 価格弾力性の概念やあるべき税制について解説する</p> <p>【第11回】公債の理論(1): リカードの等価定理 公債発行に関するリカードの等価定理について解説する</p> <p>【第12回】公債の理論(2): 等価定理の妥当性 等価定理の前提を整理し、それらが満たされない状況について解説する</p> <p>【第13回】中間テスト これまでの内容について中間テストを実施する</p> <p>【第14回】ミクロ経済学の基礎(6): ゲーム理論の基礎 戦略形ゲームやナッシュ均衡について解説する</p> <p>【第15回】独占の弊害とその対策 独占市場の分析や独占の弊害を抑制するための価格規制について解説する</p> <p>【第16回】複占市場の分析 複占市場の代表的分析であるクールノーモデルについて解説する</p> <p>【第17回】外部性の影響とその対策 外部性が存在するときの余剰分析や外部性に対する税金・補助金の効果について解説する</p>

	<p>【第18回】公共財(1): 定義と最適供給 公共財の性質やその最適供給条件について解説する</p> <p>【第19回】公共財(2): 公共財供給のメカニズム 公共財の自発的供給の可能性や最適供給のためのメカニズムについて解説する</p> <p>【第20回】政策の政治的決定(1): 多数決 多数決の様々なルールや関連する諸概念について解説する</p> <p>【第21回】政策の政治的決定(2): 間接民主制 2大政党間の代表的な選挙モデルであるダウンズモデルについて解説する</p> <p>【第22回】政策の政治的決定(3): 民主主義の効率性 民主主義による政策決定が効率的かどうかについて解説する</p> <p>【第23回】公的年金(1): 目的と制度 公的年金制度の意義や日本の制度について解説する</p> <p>【第24回】公的年金(2): 経済学的分析 世代重複モデルによる年金制度について解説する</p> <p>【第25回】格差と再分配(1): 格差の定義 格差に関する考え方や指標について解説する</p> <p>【第26回】格差と再分配(2): 格差と効率性に関する議論 格差と効率性に関するトレードオフに関する諸議論について解説する</p>
事前・事後学修	<p>【事前学習】 講義前に講義資料に目を通し、疑問点を予め把握しておく、疑問点を明らかにした上で受講することで、授業内容への理解が深まると考えられる。また、授業内容に関連したニュースなどに注意を払うことも重要である。</p> <p>【事後学修】 講義内容をしっかり復習し、定期的に課される練習問題を解く。 なお本講義はそれ以前の内容を前提として進んでいくので、予習(事前学習)よりも復習(事後学修)に重点を置くことを推奨する。</p>
成績評価方法・基準	<p>課題(練習問題):30% 中間テスト:35% 期末テスト:35%</p> <p>実施の詳細については授業中に指示する。</p>
教科書・指定図書	教科書:特になし(講義資料を配布) 指定図書:講義中に適宜指示する
履修上の留意点	ミクロ経済学や経済学数学基礎を履修していることが望ましい。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC215
講義コード	1ED001600
講義名	日本産業論
担当者名	佐藤 信之
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	

科目的趣旨	前半では、産業分析の基本的な手法を解説しながら、我が国の産業構造に関する基礎的知識の習得を通じ、産業論の基本的フレームワークを検討する。その上で、戦後の産業政策の特徴とその果たした役割を、現状の産業問題と対比させながら考察する。後半では、我が国の産業の構造的特質に關し、IT化、グローバル化、ネットワーク化、空洞化、構造調整、規制緩和といった、代表的なキーワードの学修を通じ、我が国産業をそれぞれの視点から取り上げて、その特質と課題を包括的に把握することを目指す。
授業の内容	産業論という科目がどのような科目であるのかを理解してもらうために、まず最初に一般論について概説を行う。その理解の上に立って、日本の産業がどのように近代化・国際化していったのかを解説する。さらに、近代日本の産業化した産業分野について議論を開く。授業は、一般論から初めて、統いて個別論へ講義を進めることで、日本産業の発展形態と今日抱えている課題について理解を深めてもらう。また、業界別の過去の経緯・現状・課題について考察し、それらの業界についての、個々の学生の研究のきっかけを提供する。
科目的到達目標 (理解のレベル)	学生は、産業論に関して理解した上で、現在の日本における各産業分野の特徴と問題点を理解すること。さらに、関心を持った産業分野について自分たちで個々に知識を深めていくことを期待する。 本科目は、就職活動において重要な、志望業界に関する業界研究へのアプローチに対してヒントを与えることも目的とする。授業で紹介する業界に関する知識だけではなく資料を集め分析する、研究アプローチに関する手法についても学びとていただきたい。
授業形態	講義
授業方法	講義形式 90分 質疑5分 本年度は教室での対面授業となる。 質問がある場合は、挙手したうえで発言すること。 連絡先 n_satoh@myad.jp
授業計画	【第1回】日本産業論という科目について 科目の概要を紹介し、どのように勉強を進めるべきかを説明する。 講義を実施する上での機材の調整を行う。 【第2回】第1章 産業構造論 産業構造の変化 第2章 産業構造の高度化 産業構造論の一般的知識を概説する。 【第3回】第3章 日本の産業構造 産業論の一般理論の知識を基にして日本の産業構造を説明する。 【第4回】第4章 日本の産業組織 第5章 日本産業の特質－二重構造 産業論の視点を持って、日本における産業化のプロセスと特徴を解説する。 【第5回】第6章 日本産業論の特質－系列ワンセット 日本の産業界を支配した系列ワンセットを解説する。 【第6回】第7章 日本的経営 第8章 日本的特徴／日本企業の国際競争力 日本の産業活動における特徴について、日本的経営と国際競争力のキーワードから解説する。 【第7回】第9章 業界研究 自動車産業 【第8回】第10章 業界研究 電機産業－重電機 【第9回】第10章 業界研究 電気産業－情報機器 【第10回】業界研究 電気通信とテレコム改革 【第11回】サービス業におけるイノベーションの視点について 【第12回】第11章 業界研究 小売業の経営革新 【第13回】第12章 業界研究 大規模小売業の再編 【春学期課題】業界研究小論文1 授業で解説した通りの構成で、各自が関心を持つ産業について、小論文をまとめること。 【第14回】イントロダクション 日本の経済と産業の現状について 【第15回】日本産業史 明治期／富国強兵政策 【第16回】同 大正期／日本の産業化の完成 【第17回】同 昭和前期／関東大震災から昭和恐慌 【第18回】同 昭和後期／高度経済成長 【第19回】業界研究 観光業 日本経済における観光の意義

	<p>【第20回】業界研究・電気通信業 テレコム改革</p> <p>【第21回】業界研究・コンテンツ事業</p> <p>【第22回】業界研究・出版事業</p> <p>【第23回】 同 電子書籍の現状</p> <p>【第24回】業界研究 陸運</p> <p>【第25回】業界研究 航空</p> <p>【第26回】後期試験</p> <p>【秋学期課題】業界研究 小論文2 課題1のレポートの内容について議論の展開方法などについて添削するので、その内容に従ってレポートを推敲する。</p>
事前・事後学修	<p>授業で扱わない業界についても、自分の興味のある業界についてネットで検索するとともに、図書館で関連書籍に目を通して、その業界について理解を深めること。 1年を通じて、業界研究の小論文(課題)を作成してもらう。 普段から新聞、ネットニュースに目を通し、興味ある業界に対する情報の収集を習慣とすることが重要である。 またmanabaには朝日新聞の記事検索のリンクボタンがあるので、利用法など慣れておくことを推奨する。卒業して有料で利用しようとすると巨額なコストが必要になるので、学生の特権を最大限活用するようにして下さい。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点、小論文(課題)の評価、最終試験の得点により成績を付ける。 平常点は、出席状況、レポート、履修態度などにより評価する。 平常点の比率は30%を目安とする。小論文(課題)は、春学期末までに提出。秋学期末にも、プラスチックアップしたものないし別の業界について新たに執筆したものを探出することができます。 評価の配分 平常点30% 試験・小論文70%</p> <p>年間をとおして一編の小論文を完成するということを目標にして、一般社会でも通用する内容となっているかが評価の軸となる。</p>
教科書・指定図書	教科書は、オリジナルPDF教材を使用する。 春学期『日本産業論1』、秋学期『日本産業論2』 毎回manabaで配布する。
履修上の留意点	授業以外で質問など連絡をとりたい場合は、シラバスに記載されたメールアドレスまでメールを送信すること。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED101
講義コード	1EE000100
講義名	経済史概論 I
担当者名	水野 明日香
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	E
備考	

科目的趣旨	本科目は、高校までの学習から専門科目である経済学を学ぶための橋渡しとして位置づけられている。どんな学問も資料や文献、データを大切にするが、とくに経済事象を歴史的に捉える経済史は史料を重視する。「経済史概論 I」では史料の蒐集とその扱い方、分析方法など、歴史的視点、経済史の基本作法を学ぶことを目標としている。人間は歴史的にどのように働き、生産し、消費生活を送ってきたか。また、その変化の過程で人間の経済活動に対する見方、すなわち経済学はどのように形成され、どのような分析方法を獲得してきたのか、現在の社会経済と照らしながら諸学説に言及する。
授業の内容	この科目は、ディプロマポリシー「経済社会の直面する経済問題を発見し、解決するために必要な経済学の基本的な知識と分析ツールを身につけていく」に寄与する科目として位置づけられる。授業は、人間は歴史的にどのように働き、生産し、生存してきたのか、経済はいかに発展してきたのかを学び、経済史の大きな流れを掴むことを目的としている。 授業の内容は、①慣習経済の下での経済活動、②市場経済・資本主義社会の発達、③現代経済への移行とその変容を3つの柱として構成されている。扱う事柄は、過去の出来事であるが、経済史が見据えるのは未来である。我々が現在、直面している経済社会の諸問題の起源や経緯を理解することで、現在を相対化する視点の獲得を目指す。そのため、各回で取り上げる事例は、ヨーロッパ、アジア、日本と時空横断的なものとなる。 またこの授業は、経済発展とは各国の経済的進歩の歴史であることを前提として、現在の途上国への応用も意識している。
科目的到達目標 (理解のレベル)	この授業は、ディプロマポリシー「経済社会の直面する経済問題を発見し、解決するために必要な経済学の基本的な知識と分析ツールを身につけていく」に寄与する科目として位置づけられている。よって求められる学修の到達目標は、以下である。 ①共同体社会の特徴を説明できる。 ②市場経済・資本主義社会の特徴と発達過程を説明できる。 ③現代経済の特徴(大衆消費社会、福祉国家、ブレトンウッズ体制)の生成と変容を説明できる。 ④①から③を応用し、今日の経済社会の直面する経済問題を発見し、これに対する解決策を描ける。
授業形態	講義
授業方法	授業は資料等を用いながら、講義形式で行う。授業で使用する文書・統計資料、パワーポイントレジュメは、manabaのコンテンツにアップしておいて、学生はこれらを利用して、講義ノートを作成する。 授業の最後では、manabaの小テスト機能を利用し、理解度の確認を行い、学んだ知識の定着を図る。また授業終了後には、記述式の課題に答え、知識を実社会に応用する練習を行ふ。 普段の授業は対面式で実施するが、天候不順等の事情によっては、大学の指示に従い、Zoomでオンライン授業を行う場合もある。

授業計画	<p>【第1回】現在の社会と経済史 内容: ①授業のガイダンス: 授業の進め方、小テストの受け方、課題の提出について、②経済史を学ぶ目的</p> <p>【第2回】慣習経済の下での経済活動 ①人間の経済活動と社会組織 内容: ①経済活動と社会組織の関係、②経済史における「共同体」とは何か</p> <p>【第3回】慣習経済の下での経済活動 ②共同体社会の自助協力 内容: ①封建制度・ゲルマン的共同体、②アジアの共同体、③ゲルマン的共同体の相続・結婚</p> <p>【第4回】慣習経済の下での経済活動 ③共同体社会の経済活動、慣習に基づく生産と分配 内容: ①慣習に基づく経済活動: 互酬的関係、②身分と規制、③富の存在意義、④共同体社会の経済成長について</p> <p>【第5回】市場の発達 内容: ①イチバと市場、②市場の発達の意味、③市場の役割</p> <p>【第6回】資本主義経済の発達 ①資本主義を担った人々の精神 内容: ①ロビンソン・クルーソーの人間の出現、②労働観の変化、③禁欲と規律化</p> <p>【第7回】資本主義社会の発達 ②産業革命とは何か 内容: ①産業革命とは何か、②市民革命、③産業革命の技術的側面、④経済史は産業革命をどうみたか、⑤生活の変化</p> <p>【第8回】資本主義社会の発達 ③産業革命の世界への広がり 内容: ①世界の工業化、②工場と労働問題、③大いなる分歧</p> <p>【第9回】資本主義社会における働き方 内容: ①慣習経済の下での「仕事」、②資本主義社会における仕事と働き方の変化</p> <p>【第10回】現代経済への移行とその変容 ①大衆消費社会の誕生 内容: ①大量生産の確立、②消費者の誕生、③広告の発達</p> <p>【第11回】現代経済への移行とその変容 ②社会国家の制度化 内容: ①社会福祉の必要の高まり、②思想的転換、③第一次大戦と社会国家</p> <p>【第12回】現代経済への移行とその変容 ③社会主義はなぜ失敗したか? 内容: ①社会主義経済とは、②社会主義経済の行き詰まり、③社会主義経済はなぜ失敗したか</p> <p>【第13回】現代経済への移行とその変容 ④世界経済の長期的な構造変化 内容: ①第一次世界大戦前の状況、②黄金の1920年代、③世界恐慌から第二次世界大戦へ、④ブレトンウッズ体制と崩壊</p>
事前・事後学修	<p>事前学習: 授業で使用する文書・統計資料、パワーポイントレジュメは、1週間前にmanabaのコンテンツにアップしておくので、事前に目を通し、疑問点や気になる点を確認しておくこと。</p> <p>事後学習: 授業のノートを整理し、復習しておくこと。その際には、manabaの小テスト機能も活用すること。その上で、課題に取り組むこと。授業中に紹介する文献で、気になるものは図書館等を利用して入手し、各自、目を通すこと。分からぬことがある場合は、指定図書で確認し、それでも分からぬ場合は次の授業後またはメールで質問すること。</p> <p>また普段から、テレビ、新聞などで現在の日本や世界の政治経済に関するニュースに目を通しておくこと。</p>
成績評価方法・基準	<p>①平常点 30% a. 授業時間内の小テスト 15% b. 課題の提出 15% ②学期末試験 70%</p> <p>※ただし課題の未提出が1/3を超えた場合は成績評価の対象としない。また期末試験は、必ず受けること。受験しなかった場合は成績評価の対象としない。 ※課題の評価は、授業の内容を踏まえているか、その上で自らの見解が述べられているかで行う。試験の採点基準については、別途説明する。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書は特に指定しないが、下記を参考文献とする。その他については、授業中に指示する。</p> <p>小野塚知二『経済史』有斐閣、2018年。 関口尚志、梅津順一『欧米経済史』放送大学教材、1995年。</p>
履修上の留意点	<p>秋学期の「経済史概論Ⅱ」も継続して履修することが望ましい。</p>
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED102
講義コード	1EE000200
講義名	経済史概論Ⅱ
担当者名	神谷 久覚
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	E
備考	

科目的趣旨	本科目は、高校までの学習から専門科目である経済学を学ぶための橋渡しとして位置づけられている。「経済史概論Ⅱ」では、「経済史概論Ⅰ」で学習したことを踏まえ、日本・欧米・アジアの経済発展の過程を具体的な事例を取り上げながら、比較史的に講義する。本科目は2年次以降に学ぶ「欧米経済史」「日本経済史」「アジア経済史」の基礎として位置づけられる。
授業の内容	<p>この科目は、ディプロマポリシーの「経済社会の直面する経済問題を発見し、解決するために必要な経済学の基本的な知識と分析ツールを身につけている」に寄与する科目として位置づけられている。</p> <p>授業では、経済史概論Ⅰで学んだ資料の使い方、歴史の見方を前提とし、日本・欧米・アジアの経済発展に関する具体的なトピックを扱う。また、近年のグローバル・ヒストリーに関する研究を踏まえて、長期的な視野で世界経済の発展を検討する。具体的には、以下の3点に焦点を当てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①グローバル化が進展していった背景と、各地域の経済の多様性 ②イギリスで始まった工業化が世界に広がっていく過程 ③世界恐慌を契機としたグローバル化の途絶と第二次世界大戦後の再建過程
科目的到達目標 (理解のレベル)	<p>①貿易を介して世界経済の結びつきが深まっていた背景について、論理的に説明できる。</p> <p>②工業化が各國経済に及ぼした影響について、事例を比較しながら特徴を説明できる。</p> <p>③保護主義の広がりが世界経済に及ぼす影響について、現状と比較しながら明確に説明できる。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>授業はPowerPointのスライドを使用し、板書による説明を行う。各回の授業で扱う内容については、事前にmanabaに資料をアップロードする。基本的に講義形式で行うが、授業中に質問した内容について、responや口頭で解答してもらうことで、履修者が授業に主体的に参加することを求める。</p> <p>資料には授業内容の全ては書かれていないので、授業中の板書や口頭での説明をメモすることが必須である。授業内容に関して分からぬ点があれば、授業中または授業後を問わず質問を歓迎する。</p>
授業計画	<p>【第1回】市場経済と資本主義 近現代を特徴づける市場経済と資本主義の定義について説明する。</p> <p>【第2回】資本主義の経済制度 経済制度、信用、金融、株式、保険及び倒産について学ぶ。</p> <p>【第3回】グローバル化の開始と展開 スペイン・ポルトガルの進出と、17世紀のヨーロッパの危機について分析する。</p> <p>【第4回】世界貿易の拡大と多様な世界 18世紀における貿易、経済の拡大、近世国家の分岐について検討する。</p> <p>【第5回】機械生産の広がり イギリスにおける工業化とその特徴、工業化の地理的広がりについて学ぶ。</p> <p>【第6回】蒸気船・鉄道・電信網の普及 グローバル化の基盤となった、蒸気船、鉄道及び電信網の広がりについて分析する。</p> <p>【第7回】ヨーロッパ自由貿易体制とアジア 自由貿易体制の広がりとアジア地域の関係について検討する。</p> <p>【第8回】新興国の台頭と国際秩序の変化 19世紀における第二次産業革命、大不況と保護主義の台頭について学ぶ。</p> <p>【第9回】日本の近代化とその特徴 日本の急速な近代化とその特徴について、欧米の事例と比較して分析する。</p> <p>【第10回】世界恐慌とグローバル化の停滞 第一次世界大戦後の国際経済の変化や、世界恐慌によるグローバル化の停滞について検討する。</p> <p>【第11回】自由貿易体制の再建と金融グローバル化 第二次世界大戦後の自由貿易体制の再建過程と、1970年代以降の金融グローバル化について学ぶ。</p> <p>【第12回】日本の高度成長とその特徴 1950年代後半以降の日本の高度成長の全体像とその特徴について検討する。</p> <p>【第13回】開発途上国の工業化とその特徴 東アジアやラテンアメリカ諸国の工業化とその特徴について分析する。</p>
事前・事後学修	事前学修:授業前に各回の資料(PDFファイル)をmanabaにアップロードするので、ファイルをダウンロードして、授業の重要なポイントについて把握した上で出席すること。

	事後学修：資料の要点を自分でまとめ直し、授業中に提示する課題を解いて、manabaで提出すること。その上で、指定図書や各回のレジュメの参考文献リストに掲げる参考文献を熟読して先行研究への理解を深め、2年次以降の経済史関連科目の学修に関する基礎を作ること。
成績評価方法・基準	<p>①小テスト40% 授業内容に関する小テストを、各回の授業後(第13回を除く)にmanabaで実施する。提出回数が全回数の3分の2以上ではない場合、評価の対象外となるので注意すること。</p> <p>②学期末試験60% 授業内容に関する理解度を確認するため、学期末に試験を行う。 ※授業の出席回数が3分の2以上ではない場合、評価の対象外とする。</p>
教科書・指定図書	教科書:なし 指定図書:河崎信樹・村上衛・山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020年。ISBN: 9784641221482
履修上の留意点	<p>①授業計画は変更になる可能性がある。変更の際は、レジュメやmanabaを通じて連絡する。</p> <p>②授業中には適宜質問するので、積極的かつ真剣に参加する学生の履修を希望する。</p>
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED203
講義コード	1EE000300
講義名	アジア経済論 I
担当者名	布田 功治
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目的趣旨	戦後から1960年代にかけて、多くの発展途上国の独立と経済成長の開始とともに 途上国の構造と開発にたいする分析観点を提供する正統派開発経済学が現れて貢献したが、1970年前後からは貧困の残存や民主化の遅れなどの諸問題が認識され、それに対応して改良主義的開発経済学が出現する。この科目では、このように時代と共に変化してきた開発経済学の理論を参照しながら、特にアジアの発展途上国の大戦後から現在までの経済発展の変動と現状を、広く政治・社会・文化などを視野に入れて、世界経済との関わりの中で分析する。
授業の内容	はじめに、アジア経済の目覚ましい発展の現状について、域内貿易と域内生産システムに注目して解説する。次に、現在のような発展状況に至るまでの過程を解説する。その際、アジア通貨金融危機までの成長メカニズム、危機の原因と影響、危機後の新たな成長メカニズムの傾向に解説する。なお、本講義では経済開発政策をめぐる論争や実例を積極的に紹介することで、いかにして発展を継続していくべきかについて、受講生が自分なりの見解を論理的に築くことを目指す。
科目的到達目標 (理解のレベル)	1. アジアの域内貿易や域内生産システムの現状を理解し、分かりやすく解説できることを目指す。 2. アジア通貨金融危機までの成長メカニズムを理解し、理論的に解説できることを目指す。 3. 危機の内外因論争を理解し、今後、成長を維持しながら危機を防止するための適切な政策を提言することを目指す。 4. 危機後の成長メカニズムを理解し、論理的に解説できることを目指す。
授業形態	講義
授業方法	講義形式、Respon(出席確認、毎回の講義課題や到達度チェックテスト課題の論述問題提出に使用)
授業計画	[第1回] イントロダクション: アジア経済論 I の全体像、アジア諸国・地域の基本情報 [第2回] アジア域内貿易投資のいま(1): Hub&Spokes構造 [第3回] アジア域内貿易投資のいま(2): 米中貿易摩擦、企業内貿易と域内FDI [第4回] アジア域内生産システムのいま: IoT製品および自動車の域内生産システム [第5回] アジア経済成長メカニズム(1): アジアの奇跡をめぐる解釈論争 [第6回] アジア経済成長メカニズム(2): キャッチアップ型工業化モデル [第7回] アジア経済成長メカニズム(3): 貯蓄投資ギャップ、金融自由化にともなう急成長 [第8回] 第1回小テストと解説 [第9回] アジア通貨金融危機(1): 金融自由化にともなうアジア通貨金融危機 [第10回] アジア通貨金融危機(2): 危機後のIMF対応をめぐる内外因論争 [第11回] アジア経済成長メカニズムの変容(1): 外資による地場企業買収 [第12回] アジア経済成長メカニズムの変容(2): 中所得国の罷とその対策としてのデジタル化 [第13回] 第2回小テストと解説
事前・事後学修	事前学習: 各回の講義内容の講義資料をすべて事前にmanabaにアップロードするので、受講前に閲覧して理解できない箇所を発見してから講義に臨むこと。 事後学習: 各回の講義内容の理解度を確認するための参考資料として到達度チェックテストを配布するので、すべて暗記するまで復習に励むこと。また、responでの毎回講義の他の学生の解答内容を開覧可能にするので、それらを参考にしながら自らの論述解答をプラスアップさせること。
成績評価方法・基準	平常点(毎回講義の課題への取り組み度)20%、第1回小テスト40%、第2回小テスト40%
教科書・指定図書	教科書: 末廣昭『新興アジア経済論』岩波書店、2014年 (ISBN: 9784000287425)。また、各回講義でmanaba掲載の講義資料や到達度チェックテストを利用する。

	指定図書:アジア開発銀行『アジア開発史:政策・市場・技術発展の50年を振り返る』勁草書房、2021年(ISBN: 4326504846)。英語版は、ADBの下記URLから無料ダウンロード可能(https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity)。
履修上の留意点	経済学部開講の開発経済学(通年4単位)を同時履修することを勧める。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED204
講義コード	1EE000400
講義名	アジア経済論 II
担当者名	布田 功治
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目的趣旨	この科目は、社会科学としての地域開発経済論であり、その対象地域がアジアに適用する研究の方法論をとる。その上で開発経済学の展開の推移を、代表的な開発理論を中心に論じる。開発理論の展開にはNIE'S論や「下からの開発」といわれているHuman Needs論なども含める。個別の開発理論から進め、先進国の協力責任の問題を新国際経済論で論じ、その終焉とガット及びWTO体制下における政府開発援助論およびNGO論などを展開する。さらに第3世界の経済開発と人口・環境問題との関係性を明らかにする。
授業の内容	講義前半では、代表的な開発理論に沿う具体的な事例研究として、緑の革命、輸出指向型工業化、BHNアプローチ、援助論をとりあげる。講義後半では、現在のアジア経済が抱えるリスクや今後の経済成長可能性を解説する。本講義ではアジア諸国は一国のみでは対処しきれない複数の経済停滞リスクを抱えているとの立場から、アジア経済が持続的な成長を遂げるためにはいかなる域内協力が必要であるかについて、受講生が自分なりの見解を論理的に築くことを目指す。
科目的到達目標 (理解のレベル)	1. 代表的な開発理論に沿う事例研究を理解し、分かりやすく解説できることを目指す。 2. アジア諸国に共通する経済成長停滞のリスク要因とその対処策を理解し、分かりやすく解説できることを目指す。 3. アジア諸国が現在、取り組んでいる域内協力の内容を理解し、今後のアジア経済の展望を論理的に見通すことをを目指す。
授業形態	講義
授業方法	講義形式、Respon(出席確認、毎回講義や到達度チェックテスト課題の論述問題の解答提出に使用)
授業計画	【第1回】イントロダクション: アジア経済論 II の全体像、経済開発の捉え方 【第2回】豊かさとは何か: アジアの社会経済指標の読み方と使い方、ペティー=クラークの法則 【第3回】経済開発(1) 貧困の悪循環、緑の革命の意義 【第4回】経済開発(2) : NIEs・ASEANの輸出指向工業化による経済発展 【第5回】経済開発の影: トリクルダウン効果の非有効性、格差の拡大、構造調整政策の悪影響 【第6回】経済開発の影への対策: 構造調整政策に対するBHNアプローチとその後の開発援助の展開 【第7回】第1回小テストおよび解説 【第8回】経済成長停滞のリスク要因(1): グローバル・インバランス問題、中国の貯蓄過剰問題 【第9回】経済成長停滞の最新のリスク回遊策: 域内金融協力(ABMI, CMIM, AMRO)の進展 【第10回】最新の経済成長促進策(1): アジアの外貨準備蓄増諸国によるSWFと戦略的ODA、中国主導のAIIB 【第11回】経済成長停滞のリスク要因(2): 人口ボーナスの終焉、少子高齢化、社会保障制度の現状 【第12回】最新の経済成長促進策(2): WTOの限界を背景とする域内経済協力(TPP, AEC, RCEP)の進展 【第13回】第2回小テストおよび解説
事前・事後学修	事前学習: 各回の講義内容のパワーポイント資料を事前にアップロードするので、受講前に閲覧して理解できない箇所を発見してから講義に臨むこと。 事後学習: 各回の講義内容の理解度を確認するための参考資料として到達度チェックテストを配布するので、すべて暗記するまで復習に励むこと。また、受講後に家族や友人らに学習した講義内容を分かりやすく説明しつつ、講義中に示された論点について議論することを推奨する。
成績評価方法・基準	平常点20%、2回の小テストそれぞれ40%で評価する。 平常点は、毎回の課題の提出内容で評価する。
教科書・指定図書	教科書は指定せず、教科書に相当する内容の講義資料を毎回配布する。また、各回講義の復習や試験対策に役立つように、到達度チェックテストを自習用教材として配布する。 指定図書: アジア開発銀行『アジア開発史: 政策・市場・技術発展の50年を振り返る』勁草書房、2021年(ISBN: 4326504846)。英語版は、ADBの下記URLから無料ダウンロード可能(https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity)。

	参考文献については、テーマごとに文献リストを紹介する。
履修上の留意点	前期にアジア経済論Ⅰを履修しておくことが望ましい。また、経済学部開講の開発経済学(通年4単位)を同時履修することを勧める。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED201
講義コード	1EE000500
講義名	アジア経済史
担当者名	水野 明日香
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/G
備考	

科目の趣旨	19世紀の半ば過ぎまでの時期にアジア地域は欧米諸国の植民地・半植民地支配下におかれ、一次産品の供給地として世界資本主義経済システムに包摂された。この過程で、アジア地域は近現代化の波にさらされ、在地の経済・社会構造は大きく変化した。本科目は前半でこの変化の過程、およびこの変化により生じた諸問題を扱うものである。対象とするアジア地域は、西はインド、東は日本を除く東アジアとし、時代は近世から第二次大戦までの時期を扱う。後半では、第二次大戦後、アジア諸国が欧米の植民地支配から独立し、経済的にも植民地時代に形成されたモダニズム構造から脱却し、自立経済の形成、工業化を図る過程を経済史的に理解することを目指す。
授業の内容	今日、多くのアジア諸国は経済発展を開始し、経済構造も変化を遂げている一方で、発展が未だ遅れている国もあるし、貧困は地域的に偏在している。このような違いは、歴史的経路に依存している。この授業では、経済発展とは各国の経済的進歩の歴史であることを前提とし、アジアの国々は、日本や世界の経済どのようにかかわり、いかに発展してきたのか、もしくは発展の波に乗り遅れているのかを社会経済史の視点から学ぶ。これにより、経済社会を総合的に理解するために必要な社会科学の幅広い知識と教養、およびアジアを始めとする国際社会の一員として、直面する課題に取り組む能力を身につける。 授業の概要是以下の通り。 春学期は、ヨーロッパとの交流が本格的に開始した16世紀の大航海時代から、植民地体制が固まる第一次世界大戦までの時期を扱う。具体的には、アジアとヨーロッパの産業革命の関係、今まで続くアジア諸国との経済的特徴の源流である、植民地支配下で形成された一次産品の輸出構造、国境線、移民問題、アジア域内の貿易関係を学ぶ。 秋学期は、現代への移行を開始する両大戦間期から、21世紀までの時期を扱う。具体的には、世界恐慌、日本の占領下での一次産品の生産、貿易構造の変容、冷戦体制と開発独裁の下での工業化政策、構造調整と外国直接投資の増加といったトピックについて学ぶ。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この授業は、ティプロマポリシーの③「アジアを始めとする国際社会の一員として、直面する課題に積極的に取り組む能力を身に付けている」に寄与する科目として ①ヨーロッパの工業化に果たしたアジアの役割とその過程でのアジアの変化を説明できる。 ②アジア諸国との比較から説明できる。 ③現在のアジア経済の特徴が形成された過程を説明できる。 ④①から③を応用し、今日のアジア社会が直面する課題を発見し、これに対する解決策を描ける。
授業形態	講義
授業方法	授業は資料等を用いながら、講義形式で行う。授業で使用する文書・統計資料、パワー・ポイントレジュメは、manabaのコンテンツにアップしておくので、学生はこれらを利用して、講義ノートを作成する。 授業後には、manabaの小テスト機能を利用し、理解度の確認を行い、学んだ知識の定着を図る。また授業終了後には、記述式の課題に答え、知識を実社会に応用する練習を行う。 普段の授業は対面式で実施するが、天候不順等の事情によっては、大学の指示に従い、Zoomでオンライン授業を行う場合もある。
授業計画	春学期 【第1回】アジア経済の過去と現在一大航海時代の始まり 内容: ①授業のガイダンス: 授業の進め方、小テストの受け方、課題の提出を説明 ②アジアの交易ネットワーク、港市国家の出現、朝貢貿易について 【第2回】大交易時代の変容一ポルトガル、スペインとの遭遇 内容: ①香辛料貿易の拡大、②ポルトガル、スペインによる前期的植民地支配の始まり、③グローバルな港市アユタヤの特徴について 【第3回】大交易時代の終焉一オランダ東インド会社のアジア進出 内容: ①世界で最初の株式会社の設立、②オランダの陸上があり、③コーヒーの強制栽培について 【第4回】イギリス東インド会社のインド支配 内容: ①イギリスのインド支配の始まり、②地租査定と土地改革について 【第5回】アジアにおける三角貿易とアヘン戦争 内容: ①アジアの三角貿易、②アヘン戦争、③自由貿易帝国主義論とアジアの近代について 【第6回】後期植民地国家の形成 内容: ①歐米によるアジアの植民地化、②国境線に関するアジアとヨーロッパの認識の差異 【第7回】プランテーション型植民地経済の成立①フィリピン、インドネシアの砂糖 内容: ①フィリピンの大土地主制・アシエンダ、②ジャワの砂糖の強制栽培について 【第8回】プランテーション型植民地経済の成立②マラヤの錫とゴム 内容: ①マラヤの錫鉱山業の主体の変遷、②移民労働者と多民族国家、③ゴム生産の主体の変遷、④経営代理店制度について 【第9回】食糧供給型植民地経済の成立一仏印、タイ、ビルマの米 内容: ①大陸部デルタの開拓、②農民の土地喪失と地主制、③モラルエコノミー論、複合社会論、余剰のはけ口論について 【第10回】日本の植民地支配下における台湾経済の変容一米糖相克問題の発生 内容: ①台湾支配と日本の製糖業、②原料区域採取制度、③米糖相克問題 【第11回】朝鮮の植民地支配 内容: ①植民地統治の確立、銀行、土地改革、②産米増産運動、③工業化について 【第12回】アジア内交易の拡大 内容: ①アジア内交易と日本の工業化、②インドにおける紡績業の勃興、③中国の絲糸・絲布市場と在華紗について 【第13回】植民地時代の代表的産物の現在 内容: ①米、②コーヒー、砂糖、③スズ、ゴムの担い手と産地の変化 秋学期 【第14回】世界恐慌のアジア経済への影響一貿易構造の変化 内容: ①貿易の縮小と一次産品価格の下落、②貿易相手国の変化について 【第15回】世界恐慌のアジア各國への波及一農村社会の変容と経済的ナショナリズムの高まり 内容: ①ビルマの例: 農民の土地喪失、農民大反乱、経済改革案、②タイの例: 立憲革命、経済的ナショナリズムについて 【第16回】日本の満州経営 内容: ①昭和恐慌から満洲國の設立まで、②満洲の経済的理念、③満洲移民について

	<p>【第17回】第二次世界大戦下の日本の南進と東南アジア経済の荒廃 内容: ①大東亜共栄圏構想、②日本の軍政下の物資・労働力の調達、軍票の乱発について</p> <p>【第18回】中華人民共和国の誕生－中国における土地改革 内容: ①中国における土地改革の実施過程、②土地改革の意義</p> <p>【第19回】1950年代のアジアの政治経済－反共と政治経済の混亂 内容: ①インドネシアの事例: オランダとの戦争、国有企業の設立、②タイの事例: 政治的混乱とサリット政権の誕生</p> <p>【第20回】1960年代のアジア経済 ①ベトナム、ミャンマー、カンボジアの社会主義化 内容: ①第一次インドシナ戦争から第二次インドシナ戦争へ、②社会主義下のベトナム経済、③カンボジアの「クメール式社会主義」、ビルマの「ビルマ式社会主義」について</p> <p>【第21回】1960年代のアジア経済 ②開発体制の成立 内容: ①開発体制とは何か、②成立した国際的要因、③成立した国内的要因</p> <p>【第22回】1970年代のアジア経済 ①緑の革命 内容: ①緑の革命とは何か、②緑の革命の実施事例: フィリピンについて</p> <p>【第23回】1970年代のアジア経済 ②工業化戦略と経済的ナショナリズム 内容: ①輸入代替工業化政策、②輸出志向工業化政策、③タイの経済的ナショナリズム、マレーシアのブミトラ政策について</p> <p>【第24回】1980年代のアジア経済 ①構造調整、インセンティブ改革 内容: ①構造調整とは何か、②タイ、インドネシアの事例、③社会主義国インセンティブ改革: 中国の改革開放路線、ベトナムのドイモイについて</p> <p>【第25回】1980年代のアジア経済 ②プラザ合意と外資主導の輸出志向工業化 内容: ①プラザ合意、②東南アジアへの外国投資の流入、③貿易相手国の変化について</p> <p>【第26回】アジア経済の課題 経済成長と民主化、圧縮された近代 内容: ①開発体制の溶解、②社会主義経済体制の放棄、③民主化と経済成長について、④圧縮された近代、中所得国の罠</p>
事前・事後学修	<p>事前学習: 授業で使用する文書・統計資料、パワーポイントレジュメは、1週間前にmanabaのコンテンツにアップしておくので、事前に目を通し、疑問点や気になる点を確認しておくこと。</p> <p>事後学習: 授業のノートを整理し、復習しておくこと。その際には、manabaの小テスト機能も活用すること。その上で、課題に取り組むこと。授業中に紹介する文献で、気になるものは図書館等を利用して入手し、各自、目を通すこと。分からぬことがある場合は、指定図書①で確認し、それでも分からぬ場合はメールで質問すること。</p> <p>また普段から、アジアの現代的な問題に関心を持つことも重要である。ネット等で海外ニュースに目を通す習慣をつけること。</p>
成績評価方法・基準	<p>①平常点 40% a. 小テスト(毎回) 20% b. 課題の提出(毎回) 20% ②試験 60% a. 春学期期末試験 30% b. 秋学期期末試験 30%</p> <p>※ただし課題の未提出が1/3を超えた場合は成績評価の対象としない。また期末試験は、春学期と秋学期ともに受けること。どちらかを受験しなかった場合は成績評価の対象としない。 ※課題の評価は、授業を踏まえているか、その上で自らの見解が述べられているかで行う。</p>
教科書・指定図書	<p>指定図書 ①加納啓良『東大講義東南アジア近現代史』めぐらん、2012年。 ②加納啓良『資源大国』東南アジア 世界経済を支える「光と陰」の歴史』洋泉社、2014年。 ③Ian Brown, Economic Change in South-East Asia, c.1830-1980, Oxford University Press, Kuala Lumpur, 1997. *その他の文献については、授業中に紹介する。</p>
履修上の留意点	経済史概論を受講していることが望ましい。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED202
講義コード	1EE000600
講義名	欧米経済史
担当者名	須永 隆
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目的趣旨	欧米諸国の経済発展に関して、工業化は産業革命以降に本格化したといわれるが、内側をよくみると、そこに至るまでに、前提となる条件が徐々に整えられていったことがわかる。ここではまず、近世の農村工業の収生から産業革命に至るまでの経過を見つめ、次いで、産業革命以降の工業史に注目する。機械製工業の発達、技術革新や労働運動の展開、自由貿易主義や帝国主義、さらに経済恐慌などのテーマを通じて、資本主義システムの特徴を理解する。欧米諸国工業化過程を全体的にたどることが、この講義の目的である。
授業の内容	経済史概論(ただし前提科目ではない)を履修した学生が一段と高い歴史意識をもてるよう指導したい。歴史は暗記物と考えてきた人もいるだろうが、本当はそうではない。同時代に身を置いて考える習慣をつけることで、歴史の流れを理屈的に見ることが可能となるだろう。オーソドックな内容でありながら、さまざまな視点から、歴史学ぶ楽しさを示してみる。就職が厳しい時代、自分が置かれた時代を客観的に見つめなおすのに役立つだろう。欧米の歴史が植民地主義や帝国主義など海外膨張を伴うことは周知のことではあるが、この授業では単なる資本主義論ではなく、近代資本主義の生成・発展について特に扱うこととする。
科目的到達目標 (理解のレベル)	この科目の到達目標は、学生が古代・中世・近世・近代、そして現代と、基本的な欧米経済史の流れを自分でわかるようにすることである。しっかり学べば、欧米で起きている現代の事象を自分で歴史的に判断できるようになるだろう。歴史知識を整理することで、どのような角度で歴史を見ていか、理解することが可能となるであろう。
授業形態	講義
授業方法	前期：後期ともに授業は原則として対面方式とする。教室では対話を盛り込んで授業を開く。パワーポイントの使用を基本とし、途中に映像、動画を繰り込んでいくことになるだろう。毎回、丁寧に授業を進める。また、ときおり課題(レポート)が出され、提出(マナバを使用)が求められる。時間が許せば特定テーマについて意見交換をおこない、自主的な学びを促すことになる。
授業計画	<p>(前期)</p> <p>【第1回】 テーマ：中世ヨーロッパにおける世界経済(1)遠隔地商業と遍歴商人—奢侈品生産・奢侈品市場 内容：商業の復活、商業圏、遠隔地商業</p> <p>【第2回】 テーマ：中世ヨーロッパにおける世界経済(2)スペインとポルトガル 内容：新航路の開拓</p> <p>【第3回】 テーマ：中世ヨーロッパの農村的世界(1) 内容：中世の土地制度と農民</p> <p>【第4回】 テーマ：中世ヨーロッパの農村的世界(2)農民の生活 内容：伝統主義、慣習</p> <p>【第5回】 テーマ：中世ヨーロッパの都市的世界(1)理念と構造 内容：中世都市の構造</p> <p>【第6回】 テーマ：中世ヨーロッパの都市的世界(2)同業組合の形成 内容：中世都市と市民</p> <p>【第7回】 テーマ：イギリスにおける農村工業の展開(1)独立自営農民の形成 内容：農村工業、転換期としての15世紀</p> <p>【第8回】 テーマ：イギリスにおける農村工業の展開(2)中産的生産者層の成長、市民社会の形成 内容：プロト工業化論</p> <p>【第9回】 テーマ：国家の形成と重商主義 貿易差額主義、産業保護 内容：重金主義 貿易差額</p> <p>【第10回】 テーマ：固有の重商主義の社会的背景—国民的産業の形成</p>

内容: 産業保護 固有の重商主義 イギリスとオランダ	
【第11回】 テーマ: 投機としての資本主義—南海泡沫事件の歴史的意味 内容: 経済的繁栄と富	
【第12回】 テーマ: 農村工業の成長と地域市場の出現 内容: 国民的産業としての毛織物工業の発展	
【第13回】 テーマ: イギリスの海外市場と植民地獲得 内容: 北米植民地の支配	
(後期)	
【第14回】 テーマ: イギリス産業革命の歴史的意義(1) 前提条件 内容: 人口増大、植民地獲得、国内需要の増加など	
【第15回】 テーマ: イギリス産業革命の歴史的意義(2) 経過と結果 内容: 木綿工業と製鉄業を中心に	
【第16回】 テーマ: 工業化の波及と後発国の経済発展(1) イギリス植民地としての北アメリカ 内容: 南北アメリカの差異、北米の形成過程	
【第17回】 テーマ: 工業化の波及と後発国の経済発展(2) 財務長官ハミルトンの経済構想 内容: 北米の経済政策、イギリス支配からの離脱	
【第18回】 テーマ: 工業化の波及と後発国の経済発展(3) ドイツの事情 内容: ドイツ固有の事情、エルベ川・東西の差異	
【第19回】 テーマ: 工業化の波及と後発国の経済発展(4) F.リストの国民経済理論 内容: 關税同盟、鉄道政策、重工業化	
【第20回】 テーマ: 世界経済の拡大と自由貿易体制の確立 内容: イギリス中心の世界経済	
【第21回】 テーマ: 世界経済の拡大と帝国主義体制の摩擦 内容: 1870年代からの長期不況、イギリス経済の相対的低下	
【第22回】 テーマ: 1920年代のアメリカ経済—繁栄と投機的経済の萌芽 内容: 空前の好景気を迎える北米	
【第23回】 テーマ: 1930年代の世界経済(1)—ケインズ経済学形成の背景 内容: 北米の大恐慌	
【第24回】 テーマ: 1930年代の世界経済(2)—ニューディール政策 内容: F・ローズベルトの経済政策	
【第25回】 テーマ: 欧米資本主義と戦後の世界(1) アメリカ中心の世界 内容: 戦前の教訓を生かした戦後の世界の構築	
【第26回】 テーマ: 欧米資本主義と戦後の世界(2) 多極化する経済、広がる格差、南北問題 内容: 相対化する世界経済	
事前・事後学修	歴史の学びは教室以外の場、とくに図書館や自宅で、関連図書をじっくり読むことが大切である。この授業では、読むべき参考図書が指示され、ときおり宿題も課される。参加者は、真面目な読書を実践して、与えられた宿題をレポートとして丁寧に仕上げ、提出することが求められる。また基本図書をあけるので、自分からそうした本を取り、丁寧に読むことも大事である。
成績評価方法・基準	レポート提出、前期・後期試験を総合して成績評価する。評価の目安は前期レポート10%、前期試験40%、後期レポート10%、後期試験40%程度とする。レポートについては特定のテーマについて知識を確認してもらう。レポート提出の方法はmanabaを利用する。前期試験と後期試験は教室でおこなう予定である。前期内容、後期内容を区切りとして把握できるような試験を考えることになる。
教科書・指定図書	教科書は指定しない。配布資料(担当者作成のテキスト)を中心で講義を進める。 (参考図書) 須永隆『プロテスタント亡命難民の経済史』昭和堂、2010年。
履修上の留意点	1. 真面目かつ楽しい授業にしたいので、意欲のない安易な履修は避けてほしい。 2. 毎回の課題提出を心掛けて欲しい。 3. レポート作成の際のインターネットからのコピペ、他人レポートの「借用」は不正行為とみなす。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED207
講義コード	1EE000800
講義名	各国経済論(アジア)[韓国]
担当者名	奥田 聰
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	近年著しく成長を遂げるアジア諸国の経済は、資源の賦存状況、地理的条件、歴史的経路に依存し多様であり、各固有の問題が存在する。この科目は、既に経済理論を学修した学生が応用科目として、アジア各国の産業構造、貿易構造、経済政策等を実証的に学ぶことを趣旨とする科目である。
授業の内容	<p>春学期においてはこれまでの韓国経済の急速な経済発展の様子を回顧し、現在も輸出主導型の成長構造を維持する経済の現状と課題を概観する。輸出を梃子とした経済発展が採用された背景、アジア通貨危機の苦い経験をもたらした要因、リーマンショック後の成長鈍化と輸出主導型経済の限界、FTAの進展、そして現在の韓国経済が直面する主要課題を扱うことにする。</p> <p>秋学期は春学期で扱った現代韓国経済の諸課題についてさらに検討していく。世界的にみてかなりの程度進行した少子化、豊かさの中で浮き彫りになる高齢者問題と相対的貧困・孤立、進行するデジタル化の明暗、高学歴社会のもたらすひずみ、そしていまだに根強い男尊女卑の考え方などを扱っていくことにする。</p> <p>春学期秋学期とも、毎回の授業で生じた疑問・質問を積極的に出してもらいたい。これらに対しては翌週授業の冒頭で答えることのより、受講者の学びをより豊かなものにしていきたい。</p> <p>(同名で単位数・開講期の異なる科目が存在するので要注意。半期履修科目を履修する受講者においては、秋学期に関する記載事項は無視されたい)</p>
科目的到達目標 (理解のレベル)	<p>春学期においては、韓国経済が内戦の灰燼から立ち上がり、世界を驚かす急速な経済発展を遂げた道筋を跡付け、経済発展の根幹的要素であった輸出主導政策の進展を助けた要因を理解する。また、FTAなど対外経済政策や現政権の経済政策方向を理解する。</p> <p>秋学期においては、経済の成熟化の陰で進行する少子高齢化と相対的貧困、学歴志向のもたらす過当競争、根強い男尊女卑に見る社会の断絶などの負の側面があることを理解するとともに、これらの問題が日韓共通であることも理解する。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>春学期は教員作成の資料を基に講義を行う。秋学期は教科書を読み進めていくが、その中で出てくるキーワードをまとめた資料を基に講義を行う。</p> <p>毎回の講義資料は、所定の講義開始時間までにmanabaにアップする。講義開始時間から教室での講義を実施する。受講者の理解度測定と質疑のためResponによる応答(気づき、疑問、質問など)の提出を求める。出された疑問・質問に対しては翌週授業の冒頭で回答していきたい。</p> <p>講義資料の形式は、前期はWordを用いた資料を、秋学期はキーワードをまとめたExcelシートを配布する。画像コンテンツなどを交えたパワーポイントによる資料を使う場合もある。受講者の理解を深めるため、教科書出版後の事象についても適宜補足しながら授業を進める。</p> <p>講義に関する問い合わせは下記アドレスへのメールによること。 okuda@asia-u.ac.jp</p>
授業計画	<p>*** 春学期 ***</p> <p>【第1回】オリエンテーション(講義概略の紹介、受講者の意向聴取等) 【第2回】解放後の韓国経済(日本の敗戦、朝鮮戦争後の荒廃、李承晩政権下での原始的工業発展) 【第3回】朴正熙政権下での経済発展(「先成長・後分配」による成長推進、開発独裁、輸出主導成長、重化学工業化と経済政策の変質) 【第4回】全斗煥政権の経済運営(1980年不況後の経済健全化策、「三低」景気) 【第5回】民主化とその後の中止権としての歩み(民主化と労働運動、自由化と国際化、過剰投資) 【第6回】アジア通貨危機とその後(原因、経過、IMF体制、応急措置の奏効、急速な回復、その後の歩み) 【第7回】世界同時不況と韓国経済(リーマンショック後の景気後退、その後のV字回復と成長鈍化、文在寅政権の経済政策)、前期中間レポート出題 【第8回】輸出頼みの成長構造(アジア通貨危機後の経済成長における輸出の重要性、内需の不振、庶民生活の苦境など) 【第9回】輸出入の構造(スマホ、半導体、自動車、船舶などの主力輸出商品、資源・エネルギーおよび部品・素材の輸入、主要国・地域別貿易動向、対日輸入の実態) 【第10回】積極的なFTA戦略(経済領土の拡大、第三国への影響、最近のFTA政策の方向) 【第11回】今後に向けての問題点と展望①(チャイナファクター、日韓・米韓・南北関係) 【第12回】今後に向けての問題点と展望②(尹錫悦政権の経済政策など最新情勢)、前期期末レポート出題 【第13回】前期期末レポートに関する執筆相談、前期授業内容についての質疑応答</p> <p>*** 秋学期 ***</p> <p>【第14回】少子化1(急速な少子高齢化の実態、結婚・子育ての負担感) 【第15回】少子化2(国際化と教育費削減) 【第16回】貧困と孤立の顕在化1(年金制度の限界と家族扶養の崩壊) 【第17回】貧困と孤立の顕在化2(高齢者の居場所の確保とおひとり様時代の到来) 【第18回】デジタル先進化の明暗1(キャッシュレス、住民登録番号による管理) 【第19回】デジタル先進化の明暗2(電子政府の取り組み、先進化する教育現場) 【第20回】授業内容の補足(少子化、貧困・孤立、デジタル化)、第1回小テスト 【第21回】高学歴社会の憂鬱1(大学進学率の伸び悩み、親による「教育虐待」) 【第22回】高学歴社会の憂鬱2(大企業入社の過当競争) 【第23回】フェミニズムの隆盛1(『キム・ジョン』への反響) 【第24回】フェミニズムの隆盛2(21世紀のフェミニズム隆盛のうねり)</p>

	<p>【第25回】フェミニズムの隆盛3(韓国政治とジェンダー、教育現場での動き) 【第26回】後期授業内容全体についての補足、第2回小テスト</p>
事前・事後学修	<p>授業中に得た知識を定着させるため、事後学習に重きを置くとよい。</p> <p>授業前には、春学期については授業項目に関するネット検索などによって予備的な知識を得ておく。後期は教科書の該当部分をよく読みこむとともに関連報道にも注意しておくこと。どちらの場合も、よくわからない用語等はネットなどである程度調べを付けておくように。(予習:所要約1時間)。</p> <p>授業後は授業で配布されたレジュメやキーワードリストの記載内容をよく読み返す。不明点については授業終了時のリスポンスに記入するか、書籍あるいはネット検索などで調べる。それでも不明であればメールまたは次回授業での質問を試みる。(復習:所要約2時間)</p>
成績評価方法・基準	<p>春学期50%、秋学期50%を基本とする。</p> <p>春学期評定の内訳は中間レポート30%、期末レポート40%、毎回授業のリスポンス30%を基本とする。本学学生の外国语運用能力の向上を支援するため、母国語以外の言語によって執筆した場合には加点を考慮する。対応可能な言語については開講後に指示を出す。レポート出題と提出はmanabaにて行う。</p> <p>秋学期評定の内訳は第1回小テスト30%、第2回小テスト40%、毎回授業のリスポンス30%を基本とする。本学学生の外国语運用能力の向上を支援するため、母国語以外の言語によってテスト回答した場合には加点を考慮する。対応可能な言語については開講後に指示を出す。</p>
教科書・指定図書	<p>春学期 教員作成の講義資料を配布(manabaより各自取得すること)</p> <p>秋学期 教科書:春木育美『韓国社会の現在---超少子化、貧困・孤立化、デジタル化』、中央公論新社、2020年8月25日。</p>
履修上の留意点	<p>講義方針を徹底するため、第一回の講義資料は必ず取得し、講義の目的、方法、計画等をよく理解しておくこと。</p> <p>秋学期に使用する教科書は一般向けのものであるが、韓国に特化した内容であって下調べがかなり必要となる。厳しい授業なので、心して臨むこと。</p> <p>やむを得ず講義に参加できないときはあらかじめ連絡されたい。無断でのコメント未入力・欠席は半期授業では4回、通年授業では7回を限度とする。</p>
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED207
講義コード	1EE000810
講義名	各国経済論(アジア)[太平洋圏]
担当者名	奥田 聰
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	近年著しく成長を遂げるアジア諸国の経済は、資源の賦存状況、地理的条件、歴史的経路に依存し多様であり、各国固有の問題が存在する。この科目は、既に経済理論を学修した学生が応用科目として、アジア各国の産業構造、貿易構造、経済政策等を実証的に学ぶことを趣旨とする科目である。
授業の内容	<p>世界の成長センターとなったアジア太平洋経済は今後も順調な成長が見込まれる。この講義は2冊の教科書を使ってアジア太平洋経済を概観する。</p> <p>まず、野口著『世界経済入門』を使い、アジア太平洋経済の一つの核となる日本経済の世界における位置を確認したうえで、世界貿易の構造、企業移転、自由貿易の利益、FTAの功罪、国際金融・課税制度など、国際経済理解のための基礎を概観する。さらに、米国、中国、アジアNIESに関する個別課題を見ていく。この他、韓国については教員提供の資料を使って解説する。</p> <p>次に、朱建栄編著『米中経済戦争と日本経済の突破口』を用いて、アジア太平洋経済に大きな影響を与える米中経済戦争と中国経済に関するトピック(ニューエコノミー、深圳とイノベーション)を扱う。</p> <p>春・秋学期とも、毎回の授業で生じた疑問・質問を積極的に出してもらいたい。これらに対しては翌週授業の冒頭で答えることにより、受講者の学びをより豊かなものにしていきたい。</p> <p>(同名で単位数・開講期の異なる科目が存在するので要注意。半期履修科目を履修する受講者においては、秋学期に関する記載事項は無視されたい)</p>
科目的到達目標 (理解のレベル)	アジア太平洋経済の現状を把握し、どのような問題に直面するのかを理解し、今後の成長に向けての課題を考察できる基礎を作る。また、講義を通じて、国際経済理解のために必要となる貿易、投資、国際金融、国際課税などに関する基礎的な知識を身につける。 このほか、中国経済のこれまでの発展経路を確認するとともに、近年の目覚ましい発展の様子とそれを可能にした要因について基本的な理解を得る。
授業形態	講義
授業方法	<p>教科書をもとに教員が作成した講義資料を基に講義を行う。キーワードとその解説をまとめたExcelシートを配布する。</p> <p>毎回の講義資料は、所定の講義開始時間までにmanaba にアップする。講義開始時間から教室での講義を実施する。受講者の理解度測定と質疑のためResponによる応答(気づき、疑問、質問など)の提出を求める。出された疑問・質問に対しては翌週授業の冒頭で回答していきたい。</p> <p>受講者の理解を深めるため、教科書出版後の事象についても適宜補足しながら授業を進める。</p> <p>講義に関する問い合わせは下記アドレスへのメールによること。 okuda@asia-u.ac.jp</p>
授業計画	<p>*** 春学期 ***</p> <p>野口著『世界経済入門』</p> <p>【第1回】オリエンテーション(通期) 【第2回】GDPで世界を捉える 【第3回】貿易、対外資産、技術革新力で各国を比較する 【第4回】世界貿易の構造、日本の貿易収支の構造変化 【第5回】製造業の海外移転、外資による買収、移民を阻止すべきか? 【第6回】「比較生産費の理論」とは何か?食料自給率は高いほうがよいのか? 【第7回】それまでの講義内容の補足、第1回小テスト 【第8回】FTAやTPPは望ましいのか?水平分業とは何か? 【第9回】為替レートと購買力平価、実質為替レート、国際金融制度の変遷 【第10回】国際課税制度とその問題点 【第11回】米国:成長する経済、変化する企業構成、フリーランサーという新しい働き方 【第12回】米国:シリコンバレーとラストベルト、トランプ大統領の経済政策 【第13回】前期授業の補足、第2回小テスト</p> <p>*** 秋学期 ***</p> <p>【第14回】バイデン・米政権の経済・外交政策(詳しくは開講後指示) 【第15回】中国:工業化と目覚ましい成長、経済成長は続くか?、成長するグローバル企業 【第16回】中国:躍進するIT産業、対外戦略、人材 【第17回】アジアNIES:経済の発展、「チャイナリスク」と東南アジア 【第18回】韓国経済のトピック(コロナ、キャッシュレス、FTAなど)詳しくは開講後に指示)</p> <p>朱建栄編著『米中経済戦争と日本経済の突破口』</p> <p>【第19回】中国経済と米中貿易戦争の行方(中国経済の三重苦・過剰債務、米中貿易戦争の双方の内情、交渉による解決に傾くトランプと強硬策に傾斜する冷戦派) 【第20回】中国経済と米中貿易戦争の行方(貿易戦争の再燃、デジタル生態圈のブロック化、「追いつけ意識」と中国異質論、米中貿易戦争が</p>

	<p>世界経済に与える影響、中国のニューイエコノミー)</p> <p>【第21回】それまでの講義内容補足、第3回小テスト</p> <p>【第22回】拡大する中国のニューイエコノミー(中国のニューイエコノミーと市場・産業育成、システム改革・企業家精神の醸成とイノベーションの活発化、ネット分野におけるイノベーションの循環)</p> <p>【第23回】拡大する中国のニューイエコノミー(IoT時代における中国のイノベーションの優位性、イノベーション活動の持続性に対する制約要因)</p> <p>【第24回】中国の新イノベーション都市・深圳(「大衆創業・万衆革新」、R&Dセンターの集積、イノベーションを支えるエコシステム、中国政府の狙い)</p> <p>【第25回】中国の新イノベーション都市・深圳(移民都市、既得権のなさ、事例紹介[DJI,MAKEBLOCK]、オープン&クローズド戦略、日本への示唆)</p> <p>【第26回】通年講義全体の補足、第4回小テスト</p>
事前・事後学修	<p>授業前には、教科書の該当部分をよく読みこんでおくこと。この際、よくわからない用語等はネットなどである程度調べを付けておくように(予習:所要約1時間)。</p> <p>授業後は授業で配布されたキーワードリストの記載内容をよく読み返すとともに、教科書の該当部分と対照する。ここでもよくわからなかつた用語等はネット等で調べる。どうしてもわからない時はメールで問い合わせる、次回授業の際に質問するなどを通じて解決すること(復習:所要約2時間)</p>
成績評価方法・基準	<p>春学期50%、秋学期50%。</p> <p>春学期の評定の内訳は第1回小テスト30%、第2回小テスト40%、毎回授業へのリスポンスの提出30%を基本とする。本学学生の外国語運用能力の向上をサポートするため、母国語以外の外国語でレポートを執筆した場合には加点を考慮する。</p> <p>秋学期の評定の内訳は第3回小テスト30%、第4回小テスト40%、毎回授業へのリスポンスの提出30%を基本とする。本学学生の外国語運用能力の向上をサポートするため、母国語以外の外国語でレポートを執筆した場合には加点を考慮する。</p> <p>また、授業に関連する内容のレポートを自主的に執筆し、提出した場合にも加点を考慮する。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書1:野口悠紀雄『世界経済入門』(講談社現代新書2473)、講談社、2018年8月。</p> <p>教科書2:朱建栄編著『米中貿易戦争と日本経済の突破口』、花伝社、2019年8月。</p>
履修上の留意点	<p>講義方針を徹底するため、第一回の講義資料は必ず取得し、講義の目的、方法、計画等をよく理解しておくこと。</p> <p>毎回の授業では、レスポンスを必ず提出すること。レスポンス提出がないと評定上不利となる。やむを得ず講義を受けられない場合は事前に教員宛にメールで連絡すること。厳しい授業なので、心して取り組むこと。無断での欠席・リスポンス未入力は半期講義にあっては4回、通年講義では7回を限度とする。</p>
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED207
講義コード	1EE000820
講義名	各国経済論(アジア)[中国]
担当者名	遊川 和郎
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	近年著しく成長を遂げるアジア諸国の経済は、資源の賦存状況、地理的条件、歴史的経路に依存し多様であり、各固有の問題が存在する。この科目は、既に経済理論を学修した学生が応用科目として、アジア各国の産業構造、貿易構造、経済政策等を実証的に学ぶことを趣旨とする科目である。
授業の内容	春学期は、中国についてより高い次元で考えることができるよう、建国以来の歴史的な経緯を振り返りながら、基本的な知識を学びます。政権の正統性、台湾問題、大躍進政策、人民公社、文化大革命、中ソ関係、米中関係、日中関係、計画経済と市場経済、四つの近代化、党大会、三中全会、改革開放、外資導入、外資誘致、経済特区、税制優遇、市場経済化、国有企業改革、民営企業、プラザ合意、国家資本主義、経済格差、共同富裕等がキーワードです。 秋学期では前期で習得した知識を土台に、中国経済が直面する諸問題に焦点を当てて論じます。格差や人口問題、国際新秩序、中国企業、イノベーション、FTA(自由貿易協定)、「一带一路」などを切り口にそれぞれの問題の深層や本質を把握し、さらにその解決策を考えます。
科目的到達目標 (理解のレベル)	春学期は現代中国を分析する基本的な視座を涵養するとともに、広く社会や経済事象に対する考え方を身につけます。これに関連して基本的な経済用語や定義などについて、正確な理解が必要です。 通年では、中国経済を通して広く経済理論を理解するとともに、進行中の諸問題から問題の本質を発見し、解決能力を養うことを目標とします。特に、未知の領域に対して既存の解を当てはめるだけではなく、新たな知見を提言する姿勢が求められます。
授業形態	講義
授業方法	教員からの講義、問い合わせに対して、受講者がそれぞれ自分の頭で考えることを中心に行います。講義は視聴覚(ビデオ)教材を利用し、議論の共通の土台を作ります。授業に集中し、積極的に発言してください。 manabaで授業各回のレジュメや資料を共有する他、manabaの小テスト機能を利用して基礎知識の定着を図り、manabaレポート機能を利用してレポートの提出を求めます。
授業計画	【第1回】オリエンテーション、国の成り立ちを考える ①建国以前の中国と中国共産党 【第2回】国の成り立ちを考える ②建国の理想と現実。政権の正統性、民主主義と権威主義、台湾 【第3回】混迷する社会主義建設 ①人民公社化と大躍進。私有財産の否定、奇妙な発展戦略 【第4回】混迷する社会主義建設 ②経済政策をめぐる対立。大躍進の失敗と走資派の台頭、劉少奇 【第5回】混迷する社会主義建設 ③文化大革命。「農業は大寨に学べ」、四人組、紅衛兵 【第6回】混迷する社会主義建設 ④中ソ対立と米中関係。国境紛争、キッシンジャー国務長官、ニクソン訪中 【第7回】混迷する社会主義建設 ⑤毛沢東の晩年と四人組、鄧小平。周恩来、四つの近代化、天安門事件、四人組逮捕 【第8回】改革開放政策 ①農村からのスタート。農業生産責任制(請負制)、万元戸、先富論 【第9回】改革開放政策 ②対外開放政策と外資の導入。インフラ整備、政府開発援助(ODA)、経済特区 【第10回】改革開放政策 ③市場経済化の苦難。国有企業改革、単位、セーフティネット 【第11回】改革開放政策 ④WTO加盟、民進国退、国進民退、肥大化する国有企業、民営企業 【第12回】日中関係 ①国交正常化、戦後賠償、日中平和友好条約と円借款、台湾問題 【第13回】日中関係 ②日本企業の中国進出、世界の工場から世界の市場へ、インバウンド 【第14回】改革開放がもたらしたもの ①国民生活の向上(消費の進化)、マイカーの普及、住宅改革 【第15回】改革開放がもたらしたもの ②格差問題。絶対貧困、地域格差、都市と農村、業種間格差、共同富裕 【第16回】中国の新興企業とイノベーション ①中国のネット事情とネットビジネス、独身の日 【第17回】中国の新興企業とイノベーション ②アリババ、ネット企業によるイノベーション 【第18回】中国の新興企業とイノベーション ③デジタルデータと信用スコア、プラットフォーマー 【第19回】人口問題 ①一人っ子政策の成果と副作用、二人っ子、第三子容認 【第20回】人口問題 ②高齢化問題、生産年齢人口、流動人口、労働力の枯渇 【第21回】人口問題 ③戸籍制度見直し、世代間の不公平、地域間の優勝劣敗 【第22回】中国が模索する新秩序と世界 ①米中摩擦。摩擦の深層、米中の主張と対抗措置

	<p>【第23回】中国が模索する新秩序と世界 ②一帯一路とAIIB(アジアインフラ投資銀行)、シャープパワー、債務のわな</p> <p>【第24回】中国が模索する新秩序と世界 ③GATT、WTO、FTA、経済連携協定、TPP、RCEP</p> <p>【第25回】香港問題。返還、一国二制度、国際金融センター、国家安全維持法、大湾区</p> <p>【第26回】台湾問題。蒋介石、蔣經国、李登輝、馬英九、蔡英文、国民党、民進党、本省人、外省人</p>
事前・事後学修	<p>毎回の授業後、履修内容や感想、質問などを記した受講レポート(500字以上)提出を義務付けます(詳細は授業時に説明)。授業で履修した内容をきちんと整理し、確認しながら進んでください。また授業時に指定された図書をよく読んでさらに理解を深めてください。</p> <p>春学期はmanabaを利用して2回の小テストを予定、秋学期は同様に小テスト1回と課題レポートの提出1回を予定しています。いずれも詳細は授業時に説明します。</p>
成績評価方法・基準	<p>春学期、秋学期それぞれ以下の要素で評価し、合算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点(毎回、受講レポートを提出)35% ・課題(春学期、秋学期各2回)35% ・最終試験(春学期、秋学期とも実施)30% <p>毎回の授業にきちんと参加し、期限通りに課題を提出することが必須です。特に、毎回の受講レポート提出を通して記述能力の向上を図ります。課題(小テスト)では、学んだ知識が定着していることを確認します。</p> <p>詳細は授業時に説明します。</p>
教科書・指定図書	教科書は使用しませんが、関連する図書を適宜紹介します。
履修上の留意点	毎回の授業に参加、集中することが重要です。各回の課題に真剣に取り組み、必ず期限内に提出することが求められます。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED206
講義コード	1EE001000
講義名	開発経済学
担当者名	布田 功治
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/C
備考	

科目の趣旨	世界には、先進国がある一方、開発途上国も多数存在している。より豊かな国になるための経済開発は先進国、開発途上国を問わず、一国の最も重要な課題の一つである。さらに、開発途上国の経済開発は当事国だけの問題に限らず、地域や世界全体にまたがる問題でもある。この科目では、経済開発とは何か、すでに経済発展を成し遂げた先進国の歴史的な経緯、開発途上国に共通する問題は何か、経済開発を達成するためにはどうしたらよいか、どのようなタイプの経済開発が最も望ましいか、持続可能な開発のために求められるのは何か、などについて国内的、国際的観点から考察する。
授業の内容	講義前半では、開発途上国が経済発展を遂げるための工業化戦略について、その歴史的展開をはじめに解説する。次に、開発途上国の経済発展のための先進国側からの支援について、その理論的支柱となった成長理論の変化を考慮しつつ解説する。講義後半では、二重経済モデルに基づき農村開発の重要性をはじめに解説する。次に、格差やガバナンスの経済発展に与える影響を解説する。最後に、途上国から中進国へと成長した後で持続可能な開発のために留意すべき事例について解説する。
科目的到達目標 (理解のレベル)	1. 工業化戦略の歴史的展開を理解し、望ましい工業化戦略の特徴を指摘できることを目指す。 2. 成長理論や二重経済モデルを理解し、それらの理論が導く含意を解説できることを目指す。 3. 格差やガバナンスに関する開発政策の目的とその結果について、理論的に解説できることを目指す。 4. 経済発展を遂げて中進国となった後の課題と対策を解説できることを目指す。
授業形態	講義
授業方法	講義形式。ただし、後半部分は数式の解説を中心とするため、当初40分間程度でmanaba掲載のPPT資料やWord資料を各自読み込み(隨時、質問は受け付ける)、残り時間で解説やグループワークの議論にあてるなど、反転授業の手法も試みる。
授業計画	[第1回] イントロダクション: 開発経済学の全体像(前半)、経済開発の捉え方 [第2回] 豊かさとは何か : 社会経済指標の読み方と使い方、ペティ・クラークの法則 [第3回] 工業化戦略(1) : 輸出ペシミズム論にもとづく輸入代替工業化 [第4回] 工業化戦略(2) : 輸入代替工業化から輸出指向工業化へ [第5回] 工業化戦略(3) : 工業化促進のための制度構築(構造調整政策、マーケットフレンドリー・アプローチ) [第6回] 工業化戦略(4) : 工業化促進のための制度構築(貯蓄投資ギャップ対策としての資本自由化) [第7回] 工業化戦略(5) : 資本自由化とともにう急成長と通貨金融危機 [第8回] 成長理論と支援手段の変遷(1) : 貧困の悪循環、ハロッド・ドーマーモデル、先進国からの援助の重要性 [第9回] 第1回小テストおよび解説 [第10回] 成長理論と支援手段の変遷(2) : 内生的成長モデルと人的資本の創造支援 [第11回] 成長理論と支援手段の変遷(3) : 戰略化する政府開発援助(ODA) [第12回] 成長理論と支援手段の変遷(4) : NGOとソーシャル・ビジネスによる支援 [第13回] 第2回小テストおよび解説 [第14回] 二重経済モデル(1) : 開発経済学の全体像(後半)、モデルに関する予備的考察 [第15回] 二重経済モデル(2) : 基本モデル [第16回] 二重経済モデル(3) : 農業部門における労働需要曲線の導出 [第17回] 二重経済モデル(4) : 二部門間の労働移動 [第18回] 二重経済モデル(5) : 不完全競争の場合における労働移動 [第19回] 二重経済モデル(6) : 食料不足点 [第20回] 二重経済モデル(7) : 転換点と緑の革命 [第21回] 所得分配と経済発展: 格差が経済成長に及ぼす影響 [第22回] ガバナンスと経済発展(1) : 開発独裁が経済成長に及ぼした影響 [第23回] 第3回小テストおよび解説 [第24回] ガバナンスと経済発展(2) : 民主化が経済成長に及ぼす影響

	<p>[第25回]発展後の課題(1):中所得国の戻とその対策</p> <p>[第26回]第4回小テストおよび解説</p>
事前・事後学修	<p>事前学習:各回の講義内容のパワーポイント資料を事前にmanabaにアップロードするので、受講前に閲覧して理解できない箇所を発見してから講義に臨むこと。</p> <p>事後学習:各回の講義内容の理解度を確認するための参考資料として到達度チェックテストを配布するので、すべて暗記するまで復習に励むこと。また、受講後に家族や友人らに学習した講義内容を分かりやすく説明しつつ、講義中に示された論点について議論することを推奨する。</p>
成績評価方法・基準	平常点40%、第1回小テスト20%、第2回小テスト10%、第3回小テスト10%、第4回小テスト20%で評価する。
教科書・指定図書	<p>教科書は指定せず、各回講義の講義資料や到達度チェックテストをmanabaの講義資料に掲載する。</p> <p>指定図書:アジア開発銀行『アジア開発史: 政策・市場・技術発展の50年を振り返る』勁草書房、2021年 (ISBN: 4326504846)。英語版は、ADBの下記URLから無料ダウンロード可能 (https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity)。</p> <p>また、参考図書一覧は、実行シラバスに記載する。</p>
履修上の留意点	数式やグラフを用いた学習事項も多いため、経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学の基本レベル相当の履修を前提として、講義を展開する。前期集中講義となるため、数学(微分)に不安のある場合は、講義資料を事前に読んで関係する数学の予習も十分に行ってから講義に臨むこと。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED209
講義コード	1EE001100
講義名	経済思想論
担当者名	八木 尚志
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目的趣旨	この科目は経済学の思想的な基礎や基盤を概観するものである。近代資本主義の出現から現代資本主義の形成に至る過程で、主要な経済学者や経済学派がその時代の経済現象をどのように捉えていたかを思想史的に解説することを目標としている。
授業の内容	本科目の趣旨を踏まえて、この講義では、経済システムを第1回に「自由と市場経済」、第2回に「資本主義と企業」という2つの見方を軸として講義を組み立てます。講義の前半7回を「自由と市場経済」をめぐる経済学者の思想について取り上げ、後半7回を経済システムを「資本主義」及び「企業」に着目して講義を行う予定です。 経済思想という分野は、経済政策の考え方や福祉の考え方など、問題を細かくすれば非常に多くの思想が存在するでしょう。しかし、この講義では、経済という大きなシステムを考える場合に重要な「自由主義」、「市場経済」、あるいは「資本主義」としてみた場合の経済思想について講義することにします。これによって、経済という大きなシステムを理解しようとする場合の基本的な視角や考え方の基礎が、経済学者によってどのように論じられてきたのかということを講義していく予定です。
科目の到達目標 (理解のレベル)	現在の主流的な経済学は、自由な競争とそれがもたらす秩序に目を向ける市場経済の枠組みでの分析用具を発達させてきました。この講義では、自由主義に関する経済思想と、「市場経済」と対比すると考え方として「資本主義」や「企業」といった見方に着目することによって講義をすることにより、経済理論の背景にある経済思想について理解を深め、経済というシステムを見るとときの複眼的な思考を持つことができる目標とします。
授業形態	講義
授業方法	授業支援システム(manaba)を利用する。毎回の授業で指定された教科書類を読んだのち、講義終了後に、小テストや課題提出を行っていただきます。毎回の課題については決められた期限までに必ず提出してください。授業支援システム(manaba)を使用して小テストへの解答や課題提出を行うこと。
授業計画	<p>「自由と市場経済」</p> <p>【第1回】 ガイダンス、経済思想論を学ぶ意義 スミス以前のイギリスとフランスにおける経済思想 内容: 1) ジェイムズ・スチュアートの市場経済の理解 2) フランソワ・ケネーの自然的秩序 テキスト: 八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、24-50頁 ケネーについては特に46-49頁 アンケート・小テスト: 授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第2回】 アダム・スミスにおける自然的自由 内容: アダム・スミスの自然的自由の体系、道徳感情論の内容 テキスト: 八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、51-64頁 特に51-53頁、59-64頁 アンケート・小テスト: 授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第3回】 ジェレミー・ベンサムと功利主義 内容: ジェレミー・ベンサムの功利主義、アダム・スミス、D.リカードとの比較など。 テキスト: 八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、65-78頁、89-91頁 特に65-71頁 アンケート・小テスト: 授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第4回】 J.S.ミルにおける自由及び社会主義 内容: J.S.ミルの経済思想 テキスト: 八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、98-111頁 アンケート・小テスト: 授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第5回】 ワルラスとマーシャルの経済思想 内容: 1) ワルラスの経済思想 2) マーシャルの経済思想 テキスト: 八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、195-198頁、 201-205頁、206-219頁 アンケート・小テスト: 授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第6回】 ハイエクの経済思想 内容: ハイエクの自由主義 テキスト: 八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、274-287頁 アンケート・小テスト: 授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>「資本主義と企業」</p> <p>【第7回】 K.マルクスの経済思想</p>

内容：マルクスの剰余と再生産、マルクスの資本主義批判、マルクスの歴史認識
 テキスト：八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、113-125頁
 アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト
 提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第8回】J.Mケインズの市場経済批判と新しい分析枠組み
 内容：ケインズの経済思想
 テキスト：八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、233-246頁
 アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト
 提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第9回】ケインジアンとポスト・ケインジアンの分析枠組み
 内容：1)サミュエルソンの経済学の方法
 2)ポスト・ケインジアンの経済学の方法
 (ポスト・ケインジアンについては
 テキストにはないので別途資料などを
 利用して講義をする)
 テキスト：八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、
 サミュエルソンについては302-314頁、
 アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト
 提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第10回】シモンペーターのヴィジョンと企業家
 内容：シモンペーターのヴィジョンについて
 テキスト：八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、247-259頁
 アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト
 提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第11回】ウェブレンとJ.K.ガルブレイスにおける経済制度
 内容：1)ソーススタイン・ウェブレンの経済思想
 2)J.K.ガルブレイスの経済思想
 テキスト：八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、220-232頁、315-326頁
 冬休みレポート：授業内容で取り上げた経済学者について
 1人を取り上げレポートを書いてください。
 提出期限：冬休み明けの最初の授業日
 提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第12回】ドイツの歴史学派の経済学
 内容：1)リスト
 2)ショモラー
 3)マックス・ウェーバー
 テキスト：八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、181-194頁
 アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト
 提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

【第13回】現代の経済学者の様々な経済思想
 内容：1)ガール・ボランニー
 2)アーマティア・セン
 テキスト：八木紀一郎ほか著『新版 経済思想史』、288-301頁、327-341頁
 授業内容の確認テスト
 提出先：manaba内の機能を使用して提出する。

事前・事後学修	<p>事前学習 テキストを指定しました。授業の範囲を事前に読んでください。</p> <p>事後学習 ・講義内容に関連したアンケート・小テスト(レポート)を行います。 ・長期休暇を利用して、レポートを書いていただきます。</p>
成績評価方法・基準	<p>1)出席(毎回とります)。授業に関する小テストまたは授業後の授業に関する短いレポートを提出していただく形で理解度を確認し、成績評価に組み入れます。成績評価では50%。</p> <p>2)レポート…冬季休暇中にレポートを書いていただきます。レポートの形式等は授業中に指示します。成績評価では30%。</p> <p>3)期末テストを教室で実施できる場合には、期末テストを行います。成績評価ではウェイトを低めに設定します。20%</p>
教科書・指定図書	八木・高・鈴木・大田著『新版 経済思想史』名古屋大学出版会
履修上の留意点	出席をして授業を通じて理解を深めてください。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED210
講義コード	1EE001200
講義名	日本経済史
担当者名	神谷 久覚
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目的趣旨	日本の経済史を特徴づけるのは、①明治維新以降の急激な近代化、②1950年代後半から1970年代前半の高度成長である。とりわけ戦後の高度成長は、現在の日本経済の基礎を築いた点で重要であるが、それも変化しつつある。本科目では上記の2点を中心に、経済政策、企業活動、貿易等について掘り下げ、日本の経済発展の構造的特徴を理解し、日本経済の諸問題を解決するための基礎を養うことを目指している。
授業の内容	<p>この科目は、ディプロマポリシーの2「グローバルな視点を含めて、さまざまな視点から経済社会を総合的に理解するために必要な社会科学の幅広い知識と教養を身につけていく」に寄与する科目として位置づけられている。</p> <p>授業では、江戸時代から1980年代前半までの日本経済史について、以下の3つの内容を中心として、授業を行う。</p> <p>①日本が経済発展の過程でどのような困難に直面し、克服していったかを、海外の事例と比較しながら検討する。</p> <p>②対外戦争、経済発展に伴って、各種制度や企業活動等がどのように変化したのか。</p> <p>特に、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦及び第二次世界大戦が、日本の経済制度や企業活動に及ぼした影響に注目する。</p> <p>③政府や日本銀行の諸政策が、経済活動にどのような影響を及ぼしたか。</p> <p>政府(幕府)の諸政策が経済活動に影響を及ぼしていたことを踏まえて、政府・日本銀行の経済・金融政策について掘り下げて検討する。</p>
科目的到達目標 (理解のレベル)	①日本経済の特徴について、経済政策、企業活動、貿易の観点から説明できる。 ②日本の経済発展の特徴について、欧米諸国やアジア諸国と比較して説明できる。 ③経済成長を主導した産業とその特徴について、時期ごとに明確に説明できる。
授業形態	講義
授業方法	<p>授業はPowerPointのスライドを使用し、板書による説明を行う。各回の授業で扱う内容については、事前にmanabaに資料をアップロードする。</p> <p>基本的には講義形式で行うが、授業中に質問した内容について、responや口頭で解答してもらうことで、履修者が授業に主体的に参加することを求める。</p> <p>資料には授業内容の全ては書かれていないので、授業中の板書や口頭での説明をメモすることが必須である。授業内容に関して分からぬれば、授業中または授業後を問わず質問を歓迎する。</p>
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス/江戸時代の農業 授業全体の概要について説明した上で、江戸時代の農業について、年貢の徵収、新田開拓、商品作物生産等に注目して考える。</p> <p>【第2回】江戸時代の都市経済 江戸時代の三都の発展、貨幣制度、三大改革における経済政策について学ぶ。</p> <p>【第3回】幕末開港と日本経済 19世紀半ばの国際環境の変化について学んだ上で、アメリカの開港要求の経済的背景や居留地貿易の実態、開港の経済的影響について考える。</p> <p>【第4回】明治維新と経済制度の改革 明治時代初期の政府の財政状況や、秩禄処分及び地租改正の背景、通貨金融制度の整備過程について学ぶ。</p> <p>【第5回】殖産興業政策、政商の形成と展開 明治政府による殖産興業政策の背景や、会社制度の導入、官業私下と政商の関係について考える。</p> <p>【第6回】大隈・松方財政 大隈重信、松方正義による経済政策について学んだ上で、経済政策が経済活動に及ぼす影響について考える。</p> <p>【第7回】日本の産業革命 日本の産業革命の特徴について学んだ上で、紡績業、製糸業、鉄鋼業、機械工業の発展の特徴について考える。</p> <p>【第8回】日清戦後経営と金本位制の確立 日清戦争の戦費調達や、日清戦争で清国から得た賠償金の重要性、金本位制確立の背景について考える。</p> <p>【第9回】日露戦後の日本経済 日露戦争の戦費調達のあり方が日露戦争後の日本経済に及ぼした影響や、日露戦争後の経済政策、外資導入及び国際収支の推移について考える。</p> <p>【第10回】財閥の形成と発展 財閥とは何かを学んだ上で、三井、三菱、住友の各財閥の特徴について検討する。</p> <p>【第11回】農村における地主制 近代の日本経済において農業部門が占めた比重、農業技術の発展、寄生地主制の確立過程について学ぶ</p> <p>【第12回】第一次世界大戦と日本経済 第一次世界大戦が日本経済に及ぼした影響について考える。</p> <p>【第13回】春学期のまとめ 春学期の授業内容に関するまとめを行い、春学期の授業内容全般に関する質問を受け付ける。また、レポート課題のテーマを提示する。</p> <p>【第14回】1920年代の日本経済 1920年恐慌が発生した背景と、1920年代の日本経済の特徴について考える。</p>

	<p>【第15回】井上財政期の経済政策 金本位制への復帰を巡る議論の内容と、井上準之助による経済政策の特徴について学ぶ。さらに、世界恐慌が日本経済に及ぼした影響について考える。</p> <p>【第16回】高橋財政期の経済政策 高橋是清による絏済政策の特徴について学んだ上で、その政策が日本経済に及ぼした影響について考える。</p> <p>【第17回】戦時経済の形成と展開 1930年代後半以降、政府が経済活動に対する介入を強めていく背景について学ぶ。</p> <p>【第18回】新興財閥の台頭と財閥の変容 化学工業を中心とする新興財閥の台頭と、1930年代の財閥の変容について学んだ上で、戦時経済期の財閥の活動について考える。</p> <p>【第19回】戦時経済の破綻と戦後経済改革 戦時経済が破綻した背景、財閥解体・農地改革等の戦後経済改革の諸政策の意義について考える。</p> <p>【第20回】戦後復興期の経済政策 急激なインフレーションへの対応を迫られた政府が、どのような経済政策を打ち出していったかを学ぶ。</p> <p>【第21回】高度成長期の経済政策 高度成長期について概観した上で、高度成長期の経済政策について考える。</p> <p>【第22回】高度成長期の産業発展Ⅰ（鉄鋼業・機械工業） 日本の高度成長を主導した産業部門である、鉄鋼業・機械工業について学ぶ。</p> <p>【第23回】高度成長期の産業発展Ⅱ（石油化学工業・電子工業） 第二次世界大戦後に生産活動が本格化した産業部門である、石油化学工業・電子工業について学ぶ。</p> <p>【第24回】高度成長期における大衆消費社会の形成と環境問題の発生 スーパー・マーケットの登場に象徴される大衆消費社会の形成と、四大公害病を初めとする環境問題について考える。</p> <p>【第25回】高度成長期の終焉と安定成長期への移行 高度成長がなぜ終わったかを学んだ上で、輸出主導の相対的高成長を実現する一方、財政赤字が拡大した安定成長期について考える。</p> <p>【第26回】秋学期のまとめ 秋学期の授業内容に関するまとめを行った上で、秋学期の授業内容全般に関する質問を受け付ける。</p>
事前・事後学修	<p>事前学修：授業前に各回の資料(PDFファイル)をmanabaにアップロードする。ファイルをダウンロードして、授業の重要なポイントについて把握した上で出席すること。 事後学修：レジュメの要点を自分でまとめ直し、授業中に提示する練習問題を解きmanabaで提出すること。その上で、指定図書や各回のレジュメの参考文献リストに掲げる参考文献を読んで、日本経済史の先行研究への理解を深め、今後の研究課題について考えること。</p>
成績評価方法・基準	<p>①小テスト30% 各回の授業(第13回及び第26回を除く)に関する小テストの解答を、manabaで提出する(合計点を30点満点で換算して評価する)。 ②春学期末レポート25% 春学期の授業内容に関するレポート課題についての解答をWordファイルで作成し、manabaで提出する。 ③秋学期末試験45% 主に秋学期の授業内容に関して、学期末に試験を行う。 ※授業の出席回数が3分の2以上ではない場合、評価の対象外とする。また、春学期末レポートの提出及び秋学期末試験の受験の両方を満たすことを、単位認定の必須条件とする。</p>
教科書・指定図書	(教科書) 指定しない (指定図書) 杉山伸也『日本経済史』岩波書店、2012年。ISBN 9784000242820 武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019年。ISBN 9784641165281 三和元・三和良一『概説日本経済史』[第4版]東京大学出版会、2021年。ISBN 9784130421539
履修上の留意点	<p>①授業計画は変更になる可能性がある。変更の際は、レジュメやmanabaを通じて連絡する。 ②授業中に適宜質問するので、積極的かつ真剣に参加する学生の履修を希望する。</p>
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EE101
講義コード	IEF000400
講義名	基礎会計学A組
担当者名	臼井 邦彦
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/C
備考	

科目的趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方と技術を学修し、自宅で多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の財務会計論と管理会計論という上級科目の学修につながるように意図されている。
授業の内容	本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない物を対象として、財務会計論(商業簿記と財務諸表論)と管理会計論(工業簿記と原価計算)の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。 具体的には、前期はテキストを用いて講義と演習形式で日商簿記検定試験3級の商業簿記、後期は日商簿記検定試験の合格のための問題演習と、講義・演習形式で2級の工業簿記と原価計算の知識と処理能力の修得を目指す。 日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけではなく、すべての企業にとって必要な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達の選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけではなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につき、経理担当者だけではなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。
科目の到達目標 (理解のレベル)	財務会計論と管理会計論の基礎的知識と基礎的会計判断・処理能力の修得、具体的には、日商簿記検定試験3級の商業簿記と会計理論、2級の工業簿記と原価計算の知識と処理能力の修得。
授業形態	講義
授業方法	基礎的な概念や考え方を説明した後、多くの問題を解くことにより、会計的思考方法を身につけ、会計処理に慣れていく方式を用いる。履修者は理解したことを記憶に頼らず、できる限り完全な文章の形でサブノートを作成することが望ましい。
授業計画	<p>【第1回】春学期ガイダンス(複式簿記の基礎) 春学期のテキストは、『最新段階式日商簿記検定問題集3級4訂版』実教出版(ISBN978-4-407-34774-6)を用いるので必ず入手すること。 資産・負債・資本・収益・費用の簿記の5要素と、これら5要素を前提とした取引の2つの側面への分解という複式簿記のメカニズムを学ぶ。テキスト第1章～第5章。</p> <p>【第2回】仕訳帳・総勘定元帳・決算 取引を仕訳帳に仕訳し、総勘定元帳へ転記し、決算処理をするまでの一連の流れの基本について学ぶ。テキスト第6章～第8章。</p> <p>【第3回】現金預金の処理 現金として処理する項目と実際有高との差異の処理、当座預金と当座借り越しの処理について学ぶ。テキスト第9章～第10章。課題3-1第11章小口現金について自習しておくこと。</p> <p>【第4回】商品売買取引(三分法と分記法)と商品有高帳 売上原価の計算を総勘定元帳で行う方法として、三分法と分記法について学び、合わせて商品有高帳の記入方法について学ぶ。テキスト第12章～第14章。</p> <p>【第5回】債権債務取引と貸倒引当金 主たる取引から生じた債権債務のほか、他の債権債務の会計処理と貸し倒れ、と貸倒引当金の処理について学ぶ。テキスト第15章～第19章。</p> <p>【第6回】有形固定資産の取引と減価償却 有形固定資産の取得・売却・原価償却までの一連の取引の会計処理について学ぶ。テキスト第0章～第21章。</p> <p>【第7回】費用収益の見越し繰り延べ 前払費用・未収収益・未払費用・前受収益という経過勘定項目の処理と消耗品の処理について、学ぶ。テキスト第25章～第26章。</p> <p>【第8回】法定福利費、税金、決算整理 社会保険料、源泉所得税、固定資産税、住民税、法人税、消費税の会計処理と決算整理について学ぶ。テキスト第22章～第24章。</p> <p>【第9回】試算表 合計試算表、残高試算表、合計残高試算表について学ぶ。テキスト第27章。</p> <p>【第10回】精算表の作成 正式の決算手続きをする前に決算整理と財務諸表の概要を把握する精算表について学ぶ。テキスト第27章～第28章。</p> <p>【第11回】株式会社の純資産と財務諸表の作成 株式会社の純資産について学ぶとともに、損益計算書と貸借対照表の仕組みと作成方法について学ぶ。テキスト第30章、第34章。</p> <p>【第12回】伝票(追加課題Ⅰ) テキスト第31章～第33章を読み、manabaで配信する課題を提出すること。</p> <p>【第13回】決算問題(追加課題Ⅱ) 精算表の作成問題と財務諸表の作成問題をmanabaで配信するので、問題を解いて提出すること。</p> <p>【第14回】秋学期ガイダンス(管理会計の基礎) 秋学期のテキストは、『最新段階式日商簿記検定問題集2級工業簿記3訂版』実教出版(ISBN978-4-407-34024-2)を用いるので必ず入手すること。</p> <p>【第15回】日商簿記検定試験3級の問題演習/期中処理と試算表作成/総合原価計算(1)月末仕掛品の評価</p> <p>【第16回】日商簿記検定試験3級の問題演習/期中処理と精算表作成/総合原価計算(2)減損・仕損費の処理</p>

	<p>【第17回】日商簿記検定試験3級の問題演習/精算表の推定/総合原価計算(3)工程別原価計算</p> <p>【第18回】日商簿記検定試験3級の問題演習/決算整理処理と財務諸表作成/原価計算(4)等級別原価計算</p> <p>【第19回】日商簿記検定試験3級の問題演習/期中処理と試算表の推定/総合原価計算(5)組別原価計算</p> <p>【第20回】日商簿記検定試験3級の問題演習/商品売買と減価償却の推定/総合原価計算(1)基本的仕組み</p> <p>【第21回】日商簿記検定試験3級の問題演習/過去問題演習(1)/総合原価計算(2)差異分析</p> <p>【第22回】日商簿記検定試験3級の問題演習/過去問題演習(2)/総合原価計算(1)基本的仕組み</p> <p>【第23回】日商簿記検定試験3級の問題演習/過去問題演習(3)/個別原価計算(2)製造間接費計算</p> <p>【第24回】日商簿記検定試験3級の問題演習(4)/個別原価計算(3)部門別計算</p> <p>【第25回】日商簿記検定試験3級の問題演習(4)/材料費・労務費・経費会計</p> <p>【第26回】日商簿記検定試験3級の問題演習/予想問題/製造業の財務諸表</p>
事前・事後学修	事前に、テキストの予定箇所の熟読を要し、事後に、復習と多くの課題や宿題をこなし、上述のサブノートを作成すること。
成績評価方法・基準	春学期秋学期ともに、授業後の課題レポート提出で60%、学期末の課題レポートで40%。
教科書・指定図書	教科書は次のとおり、前期1冊、後期1冊とする。 春学期:『最新段階式 日商簿記検定問題集(三訂版)3級』実教出版。 秋学期:『最新段階式 日商簿記検定問題集(三訂版)2級工業簿記』実教出版。
履修上の留意点	①実際に練習問題に取り組むので、各自10ヶタ以上の計算機を持参すること(スマートホンや携帯電話などに設定されている計算機能は不可)。 ②計算問題に関しては、実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。したがって、必ず予習・復習を行い、問題集に取り組んだ上で授業に参加すること。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EE101
講義コード	1EF000410
講義名	基礎会計学B組
担当者名	芝村 礼子
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/C
備考	

科目的趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方と技術を学修し、自宅で多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の財務会計論と管理会計論という上級科目の学修につながるように意図されている。
授業の内容	本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない物を対象として、財務会計論(商業簿記と財務諸表論)と管理会計論(工業簿記と原価計算)の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。 具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけではなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。 日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけではなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、當利企業に限らず、経済活動を営む非常利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達の選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけではなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につき、経理担当者だけではなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。
科目的到達目標 (理解のレベル)	財務会計論と管理会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。 具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記と会計理論、2級の工業簿記と原価計算の知識と処理能力の修得を目標とする。 現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。
授業形態	講義
授業方法	基本は教室での対面式の授業となる。 ただし、状況によりオンライン授業の必要がある場合には、Microsoft社のTeamsを使用して資料掲示と解説を行う。授業時間中、適宜演習を行う時間を設け、各自演習の後、解説を行う。また、適宜のタイミングで、授業の後には復習のための課題を課す。 基本は教科書を用いた授業となるが、適宜レジュメも配布する。 レジュメの配布方法は、教室での手渡しまたはmanabaにより行う。また、自宅にプリンターがないことも考慮して、ネットワークプリンターでのレジユメの提供も行う。 Teamsでの受講が難しい場合には、個別に対応するので、必ず連絡すること(sibamura@asia-u.ac.jp)。 出席は教室での出欠確認またはResponを使用する。
授業計画	【第1回】テーマ:オリエンテーション、簿記の意義 【第2回】テーマ:簿記一巡 【第3回】テーマ:帳簿組織、主要簿 【第4回】テーマ:商品売買(1)掛取引 【第5回】テーマ:商品売買(2)仕入諸掛 【第6回】テーマ:現金・現金過不足 【第7回】テーマ:預金、手形、固定資産(1)固定資産の取得 【第8回】問題演習(1) 【第9回】テーマ:その他の債権債務(1)未収・未払、前払・前受 【第10回】テーマ:その他の債権債務(2)立替・預り・仮払・仮受、その他の勘定科目 【第11回】テーマ:純資産、収益・費用 【第12回】テーマ:訂正仕訳、補助簿 【第13回】問題演習(2) 【第14回】前期復習 【第15回】テーマ:決算手続(1)精算表 【第16回】テーマ:決算手續(2)売上原価の考え方、商品有高帳、売上原価の仕訳 【第17回】テーマ:決算手續(3)有形固定資産と減価償却、固定資産台帳 【第18回】テーマ:決算手續(4)貸倒損失と貸倒引当金、収益と費用

	<p>【第19回】テーマ：決算手続(5) 経過勘定、その他決算手続</p> <p>【第20回】問題演習(3)</p> <p>【第21回】テーマ：推定簿記、貸借対照表、損益計算書</p> <p>【第22回】問題演習(4)</p> <p>【第23回】テーマ：帳簿の締め切り</p> <p>【第24回】テーマ：税金、剰余金、配当</p> <p>【第25回】テーマ：決算整理後試算表と財務諸表、帳簿の関係</p> <p>【第26回】問題演習(5)</p>
事前・事後学修	復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度も質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。 解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組みんほしい。 何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていく、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。
成績評価方法・基準	平常点:30% (Respon等への回答および授業に対する姿勢)、学期末のテスト(レポート・課題)70% 授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。 また課題は理解度を確認するためのものなので、点数が悪いことで評価を下げたりしない。それよりも、課題に取り組む中で自分の苦手なところを見つけて、理解を深めてほしい。逆に、単に答えを書き写しただけ、問題を解かずに提出だけすることは、評価減の対象となる。
教科書・指定図書	(教科書) 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6
履修上の留意点	① 実際に練習問題に取り組むので、各自10ヶタ以上の計算機を用意すること(スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可)。 ② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EE101
講義コード	1EF000420
講義名	基礎会計学C組
担当者名	芝村 礼子
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/C
備考	

科目的趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方と技術を学修し、自宅で多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達すること目標とし、2年次以降の財務会計論と管理会計論という上級科目の学修につながるように意図されている。
授業の内容	本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない物を対象として、財務会計論(商業簿記と財務諸表論)と管理会計論(工業簿記と原価計算)の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。 具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけではなく、実際に社会人になった時に役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。 日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけではなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、當利企業に限らず、経済活動を営む非常利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達の選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけではなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につき、経理担当者だけではなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。
科目的到達目標 (理解のレベル)	財務会計論と管理会計論の基礎的知識と基礎的会計判断・処理能力の修得を目標とする。 具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記と会計理論、2級の工業簿記と原価計算の知識と処理能力の修得を目標とする。 現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。
授業形態	講義
授業方法	基本は教室での対面式の授業となる。 ただし、状況によりオンライン授業の必要がある場合には、Microsoft社のTeamsを使用して資料掲示と解説を行う。授業時間中、適宜演習を行う時間を設け、各自演習の後、解説を行う。また、適宜のタイミングで、授業の後には復習のための課題を課す。 基本は教科書を用いた授業となるが、適宜レジュメも配布する。 レジュメの配布方法は、教室での手渡しまたはmanabuにより行う。また、自宅にプリンターがないことも考慮して、ネットワークプリンターでのレジュメの提供も行う。 Teamsでの受講が難しい場合には、個別に対応するので、必ず連絡すること(sibamura@asia-u.ac.jp)。 出席は教室での出欠確認またはResponを使用する。
授業計画	【第1回】テーマ:オリエンテーション、簿記の意義 【第2回】テーマ:簿記一巡 【第3回】テーマ:帳簿組織、主要簿 【第4回】テーマ:商品売買(1)掛取引 【第5回】テーマ:商品売買(2)仕入諸掛 【第6回】テーマ:現金・現金過不足 【第7回】テーマ:預金、手形、固定資産(1)固定資産の取得 【第8回】問題演習(1) 【第9回】テーマ:その他の債権債務(1)未収・未払、前払・前受 【第10回】テーマ:その他の債権債務(2)立替・預り、仮払・仮受、その他の勘定科目 【第11回】テーマ:純資産、収益・費用 【第12回】テーマ:訂正仕訳、補助簿 【第13回】問題演習(2) 【第14回】前期復習 【第15回】テーマ:決算手続(1)精算表 【第16回】テーマ:決算手続(2)売上原価の考え方、商品有高帳、売上原価の仕訳 【第17回】テーマ:決算手続(3)有形固定資産と減価償却、固定資産台帳 【第18回】テーマ:決算手続(4)貸倒損失と貸倒引当金、収益と費用

	<p>【第19回】テーマ：決算手続(5) 経過勘定、その他決算手続</p> <p>【第20回】問題演習(3)</p> <p>【第21回】テーマ：推定簿記、貸借対照表、損益計算書</p> <p>【第22回】問題演習(4)</p> <p>【第23回】テーマ：帳簿の締め切り</p> <p>【第24回】テーマ：税金、剰余金、配当</p> <p>【第25回】テーマ：決算整理後試算表と財務諸表、帳簿の関係</p> <p>【第26回】問題演習(5)</p>
事前・事後学修	復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度も質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。 解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組みんほしい。 何度も解くことによって、必ず解ける。正解に結びつく問題が少しずつ増えていく。自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。
成績評価方法・基準	平常点:30% (Respon等への回答および授業に対する姿勢)、学期末のテスト(レポート・課題)70% 授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。 また課題は理解度を確認するためのものなので、点数が悪いことで評価を下げたりしない。それよりも、課題に取り組む中で自分の苦手なところを見つけて、理解を深めてほしい。逆に、単に答えを書き写しただけ、問題を解かずに提出だけすることは、評価減の対象となる。
教科書・指定図書	(教科書) 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6
履修上の留意点	① 実際に練習問題に取り組むので、各自10ヶタ以上の計算機を用意すること(スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可)。 ② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。
更新日	

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EE206
講義コード	IEF001100
講義名	租税論 I
担当者名	臼井 邦彦
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目的趣旨	我々の諸活動の様々な面で不可欠のかかわりを持つ租税について、経済学を学ぶ学生が身につけておくべき実際面の知識を学修する。具体的には、生産活動、消費活動、投資活動などの様々な活動に対して課される、我が国の法人所得税、個人所得税、消費税、相続・贈与税などの考え方や税額計算の基本的な仕組みを理解することを目標とする。アプローチは主にこれらの租税の立法趣旨、条文、判例ならびに数値例による税額計算方法の説明という方法を用いる。租税論IIの前提となる科目であるとともに、経済専門キャリア特講(税務会計)の科目と密接に関係し相互に有用な科目である。
授業の内容	本講義は、経済学部の租税に关心を持つ学生を対象に、経済理論の観点から租税について講義形式で説明をしていく。ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学をすでに履修していることを前提とする。
科目的到達目標 (理解のレベル)	① 我が国租税制度の概念や体系や問題点を理解させること ② 租税の基本的な経済効果について、理解すること ③ 納税者として、税制改革性格について考慮するべき事柄を理解すること。
授業形態	講義
授業方法	毎回、資料をmanabaに掲示した上で講義を行う。講義の終わりにはレポートの他、質疑応答の欄を設け、できる限り多くの受講生が意見を述べられるようにする。
授業計画	【第1回】オリエンテーション 租税を巡る最近の問題について紹介する。例えばアマゾン問題、武富士の相続税回避問題などである。 【第2回】租税概念 最小限度の租税の定義をした上で、租税の目的問題に焦点を当てる。 【第3回】租税の分類(1) いろいろな基準でこれまでなされてきた租税の分類を行う。 【第4回】租税の分類(2) 租税の負担率に基づく分類や転嫁の有無による分類などを説明する。 【第5回】租税の効果分析/貯蓄 所得税と個人貯蓄の関係を学ぶ。 【第6回】租税の効果分析/労働供給 所得税と労働供給の関係を学ぶ。 【第7回】租税の効果分析/租税の転嫁 従量課税をベースにして、租税の転嫁について学ぶ。 【第8回】租税回避と転嫁 租税回避の位置づけと転嫁の関係について学ぶ。 【第9回】余剰分析 租税転嫁を学習する前提として、厚生経済学の余剰分析を学び直す。 【第10回】間接税における租税転嫁 需要の価格弾力性と供給の価格弾力性によって転嫁の割合が異なる場合について学ぶ。 【第11回】逆弾力性ルール 中立性の観点からは、需要の価格弾力性が大きい贅沢品に軽い税率、需要の価格弾力性が小さい必需的な財に高い税率を課すことが優れていくことになる。なぜなのかを学ぶ。 【第12回】利潤税の転嫁(完全競争市場) 完全競争市場に属する企業の場合はどういうに転嫁するのかを学ぶ。 【第13回】利潤税の転嫁(独占企業) 独占企業の場合は限界費用価格形成原理では全く転嫁しないが、平均費用価格形成原理ではちゃんと添加することについて学ぶ。
事前・事後学修	事前にmanabaで掲示する資料を予習し、事後の復習すること。
成績評価方法・基準	平常点100%(授業後のレポート50%、学期末直前のレポート50%)
教科書・指定図書	J.E.スティグリツ『公共経済学(上下)』東洋経済新報社
履修上の留意点	毎回遅れず出席し、きちんとノートをとるとともに、授業内容に集中すること。
更新日	

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EG304
講義コード	1EG000700
講義名	経済史文献講読Ⅱ
担当者名	神谷 久覚
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	E
備考	

科目の趣旨	本科目は、経済史文献講読Ⅰでの修学との継続性をもたせながら、経済史の視点から書かれた文献や論文を当時の社会との関連において、事例研究なども含めて、よりひろく深く具体的な学修を目指す目標に据える。ここでは経済史における実証研究の必要性に重点をおいている。
授業の内容	この科目は、ディプロマポリシーの2「グローバルな視点を含めて、さまざまな視点から経済社会を総合的に理解するために必要な社会科学の幅広い知識と教養を身につけていく」に寄与する位置づけである。 財閥は、1945年の解体に至るまで日本経済の発展に重要な役割を果たした。この科目では、武田晴人『財閥の時代』をテキストとし、三井・三菱・住友の三大財閥について検討する。主に扱うテーマは、財閥とは何か、政商から財閥への変化の背景、財閥のコンツェルン化とその背景、財閥における内部資本市場の重要性、戦時体制において財閥が果たした役割、財閥解体の具体的措置と歴史的意義等である。
科目の到達目標 (理解のレベル)	①三大財閥が日本経済の発展に果たした役割について、明確に説明できる。 ②三大財閥における株主との利害調整及び持株会社の機能について、明確に説明できる。 ③三大財閥が時代の変化にどのように対応したか、明確に説明できる。
授業形態	講義
授業方法	各回の授業で扱う内容については、事前にmanabaに資料をアップロードする。授業では、板書による説明を行う。資料には授業内容の全ては書かれていないので、授業中の板書や口頭での説明をメモすることが必須である。授業内容に関して分からぬ点があれば、授業中または授業後を問わず質問を歓迎する。
授業計画	<p>【第1回】幕末維新の危機(第1章) 日本経済に占めた財閥の位置、財閥とは何かについて確認した上で、幕末維新期に富豪が直面した危機について説明する。</p> <p>【第2回】政商の誕生・政商の資金源(第2章、第3章) 明治初期に政商が生まれた背景、政商への政府による保護、政商と資金提供者との関係について分析する。</p> <p>【第3回】政商からの脱皮(第4章) 政商が事業を再編成した背景、官業払下げの重要性、多角化の背景について説明する。</p> <p>【第4回】家政改革と家憲(第5章) 明治後期における財閥の組織整備について、三井の事例を掘り下げて検討する。</p> <p>【第5回】コンツェルン化と持株会社(第6章) 三大財閥の多角化の実態と、財閥の本社部門の役割について分析する。</p> <p>【第6回】専門経営者の登場(第7章) 財閥において専門的能力の必要性が高まり、専門経営者が登場してきた背景について検討する。</p> <p>【第7回】商社ブームと破綻・鈴木商店の挫折(第8章、第9章) 第一次世界大戦期の商社ブームの実態と、第一次大戦期に急速に発展した鈴木商店が破産に至った過程について分析する。</p> <p>【第8回】三大財閥の覇権(第10章) 三大財閥の優位が金融恐慌で確立した背景と、1920年代後半に三大財閥が日本経済全体で果たしていた役割について検討する。</p> <p>【第9回】恐慌とドル買い(第11章) 金本位制への復帰による昭和恐慌の発生と、三井の「ドル買い」について検討する。</p> <p>【第10回】財閥の転向(第12章) 財閥への批判を背景とする「転向」の試みと、株式公開の歴史的意義について説明する。</p> <p>【第11回】戦時体制と財閥(第13章) 1930年代後半以降の財閥の活動と、財閥本社が改組した背景について分析する。</p> <p>【第12回】財閥解体(第14章) 戦後民主化の過程で財閥が解体された背景と、解体の具体的措置及び歴史的意義について検討する。</p> <p>【第13回】企業集団と財閥(第15章) 財閥系の企業が企業集団として結集した背景と、企業集団と財閥の違いについて説明する。</p>
事前・事後学修	事前学修: テキストの指定範囲を授業前に精読し、意味の分からぬ單語について調べておくこと。その上で、manabaにアップロードする資料を確認し、重要な部分について理解した上で授業に出席すること。 事後学修: 授業の資料とメモした内容を読み直して復習した上で、課題をmanabaに提出すること。さらに、テキストに参考文献として挙げられている書籍や論文を読み、財閥に関する研究について理解を深めること。

成績評価方法・基準	<p>①平常点60% 授業内で提示する課題について、解答をmanabaで提出すること。 ※課題の提出回数が3分の2以上ではない場合、評価の対象外とする。</p> <p>②学期末レポート40% 授業中に説明した重要な事項に関する説明問題と、特定のテーマに関する論述問題の解答をWordファイルで作成し、manabaで提出すること(問題形式については、変更がある。変更する場合、授業中に説明する)。 ※授業の出席回数が3分の2以上ではない場合、評価の対象外とする。</p>
教科書・指定図書	<p>(教科書)武田晴人『財閥の時代』KADOKAWA、2020年。ISBN 9784044005627 (指定図書)法政大学産業情報センター・橋本寿朗・武田晴人編『日本経済の発展と企業集団』東京大学出版会、1992年。ISBN 9784130460439 武田晴人『日本経済の発展と財閥本社』東京大学出版会、2020年。ISBN 9784130402897 参考文献: 下谷政弘『いわゆる財閥考: 三井、三菱、そして住友』日本経済評論社、2021年。ISBN 9784818825918</p>
履修上の留意点	<p>①日本経済史を履修済みか、春学期から履修していることが望ましい。 ②テキストは必ず購入し、各回の指定範囲を熟読し、分からぬ単語等を調べた上で授業に出席すること。 ③授業計画は変更になる可能性がある。変更の際は、レジュメやmanabaを通じて連絡する。</p>
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF208
講義コード	1EH000300
講義名	憲法
担当者名	富塚 祥夫
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E
備考	

科目的趣旨	日本国憲法は質量ともに充実した内容を持った憲法であるが、その理念は制定以来多くの試練に立たられてきた。この科目では、憲法の歴史と憲法運用の実態を検証することにより日本国憲法の意義を再確認するとともに憲法解釈論を考えしていく。テーマ例をあけると、日本国憲法の成立と意義、国民主権と象徴天皇制、戦争放棄と再軍備、平和運動、選挙、国会運営、行政権、人権の歴史、法の下の平等、差別、思想良心、表現、信教の自由、政教分離原則、刑事手続と人権、生存の保障、教育を受ける権利、労働基本権、プライバシーの権利と個人情報の保護等である。
授業の内容	憲法の学習においては、憲法というものがどのような役割をもつた法なのか、通常の法律とは一体何が違うのかについて理解することがまず何よりも重要であり、そのためには立憲主義という概念の正しい理解が不可欠である。そこで、この授業では、まず立憲主義成立の背景にある精神や思想を学ぶことから始め、次いで立憲主義の歴史的展開、日本における憲法と立憲主義の歴史を学んでもらう。そのうえで、現在の日本国憲法が定める重要な項目について、その意義と内容を確認しつつ、それらが日本社会の中で直面しているさまざまな問題状況について順次考察していくことにしたい。
科目的到達目標 (理解のレベル)	(1)立憲主義の意味と重要性について理解し、説明できる。 (2)国民主権、平和主義、権力分立制、代表民主制、違憲審査制などの統治に関する憲法上の基本原理について、その内容と現状の問題点を理解し、説明できる。 (3)日本国憲法が保障する主要な人権項目について、その内容と現状の問題点について理解し、説明できる。
授業形態	講義
授業方法	授業は、主として講義形式で行う。授業にあたっては、事前にmanabaを通じて書込み用のレジュメを配布するので、受講生はそれを(紙に印刷するか電子ファイルで)持参し、受講に備えることが必要である。授業の終盤では、講義内容に関する小テストを、manabaを使って行う。この小テストについては、次回の授業の冒頭で、その解説を行う。質問は、授業中か授業後に教室で、また随時メールでも受け付ける。
授業計画	【第1回】ガイダンス、憲法の精神と役割 内容:シラバスに基づくガイダンス(授業計画、事前・事後学習、成績の評価方法など)、憲法が規定すること、権力に対する不信と立憲主義、憲法遵守・尊重義務の主体(憲法の名違反人)(テキストpp.2~3) 【第2回】憲法における過去・現在・未来 内容:立憲主義成立の思想的背景、権力者による立憲主義不要発言、民主主義のもとでの権力濫用、立憲主義における過去の重要性、憲法における「理想と未来」の意味(テキストpp.2~3、8~9) 【第3回】立憲主義の成立と展開 内容:立憲主義の成立、外見的立憲主義という亞種、立憲主義における権力拘束範囲の拡大(テキストpp.2~5、8~9) 【第4回】大日本帝国憲法の成立および内容 内容:制定史の概要、大日本帝国憲法の内容(テキストpp.6~7) 【第5回】戦前における憲法と政治 内容:大日本帝国憲法を構成する2つの要素、憲法の拘束範囲の不十分性と現実の政治過程、昭和における軍部の台頭(テキストpp.6~7) 【第6回】敗戦と日本国憲法の成立 内容:日本国憲法成立の経緯、憲法制定に対する日本国民の関与、憲法制定に対する極東委員会(=国際世論)の関与、押しつけ憲法論の一一面性(テキストpp.12~17) 【第7回】象徴天皇制の内容 内容:象徴という言葉の意味、象徴天皇制の消極的側面、象徴天皇制の積極的動態的側面、(テキストpp.104~105) 【第8回】象徴天皇制の実態 内容:天皇の元首扱い、国事行為以外のいわゆる公的行為の氾濫、天皇の権威強化、天皇の政治的利用、マスメディアの皇室報道(テキストpp.104~105) 【第9回】日本国憲法と平和主義 内容:戦争放棄の歴史、憲法9条の規定内容、日本国憲法前文の平和主義理念(テキストp9、p26) 【第10回】平和主義の現状 内容:憲法9条の解釈、再軍備の経緯と正当化理由の変遷、日米安保体制の成立と展開、「日米安保」から「日米同盟」へ、平和防衛政策の後退、戦争法制の整備(テキストpp.26~39) 【第11回】日本国憲法と権力分立制 内容:権力分立の目的と種類、大統領制と議院内閣制、日本国憲法と三権分立制、地方自治(テキストpp.86~87、100~101) 【第12回】国民主権と代表民主制 内容:国民主権、代表民主制、国会の地位、二院制、選挙制度(テキストpp.80~85) 【第13回】司法権と違憲審査制 内容:司法権の独立、違憲審査制、司法権の民主的コントロール(テキストpp.90~95) 【第14回】憲法による人権保障の意味 内容:人権保障における法律と憲法の違い、憲法による人権保障の意味、人権の私人間効力をめぐる議論(テキストpp.48~51)

	<p>【第15回】人身の自由 内容: 刑罰権の必要性と危険性、戦前の状況、日本国憲法と適正手続主義の採用(テキストpp.64~65)</p> <p>【第16回】刑事手続の現状 内容: 令状主義の空洞化、自白の強要、裏付け捜査の不徹底、長期の身柄拘束など(テキストpp. 64~65)</p> <p>【第17回】思想・良心の自由 内容: 保障の意味、保障の具体的な内容と侵害事例(テキストpp.54~55)</p> <p>【第18回】信教の自由 内容: 精神的自由の原型・母胎としての宗教の自由、日本国憲法と信教の自由など(テキストpp.56~57)</p> <p>【第19回】表現の自由 内容: 意義と弱点、表現の自由保障の法理(テキストpp.58~59)</p> <p>【第20回】選挙権と選挙活動の自由 内容: 普通選挙権獲得の苦難の歴史、今日の選挙権の問題、べからず選挙運動など(テキストpp.80~81)</p> <p>【第21回】学問の自由 内容: 保障の意義、保障内容と限界、大学の自治(テキストpp.62~63)</p> <p>【第22回】経済的自由と社会権 内容: 日本国憲法と経済的自由、経済的自由の光と陰、社会権思想の登場と経済的自由の制約など(テキストpp.66~75)</p> <p>【第23回】平等権 内容: 日本国憲法における平等保障規定、保障の意味(テキストpp.52~53)</p> <p>【第24回】人権の享有主体性 内容: 国民、未成年者、天皇・皇族、法人、外国人(テキストpp.46~47、50~51)</p> <p>【第25回】包括的権利としての幸福追求権 内容: 無名の人権に対する憲法的対応、幸福追求権の保障範囲、無名の人権の候補(テキストpp.44~45)</p> <p>【第26回】人権保障の限界 内容: 人権制約の根拠、特別権力関係論(テキストpp.42~43)</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の受講前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。また、分からぬ用語が出てきた場合は、インターネット等を用いて調べておくこと。 ・授業で使った書き込み用レジュメを見直して、復習を行うこと。そのうえで質問等があれば、積極的にメールなどで私に問い合わせること。 ・憲法の理念が実社会の中でどこまで実現されているのかいないのかを知るために、毎日、新聞を読むこと。 ・授業の中で紹介する参考文献にも積極的に目を通すこと。
成績評価方法・基準	小テストの成績30%、定期試験の成績70% なお、定期試験において、書き込み用レジュメの持込みを認める場合は、印刷が条件となることに注意しておいてください。
教科書・指定図書	教科書: 播磨ほか『新・どうなっている! ? 日本国憲法[第3版]』法律文化社 参考文献: 井上典之編『憲法の時間 第2版』有斐閣 渋谷秀樹『憲法への招待 新版』岩波新書 田村 理『国家は僕らを守らない』朝日新書
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は受講中の資料参照や予習・復習)のためには必須であり、必ずまた早めに入手すること。 ・スマートフォンのresponアプリを使って出席をとるので、授業には必ずresponアプリを入れたスマートフォンを持参すること。 ・また、小テストの受験のためにも、スマートフォンやパソコン等のmanabaにアクセスするための情報機器の用意が必要である。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF209
講義コード	1EH000400
講義名	民法
担当者名	長岐 郁也
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E
備考	

科目的趣旨	民法典は、私人間の権利関係や身分関係について規定する法律である。また、私人間で生じたトラブルを解決するための規範でもある。この科目的前半では、民法における財産法(総則・物権・債権)について具体的な事例を挙げて説明し、権利の調整がどのように行われているかを理解することを意図している。この科目的後半では、民法における家族法(親族・相続)について具体的な事例を挙げて説明し、権利の調整がどのように行われているかを理解することを意図している。
授業の内容	私法の一般法である民法は日常生活に関わる法律上のルールの多くを担っており、身近に感じることのできるルールもあれば、理解が難しいルールも存在する。こうしたルールについて、判例や学説などを用いて学習を進めていくこととなるが、民法の対象範囲は広範に及ぶため、まずはルールの概要を抑えることができるするためにサブノートを作成し、教科書と併せて学習に利用することで理解の促進に役立てるものとする。
科目的到達目標 (理解のレベル)	本講義では民法に定められる諸制度の基礎的理解を図るとともに、法的思考を身に付けることが目標であり、実際の社会でどのように作用しているのかを理解することができるようになることが到達点となる。具体的には民法をテーマとするニュースを読み、その概要を理解できるようにする。
授業形態	講義
授業方法	教科書と教員作成のレジュメとサブノートを併用して講義を行う。 民法が規定する制度の解説がメインとなるが、適宜、民法が関わるニュース等を用いることで身近な問題に法がかかわることに触れていく。 また、各回において講義の最後に小テストをmanabaを通じて実施し、理解の確認を行う。 なお、レジュメやサブノート等の掲出はすべてmanabaを通じて行うものとする。
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス</p> <p>【第2回】能力制度</p> <p>【第3回】法人制度</p> <p>【第4回】契約の成立</p> <p>【第5回】意思表示</p> <p>【第6回】債権の発生</p> <p>【第7回】債権の消滅</p> <p>【第8回】債務不履行の類型</p> <p>【第9回】債務不履行に対する救済と例外</p> <p>【第10回】責任財産の保全</p> <p>【第11回】人的担保</p> <p>【第12回】物的担保</p> <p>【第13回】物権変動</p> <p>【第14回】即時取得と時効</p> <p>【第15回】一般的な不法行為</p> <p>【第16回】特殊な不法行為</p> <p>【第17回】婚姻</p> <p>【第18回】離婚</p> <p>【第19回】実親子関係</p> <p>【第20回】養親子関係と扶養</p> <p>【第21回】相続制度</p> <p>【第22回】相続の効力</p> <p>【第23回】相続の手続き</p> <p>【第24回】遺産分割</p> <p>【第25回】遺言</p>

	【第26回】遺贈と遺留分
事前・事後学修	講義を受講した後に再度教科書とサブノートを見返しながら、講義内容をノートにまとめることで理解の定着を図ること。なお、法律用語を理解することは外国語を学ぶように難解でもあるため、法学用語辞典等の活用も望まれる。
成績評価方法・基準	初回を除く全25回で実施する小テスト(50%)と各期末の定期試験(50%)で評価する。
教科書・指定図書	教科書: 松久三四彦・遠山純宏・林誠司『オリエンテーション民法』〔第2版〕(有斐閣、2022年) 参考書: 六法(種類は任せます)
履修上の留意点	私語は厳禁とする。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF210
講義コード	1EH000500
講義名	企業法
担当者名	達希 東日布
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/I/C
備考	

科目的趣旨	従来、商法・会社法を講義するにあたっては、まず最初に、その対象が形式的意義におけるものかそれとも実質的意義におけるものかということから説明を始めるのが常であった。にもかかわらず講義の中心は形式的意義におけるものであったこと間違いない。特に会社法の講義は、形式的意義における会社法すなわち会社法典を中心にして行われてきた。そこでは株主の利益を最重要なものとして位置づけ、「株主利益の最大化」が経営の最終目標であり、それを実現するために経営の自由度・効率性がいかに確保されるべきか、またそのような経営に対する株主のコントロールとしてどのようなガバナンスが用意され、また用意されるべきなのかという観点から考察が進められていった。いうなれば株主中心の考え方である。しかし会社は、他の会社との間で商取引を行い、消費者に商品を売り、証券市場で投資家相手に株式・社債を発行して資金調達を行い、あるいは企業買収者として株式を取得し、そして一般市民に対しては市場において、ともすれば競争制限的な経済主体として振る舞う。このように会社は、その活動において株主以外にも様々な利害関係者すなわちステークホルダーとの関係を取り扱うことでもある。このような会社のすべてのステークホルダーと関係する法律は、形式的意義における商法・会社法の枠にとまるものではなく、その範囲は、実質的意義における商法・会社法のそれと一致する。近時は、会社企業の多面的な渴仰に対する法を「企業法」とよび、会社法とは区別する場合がある。会社法が株主中心の考え方方に立つて、「企業法」は広くステークホルダー全体を中心とした考え方方に立つといえよう。会社を「企業法」という概念に捉えなおすことは、複雑な利害関係の付結節点としての会社が現代において、いかに重要な役割をはたしているかを再認識する場ともなる。
授業の内容	現代社会における代表的な企業形態として挙げられるのは、株式会社である。株式会社は現代の経済社会において特に重要な役割を果たし、その組織運営と活動を規律する会社法は、株式会社が直面する数々の問題に対応するための制度を設けている。 本講義では、会社法の仕組み及び会社法上の各種制度の運用のあり方を理解するために、重要判例の解説を交えながら、会社法の基本となる制度を取り上げる。前期では事業資金調達のための法制度である株式会社がどのような法原則を基礎としているかをまず理解するところから始める。そして資金調達手段としての株式の発行、新株予約権の発行、社債の発行というように授業を進めていく。後期では、会社の機関を中心とした授業を進める。会社の実質的所有者である株主総会、業務執行機関・監督機関としての取締役会、監査役(会)、そして会計監査人などがそれぞれどのようなガバナンスの下に組織化されているかを見ていく。
科目的到達目標 (理解のレベル)	この授業では、実社会で問題となっている会社(特に株式会社)の活動に関連する法律問題のうち会社法に関わる事象について、関連する条文や制度など基礎的な事項を説明できるようにすることを目標としている。 また、会社法が関係する具体的な事例について、関連する条文や制度を参照しながら、当該事例における事実関係を踏まえて、一定の結論を導き出せることを目指す。株式会社という制度が何を目的として設立され、そのために原理的にどのような仕組みが整えられているか、しかし日本という経済環境においてその原理がどのように変容されているかという大枠を理解することである。
授業形態	講義
授業方法	初めて法律を勉強する人でも理解できるように配慮して、法律用語の解説をしながら、講義形式で授業を行う。適宜、質疑を取り入れたいと考えている。本年度は原則的に対面方式で授業を行うが、manaba等も利用する。
授業計画	【第1回】 ガイダンス 本講義の到達目標と評価方法等の説明。私たちの生活と企業がどのようにかかわり、企業法を学ぶことがどのような意味をもつかを説明する。 【第2回】 企業とは何か 会社である企業と会社形態でない企業との違いを説明する。 【第3回】 株式会社法総説 一株主有限責任と株式譲渡の自由一 所有と経営の分離、株主有限責任制度および法人格否認の法理について説明します。 【第4回】 会社設立1 設立の概要、定款の記載事項、変態設立事項等を説明する。 【第4回】 会社設立2 設立関与者の責任等を説明する。 【第5回】 株式1 株主の権利と株主平等原則 株主の地位、株主平等の原則および株主の権利行使について説明する。 【第6回】 株式2 株式の種類と内容 株式の種類、株式譲渡自由の原則およびその例外について説明する。 【第7回】 株式3 単元株式、株式分割、株式併合、株式消却 【第8回】 株式4 株式の譲渡と譲渡制限 【第9回】 株式5 自己株式の譲渡とその規制 【第10回】 会社の資金調達1 新株の発 【第11回】 会社の資金調達2 新株発行の瑕疵 【第12回】 会社の資金調達3 新株予約権の発行 【第13回】 会社の資金調達4 社債の発行 【第14回】 株式会社の機関と機関設計の選択

	<p>株式会社の機関の権限について説明した上で、機関設計の違いについて説明する。</p> <p>【第15回】 株主総会の招集と株主提案権 株主総会の権限、招集の手續および株主提案権について説明する。</p> <p>【第16回】 議決権行使と株主総会の瑕疵 議決権行使と株主総会の瑕疵の問題について説明し、関連する判例を検討する。</p> <p>【第17回】 取締役の資格、会社との関係 取締役の善管注意義務と忠実義務の関係、経営判断原則、および内部統制システムについて説明する。</p> <p>【第18回】 取締役の利益相反行為の規制 取締役の競業禁止義務、取締役の利益相反取引に関する規制について説明する。</p> <p>【第19回】 取締役の責任 取締役の会社に対する責任および第三者に対する責任について説明する。</p> <p>【第20回】 取締役会の権限 取締役会の権限について説明する。</p> <p>【第21回】 取締役会の招集手続と瑕疵ある場合の決議の効力</p> <p>【第22回】 代表取締役</p> <p>【第23回】 監査機関と会計監査人</p> <p>【第24回】 指名委員会等設置会社・監査役会等設置会社</p> <p>【第25回】 組織再編の手続 組織再編の手続について、合併、会社分割、株式交換・株式移転における差異を意識しながら説明する。</p> <p>【第26回】 組織再編における株主・債権者保護 組織再編の手続に違法な点があった場合の株主・債権者等の救済手段について説明する。</p>
事前・事後学修	予習として、参考書等を利用し、各回の概要を把握すること。復習として、配布レジュメの重要箇所(講義中に指摘)を中心に読み直し、各制度(特に意義および趣旨)の理解を深めること。株式会社の理論面だけではなく、現実の株式会社の活動(良いことも悪いことも含めて)にも興味をもつことで、株式会社というものがより身近なものと感じられるようになり、株式会社という存在を理解しやすくなる。新聞の経済面、社会面を日々丹念に読んで、株式会社の行動とそれが引き起こす社会現象を客観的に観察する目を養ってほしい。
成績評価方法・基準	成績評価は、平常点(30%)、期末試験(70%)により行う。合計が60点以上の場合は合格とし、60点未満の場合は不合格とする。なお、合格者の評価については相対基準を導入する。課題に学習態度をも加味して評価するので、まずは課題提出期限を厳守すること。
教科書・指定図書	教科書：「新・ワンステップ会社法」 嵐野書院 参考図書：「会社法入門」(新版) 神田秀樹 岩波新書 「株式会社とは何か」 友岡 賛 講談社現代新書 「そもそも株式会社とは」 岩田喜久男 ちくま新書
履修上の留意点	新聞紙上の経済欄に常に目を通す習慣を身につけて、株式会社の様々な活動やそれが与える社会的影響について、身近な問題として感じるようにして欲しい。 受講者数については、制限の予定はないが、教室の収容人数の関係で、事後的に教室変更または人数制限があるかもしれない。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF211
講義コード	1EH000600
講義名	経済法
担当者名	寺川 祐一
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E
備考	

科目的趣旨	経済法の概念については、まだ定説はないが、資本主義経済の高度化に伴い、市場経済秩序の自律調整作用が機能しなくなったことにより取引や競争の自由と公正さを確保するため、また各種経済政策の目的を実現するため、国家が、国民経済的立場から、市場経済をコントロールする法の総称として理解されている。経済法は、競争制限・競争阻害行為を排除することにより、公正かつ自由な競争を促進し、健全な国民経済の形成を目的とする独占禁止法を中心とし、その他の各種の個別の規制に関する処方を含む法領域であると言ってよい。
授業の内容	独占禁止法を中心に学ぶ。 独占禁止法で禁止されている私的独占、不当な取引制限(価格カルテル、入札談合等)及び不公正な取引方法(再販売価格の拘束、優越的地位の濫用等)について、具体的な事例を題材として学ぶ。その他、合併、株式取得等の企業結合に対する規制、独占禁止法に関連する法律である下請代金遅延等防止法及び景品表示法の概要について学ぶ。 最近では事業者の経済活動のグローバル化が進み、国内事業者にとって外国の独占禁止法(競争法)が重要になっていることから、米国、EU等の競争法についても学ぶ。
科目的到達目標 (理解のレベル)	独占禁止法違反行為及びその実例を学ぶことにより、事業者の経済活動、自身の経済活動において独占禁止法及びその関連する法律違反に問われないように留意すべき事項を習得する。合わせて、他の事業者の独占禁止法違反行為による被害を回避するための対応を可能にする。
授業形態	講義
授業方法	主にパワーポイントを用いて授業を進める。 授業の理解度を確認するため、授業の進行に応じて問題を数回提示し、期限を設けて解答又はレポートの提出を求める。解答等の提出期限後にその解説を適宜行う。
授業計画	【第1回】経済法及び独占禁止法の概要 【第2回】我が国における独占禁止法の歴史、外国等における同種の法律の概要 【第3回】私的独占1 排除型私的独占 【第4回】私的独占2 支配型私的独占 【第5回】不当な取引制限1 価格カルテル 【第6回】不当な取引制限2 その他のカルテル行為(供給地域分割協定等) 【第7回】不当な取引制限3 入札談合(公的機関発注の物品等が対象) 【第8回】不当な取引制限4 受注調整(民間企業等発注の物品等が対象) 【第9回】事業者団体による独占禁止法違反行為 【第10回】独占禁止法違反とはならない共同行為 【第11回】独占禁止法違反行為に対する行政処分、排除措置命令等の手続 【第12回】課徴金納付命令とその手続、課徴金減免制度 【第13回】独占禁止法違反行為に対する刑事罰1 制度及び手続の概要 【第14回】独占禁止法違反行為に対する刑事罰2 過去の代表的事例 【第15回】不公正な取引方法1 不公正な取引法の概要、構成 【第16回】不公正な取引方法2 再販売価格の拘束 【第17回】不公正な取引方法3 拘束条件付取引、差別的取扱い 【第18回】不公正な取引方法4 不当廉売、取引妨害 【第19回】不公正な取引方法5 優越的地位の濫用 【第20回】下請代金遅延等防止法の概要と違反事例 【第21回】不公正な取引方法と景品表示法、景品表示法の概要 【第22回】景品表示法に基づく不当表示規制事例 【第23回】企業結合規制、審査の具体的事例 【第24回】独占禁止法違反行為に関連するその他の制度、確約手続等、民事手続

	<p>【第25回】海外における競争法の概要</p> <p>【第26回】海外における競争法違反事例、事業者の留意すべき事項</p>
事前・事後学修	事前に準備しておく内容を適宜通知する。主に公正取引委員会の公表資料を必要に応じて提示する。講義の後、理解できない内容については遠慮なく質問すること。授業前後に指定図書の関連部分を読み、補足することも重要。
成績評価方法・基準	具体的事例において法遵守のために必要とされる対応が可能か評価します。 授業の問題に対する解答等の評価50% 期末筆記試験50%(法の理解について総合的観点での評価が可能な問題を出します。レポートの提出に代える場合があります。)
教科書・指定図書	(教科書) 指定しない。 (指定図書) 岸井大太郎ほか『経済法第9版補訂』有斐閣 菅久修一編著『はじめて学ぶ独占禁止法第3版』商事法務 (参考文献) 公正取引委員会のホームページ(独占禁止法の解説と共に事例紹介等が大変豊富。事前に読むべき資料を適宜指示する。)
履修上の留意点	独占禁止法に関連する話題はインターネット上のニュースでも頻繁に取り上げられています。同法の条文については理解が難しい部分がありますが、現実の事件には興味深い事例が数多くあります。毎日のニュースを見て、日本や海外の経済法に関する動向をフォローしてください。
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF212
講義コード	1EH000700
講義名	商法
担当者名	佐藤 文彦
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E
備考	

科目的趣旨	前半の最初に、取引に関する法的ルールとしての商法の独自性と商法が適用されるべき場合に重要な商行為概念と商人概念の検討を行い、商法全体の枠組みを理解する。次に、企業の主体としての商人の商号とその保護、商人の営業と営業譲渡そして営業補助者としての商業使用人と代理商を扱うことにより、商人が取引においてどのような法的ルールのもとにおかれているのかを立体的に理解する。後半では、商人間取引の総論と各論を中心に取り扱う。総論としては、商人間取引の基本的特色として効率性の問題を取りあげる。各論では商人間取引の典型であり、起点である国際売買取引から考察を開始し、その後人と物の流れを担う運送取引、取引の仲介としての取次ぎ・仲立そして倉庫営業と順次論を進めていき、商人間取引の有機的な連関をより実感を持って統一的に把握できるようにする。
授業の内容	現代世界の(金融)資本主義経済体制にあって、その中心的・絶対的な活動主体は、株式会社企業法人である。この株式会社企業法人を含む会社企業法人全般を規律する法(領域)は「会社法」であるが、この「会社法」は元々は「商法」という法律内容の一部を構成していた法で、平成17年に「商法」から独立して単体の法律とされたものであり、その「会社法」には「商法」が規定する商法総則に相当する規定群が組み込まれ、その規整対象である会社企業法人には、やはり商法が規定する商行為法が引き続き直接適用される。したがって起業家や企業関係者にとって、本科目講義で扱う商法総則・商行為法をその主要な構成内容とする「商法」が重要であることに変わりはない。本科目講義では、これら法に規定されている諸制度を、一般法である民法上の諸制度と併せて立体的かつ体系的に学んでもらい、企業実務、とりわけその対外的活動に携わる者としての法実践的な素養を身につけてもらうことをねらいとする。むろん、本科目は法学を専攻していない経済学部の学生諸君を対象とするものであることから、これにともない商法学に關する基本概念内容を適宜確認することも予定している。
科目的到達目標 (理解のレベル)	われわれが生活しているこの資本主義経済社会において現実に活動している、とりわけ株式会社企業法人を主とする「商人」全般のその活動に、法は本質的にどのように関わっているのか、また関わるべきなのか、この点についての基本的な考え方を、本科目授業にて展開される。商法が商法総則(第一編)と商行為法(第二編)にて規定する各種法制度や商法学関連基本概念、さらには憲法から始まり民法から商法・会社法に至る法体系についての内容解説の理解を通じて学修し、学生諸君がより広い視野から各自の専攻学問分野である経済学と取り組みうるようになることを到達目標とする。
授業形態	講義
授業方法	授業は、講義形式を基本としつつ、板書により補完的に解説を加えていく形にて行う予定である。授業では、講義内容に関する理解度およびその前提としての基本的知識を確認するため、学生諸君に対して各回発言を適宜に求め、また場合によつてはmanabaにより課題レポートを課すこととする。講義内容について生じた疑問や不明な点は、その講義中に積極的に質問することを推奨する。
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス: 講義の進め方などの説明</p> <p>【第2回】 ・商法学入門[1] 内容 : 商法・会社法のわが国法体系上の位置づけ</p> <p>【第3回】 ・商法学入門[2] 内容 : 商法・会社法の存立意義</p> <p>【第4回】 ・序 商法を学ぶにあたって 内容 : 商法と実社会とのかかわり、商法「学」との取組み方 ・第1編第1章 商法の意義 内容 : 商法の(意味内容としての)意義、商法学の射程をめぐる諸学説(とくに企業法説) ・第2章 商法の形成と展開 内容 : 商法という法分野の史的展開・比較法的考察</p> <p>【第5回】 ・第3章 商法の法源 内容 : 商法の法源としての商事制定法・商慣習(法)・商事自治法 ・第4章 商法の適用 内容 : 商法の適用順位と他の法分野との序列</p> <p>【第6回】 ・第2編第1章 商人とその営業[1] 内容 : 商人の意義・種類</p> <p>【第7回】 ・第2編第1章 商人とその営業[2] 内容 : 商人資格の得喪、営業能力 ・第3編第1章 総論[1] 内容 : 企業取引の類型と性質、商行為の種類</p> <p>【第8回】 ・補説 商法規整対象としての銀行事業</p> <p>【第9回】 ・第2編第2章 企業の物的要素[1] 内容 : 商号の意義とその得喪、商号権、名板貸し</p>

	<p>【第10回】 ・第4章 企業の公示・商業登記 内容：企業の公示制度としての商業登記の存在意義・手続き・法的効力</p> <p>【第11回】 ・第2章 企業の物的要素[2] 内容：商業帳簿制度の趣旨と射程レベル、商法と会計慣行、商業帳簿の種類・作成等義務</p> <p>【第12回】 ・第3編第1章 総論[2] 内容：商行為の代理、商事委任・寄託関係、商人の報酬請求権、商事利息請求権、特定物引渡債務の取立性、商事債務の連帯化、商事留置権の拡張性</p> <p>【第13回】 ・第3章 企業の人的要素[1] 内容：商業使用人制度の趣旨、支配人の権限と義務、表見支配人、特定事項等受任使用人、物品販売等店舗使用人</p> <p>【第14回】 ・第3章 企業の人的要素[2] 内容：代理商制度 ・第3編第1章 総論[3] 内容：企業取引補助商としての代理商・仲立人・問屋営業者</p> <p>【第15回】 ・第2編第5章 企業の移転・担保化 内容：営業譲渡、当事者の義務・責任、利害関係者保護制度、営業の賃貸借・経営委任・担保化</p> <p>【第16回】 ・第2章 商事売買取引[1] 内容：商事売買と商法の規定、委託販売</p> <p>【第17回】 ・第3編第2章 商事売買取引[2] 内容：国内企業間商事売買関係の実際(フランチャイズ契約関係等)</p> <p>【第18回】 ・第3章 運送取引[1] 内容：運送取引規整概観、運送契約、運送契約当事者の権利・義務</p> <p>【第19回】 ・第3章 運送取引[2] 内容：運送人の損害賠償責任</p> <p>【第20回】 ・第4章 運送「取扱」取引 内容：運送取扱引関係の概要 ・第2章 商事売買取引[3] 内容：国際売買</p> <p>【第21回】 ・第6章 場屋取引 内容：場屋取引の意味内容、場屋営業者の責任</p> <p>【第22回】 ・第5章 倉庫取引 内容：倉庫寄託契約、倉庫営業者の権利・義務、倉荷証券</p> <p>【第23回】 ・第7章 金融取引[1] 内容：交互計算</p> <p>【第24回】 ・第7章 金融取引[2] 内容：匿名組合契約</p> <p>【第25回】 ・第7章 金融取引[3] 内容：リース取引の仕組み・法的性質</p> <p>【第26回】 ・第9章 保険取引 内容：保険契約の意味内容・法的性質、保険取引の法源</p>
--	--

事前・事後学修	<p>1. 事前学修としては、各回授業項目にかかり指示される範囲にて教科書を関連条文を参照しながら精読し、その内容を自分なりに理解するよう努めること。 2. 事後学修として、講義時間にて口頭および板書にて解説された内容を整理するよう努めること。またその際に興味のわいた、または疑問に感じた事柄については、まずは自分で図書館やWeb上にてさまざまな公開資料にあたり、自分なりの仮説的結論を導き出してください。 3. 新聞やWeb上のNewsに毎日目を通し、現在の日本経済がいかなる状況にあって、その活動主体としての株式会社企業法人を中心とする商人たちはその所与の状況にいかに対処しようとしているのか、また対処すべきなのか、その把握に意識的に努めること。</p>
成績評価方法・基準	<p>・成績評価は、期末試験結果および授業参加度(発言・個別課題レポート含む)に振り、それぞれの割合を90%, 10%として行うものとする。 ・授業参加度がきわめて不良であるとき、または別途個別課題レポートが未提出の場合、評価対象外となりうるので、留意してもらいたい。 ・もちろん、欠席回数が9回以上となった場合には、当然に評価対象外となる。なお、遅刻と早退についても、その回数によっては評価対象外となりうるので、留意してもらいたい。</p>
教科書・指定図書	<p>1. 落合ほか『商法 I — 総則・商行為 第6版』(2019, 有斐閣)2310円。 2. 長谷部ほか編『有斐閣判例六法 令和5年版』(有斐閣, 2022年)3410円(なお、すでに別の六法を入手している場合には、それにて代用可)。</p>
履修上の留意点	<p>1. 六法を必ず持参すること。 2. 単に出席をしているだけでは、単位修得は難しい。主体性・積極性をもって講義に臨む学生諸君を歓迎する。</p>
更新日	2023/03/16

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EE207
講義コード	1EH000800
講義名	経営学
担当者名	松本 久良
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E
備考	

科目的趣旨	企業経営に関する基礎的な概念や理論についての知識を広く体系的に習得することを目的とする。本講義では、まず前半で企業の果たす役割、株式会社制度の生成と発展、企業統治と社会的責任など「企業とは何か」を主題に学習する。後半では資本の論理と組織の論理をどのように接合するのかということを考えつつ、企業の目的、企業活動の枠組み、経営理論、経営組織、経営戦略など「経営とは何か」を主題に学習する。
授業の内容	本講義では経営学およびその主たる研究対象である企業に関する基本的知識を学びます。経営学には理論と実践とのバランスが求められるという特徴があるので、論理的な考え方と合わせて具体的な企業の実例やケース研究などを通じて、企業の活動について実践面からのアプローチも行います。また、企業にはその活動を経営環境の変化に応じて柔軟に変化させるという特性もあるので、大きく変わった現在の環境下で企業はどのように変貌しようとしているのかという新たな動向についても検討します。春学期はおもに企業とその基本的な構造について学び、秋学期は戦略や組織の問題など具体的かつ応用的な事柄について、事例を取り上げるなどより実践的に学びます。
科目的到達目標 (理解のレベル)	自分の言葉で企業や経営について分析できるようになることを目指します。企業が活動の場をいっそう海外市場へとシフトする中で、国内の雇用や報酬のあり方も大きく変貌しようとしています。こうした状況の中で、これから組織の一員として活躍することになるということからも、企業とは何か、どうあるべきか、また自らは企業とどのように向き合るべきなのか、こうしたことについて積極的に考える思考力を身に付けることを目標とします。
授業形態	講義
授業方法	教室での対面授業になります(春学期13回+秋学期13回=全26回)。授業形態は講義が中心になりますが必要に応じて質疑応答や討論などを取り入れます。授業を補完するツールとしてmanaba(授業支援システム)を利用します。manabaは、課題の提示と提出、テキストの内容の理解度を問う確認テストの実施、質問等の受け付け、授業資料の掲出、フィードバックの実施、授業情報の掲示、出席の確認、など多方面に援用します。
授業計画	<p>以下のようなスケジュールを予定しています。受講の状況や講義の進展に応じて、各回の内容や課題などについては変更する場合があります。基本的にはテキストに準拠し進めていく、春学期にテキストの1~7章を、秋学期に8~12章を学習し、年間を通じて全章をポイントを中心に学習します。</p> <p>【第1回】4月18日(春学期授業開始) <ガイダンス、経営学の概要> 内容:受講に際しての確認事項、テキストの概略、経営学とは何か、企業とは何か、経営学と経済学</p> <p>【第2回】4月25日 <企業の役割について考える>(第1部第1章 1~5ページ) 内容:身近な存在としての企業、生活のサポート、資源を用いての生産と創造、果たすべき責任</p> <p>【第3回】5月9日 <企業と社会との関係について考える>(第1章 5~13ページ) 内容:企業社会、ビジネス化、ライフスタイルの創造と革新、IT化とグローバル化</p> <p>【第4回】5月16日 <企業についてのさまざまな見方を理解する>(第2章 14~23ページ) 内容:企業に対する多様なイメージ、目標と存続・成長、企業はだれのものか、企業の分類、企業形態論</p> <p>【第5回】5月23日 <システム論と現代経営学について考える>(第2章 23~33ページ) 内容:オープン・システムとクローズド・システムという観点、システムとサブシステム、現代経営学の3つの主要な観点</p> <p>【第6回】5月30日 <行政やNPOとの関係について考える>(第3章 34~46ページ) 内容:グッド・ライフと行政、NPOと社会起業家、3つの主体としての企業・行政・NPO</p> <p>【第7回】6月6日(第1回理解度確認テストの実施(1・2・3章)) <企業を理解する多様な手段について知る>(第4章 47~60ページ) 内容:情報収集、企業情報、情報の加工度、情報の質量マトリックス、さまざまな隣接学問</p> <p>【第8回】6月13日 <経営者の仕事とはどのようなものかを知る>(第2部第5章 61~68ページ) 内容:伝統的な役割と革新的な役割、場とフィールド、階層の違いと仕事の違い</p> <p>【第9回】6月20日 <経営理念と人的資源に対する役割を学ぶ>(第5章 69~76ページ) 内容:トップの役割としての理念制定、ビジョンづくり、文化の醸成、組織メンバーの活用と育成</p> <p>【第10回】6月27日 <企業の仕組みを理解する>(第6章 77~81ページ) 内容:企業の成長過程、所有・経営・労働、統制の範囲、所有と経営の分離、大規模企業の特徴</p> <p>【第11回】7月4日 <企業の構造と統治について考える>(第6章 81~91ページ)</p>

	<p>内容: 階層と部門、意思決定、リーダーシップ、株式会社、ガバナンス</p> <p>【第12回】7月11日(第2回理解度確認テストの実施(4・5・6章)) <起業の意味と促進要因を理解する>(第7章 92~97ページ) 内容: アントレプレナー(シップ)、起業家の特徴、起業を促すさまざまな要因、インキュベーター</p> <p>【第13回】7月18日(春学期授業終了) <起業の3つの形態とポイントを理解する>(第7章 97~107ページ) 内容: ニューベンチャー、スタートアップ、ビジネス・プラン、起業の際の問題点 8月1日の春学期試験について留意すべき点を説明する。</p> <p>【第14回】10月3日(秋学期授業開始) <企業間関係の意味と3つのベースペクトイフを理解する>(第8章 108~115ページ) 内容: 関係とは、資源依存、依存回避の方法、取引コスト、学習、アウトソーシング</p> <p>【第15回】10月10日 <企業間関係の種類とグループ経営を理解する>(第8章 115~126ページ) 内容: 戦略と関係づくり、M&A、合併、買収、戦略的提携、合弁、グループ経営の代表例、戦略的グループ経営</p> <p>【第16回】10月17日 <経営戦略の役割と変遷を知る>(第Ⅲ部第9章 127~135ページ) 内容: 環境適応と戦略、戦略と戦術、代表的な定義、PPM、競争戦略、戦略と組織、戦略的経営</p> <p>【第17回】10月24日 <ドメインと競争戦略について考える>(第9章 135~138ページ) 内容: 戦略の体系化、企業戦略とドメイン、競争戦略とは何か、代表的な3つの基本競争戦略</p> <p>【第18回】10月31日 <競争地位別的基本戦略と製品のライフ・サイクルを学ぶ>(第9章 138~143ページ) 内容: 業界内の4つの地位と戦略、フォロワーとニッチャー、PLCの各段階と戦略</p> <p>【第19回】11月7日(第3回理解度確認テストの実施(7・8・9章)) <組織についての基本的な考え方を理解する>(第10章 144~148ページ) 内容: 組織成立の3要素、組織構造の決定要因、伝統的な管理原則</p> <p>【第20回】11月14日 <組織の代表的な形態を理解する>(第10章 148~153ページ) 内容: 職能部門別組織、事業部制組織、マトリックス組織</p> <p>【第21回】11月21日 <組織の実行性と人材・文化について理解する>(第10章 153~160ページ) 内容: プラット化、ネットワーク化、カンパニー制、人材の育成、文化の醸成、コミュニケーションの活性化</p> <p>【第22回】11月28日 <経営環境とは何か考える>(第11章 161~166ページ) 内容: 変容する現代の経営環境、オープン・システムと経営環境、組織と環境とのポーダー・ライン、バリュー・チェーンと境界</p> <p>【第23回】12月5日 <経営環境の分析と適応について考える>(第11章 167~178ページ) 内容: 環境の種類と把握、PEST分析、5つの力分析、内部環境分析、SWOT分析、VRIO分析、環境適応の課題</p> <p>【第24回】12月12日 <経営資源の役割と分類を学ぶ>(第12章 179~185ページ) 内容: 敵しい環境下での成功の理由、4つの経営資源の確認、情報的資源の中身、特性による資源分類</p> <p>【第25回】12月19日 <経営資源の配置・評価・活用を学ぶ>(第12章 186~194ページ) 内容: 価値連鎖から資源の配置を理解する、分析手法から資源を適切に評価する、資源の有効活用について</p> <p>【第26回】1月16日(秋学期授業終了)(第4回理解度確認テストの実施(10・11・12章)) <春・秋学期の総括> 内容: 春・秋学期の授業内容の中からとくに重要なポイントを再確認するとともに、今後の「経営学」の展望について述べる。 1月30日の秋学期試験について留意すべき点を説明する。</p>
事前・事後学修	事前学習としては、日頃から企業について関心を持ち、メディアを通じて発表される企業の戦略などの記事を読んだり、番組を視聴するなどして知識を得てください。そして、授業に積極的に取り組み、事後学習として受講後は記憶が新しいうちに必ず内容を復習するようにしてください。具体的には、授業で学習した理論的な知識をしっかりと身に付けるとともに、現実の企業の例にあてはめて考えるなど応用・発展を心掛けるようにし、理論と実践の両面から考える力を涵養してください。理解度確認テストやリポート課題などで理解のレベルを随時確認します。また、授業に関連したことで不明な点がある場合には些細なことでも結構ですので質問するようにしてください。
成績評価方法・基準	詳細は、春学期試験期間に実施する春学期試験(30%)、秋学期試験期間に実施する秋学期試験(30%)、レポート課題(20%)、理解度確認テスト(20%)、そして全回を通じての授業への出席、これらを総合的に評価した結果成績が確定します。対面授業全26回(春学期13回+秋学期13回)のうち、最低限2/3以上の出席が最終評価のために必須となります。出欠状況についてこの基準を満たしていない場合、試験などの結果如何にかかわらず単位取得が困難になるので注意してください。なお、評価についての詳細や変更点などがある場合は授業中に案内します。
教科書・指定図書	教科書⇒齊藤穀憲編著『経営学を楽しく学ぶ』第4版(中央経済社、2020年) ISBN 978-4-502-33781-9 受講者は必須となりますので開講時までに入手をお願いします。
履修上の留意点	積極的な学習への取り組みが必要になるとともに、出欠確認や提出物の締め切り等厳格に行いますので注意してください。また、亞大ポータルやmanabaに頻繁にアクセスして、授業の実施状況や課題・試験などの有無を必ず確認するようにしてください。105分間の授業時間中は集中して取り組み、真摯な姿勢で受講することが履修上の基本要件となります。経営や経済系の科目を履修していることが望ましいですが、本科目を履修するに際して必須となる科目はありません。
更新日	2023/03/16